



地域との協働による高等学校教育改革推進事業
〔 地域魅力化型 〕

研究開発実施報告書（第3年次）



令和5年3月
兵庫県立村岡高等学校

ちいき大好きプロジェクト ～郷土愛を育む「村岡メソッド」の開発～

但馬地域が輩出した日本のペスタロッチと言われた東井義雄。彼の「村を育てる学力」の理念は、現在の教育に通じる。本プロジェクトは、生徒が地域での学びを通して、「村(地域)を育てる学力」等を身につけるとともに、どの地域で暮らしてもふるさとを愛する、未来型人材の育成を行う。

村岡高校のある香美町の魅力

- 山・川・海の豊かな自然環境
- 但馬牛・マツバガニなど豊富なブランド食材
- スキー・登山など多様なアウトドアスポーツ施設

香美町の課題

- 若い世代の流出による人口減少の加速化と少子高齢化の進展
- 地域を支える担い手の高齢化による観光産業等の後継者問題
- 雪不足など気象変化の影響によるスキー以外の魅力づくり

村岡高校の目指す姿

地域を愛し、地域課題の解決に寄与する「人づくり」「地域づくり」

<研究開発の目標> 地域と連携、協働した実践的、体験的な取組が郷土愛を育むとともに、「人づくりネットワーク」を構築し、未来型人材を育成する「村岡メソッド」を開発する。

- | | | | |
|---------|-------------|-----------|--------------|
| 「考える力」 | 課題発見能力 | 課題解決能力 | 新たな価値を創造する能力 |
| 「行動する力」 | コミュニケーション能力 | コーディネート能力 | 議論する能力 |
| 「伝える力」 | プレゼンテーション能力 | 自己表現能力 | |

<学校設定教科 地域探求（地域アウトドアスポーツ類型）>

地域を知る

- ・観光施設経営者等による講義
- ・地域での調査実習
- ・地域関係者への提案

地域を深める

- ・地域での探究活動
- ・全国の地域づくりを学ぶ研修
- ・スポーツツーリズムの企画、提案

地域を創る

- ・卒業論文「私の地域活性化プラン」の作成・発表
- ・スポーツに関する資格取得
- ・HP等を活用した地域の魅力発信
- ・ふるさと教育・介護防止体操DVD・テキストによるふるさとの教育・健康の推進による郷土愛の育成
- ・町長と将来の町について語り合う

<村高発 地域元気化プロジェクト（全校生）>

8班（演舞・吹奏楽・食文化・環境A,B・地域福祉・紙漉き・集落調査）の地域協働活動、村高フォーラム（探究活動の成果発表・パネルディスカッション）総合的な探究の時間発表会（校内オンライン）

成果

- 「人づくりネットワーク」の構築
- ・地域活性を促す「成果物」の作成と活用→自己有用感
- ・卒業生とのネットワークづくり
- ・高校卒業後、地元で貢献したい生徒の割合82.9%

課題

- ・伸びしろ：ロジカルシンキング、グローバルな視点
- ・官民学協働のネットワークづくりのさらなる促進
- ・本校教育の特色・魅力・成果の効果的な発信

連携・協力・支援

コンソーシアム構成団体



卒業生ネットワーク構築による関係人口の増加

目指す生徒像

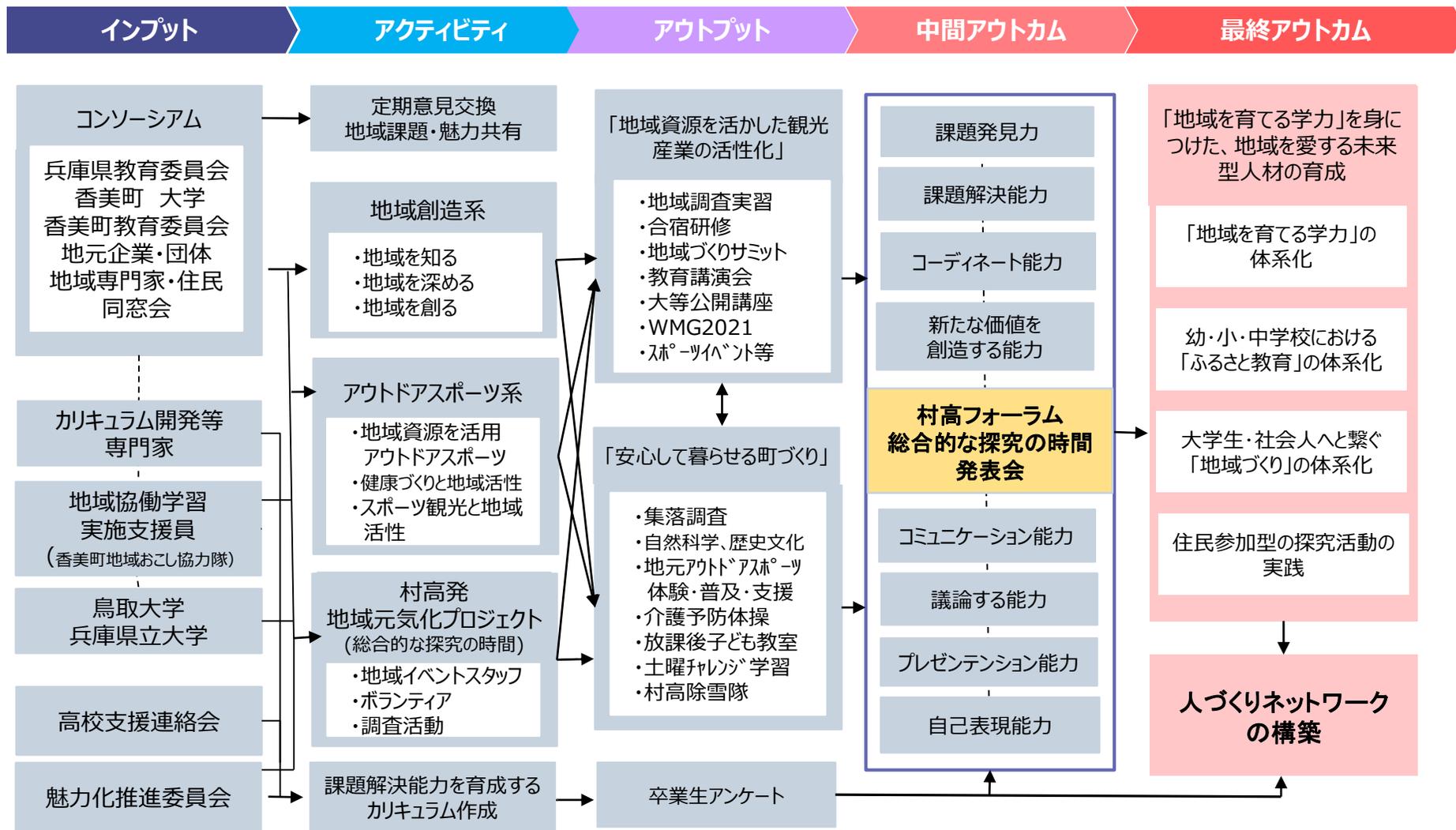
地域の現状を理解し、地域課題発見・解決に寄与する学びから「新たな地域資源を創造する」意欲を持つ生徒。

地域を育てる学力を身につけた、地域を愛する未来型人材の育成

つきたい能力

具体的取組

ちいき大好きプロジェクト ～郷土愛を育む「村岡メソッド」の研究開発



ビジュアルシート(取組みの様子)



地域創造系 地域学入門



地域創造系 地域学入門



地域創造系 地域学入門



地域創造系 地域学入門



地域創造系 地域探求 I



地域創造系 地域探求 I



地域創造系 地域探求 I (現地研修)



地域創造系 地域探求 I (現地研修)

ビジュアルシート(取組みの様子)



地域創造系 地域探求Ⅱ



地域創造系 地域探求Ⅱ



地域創造系 地域探求Ⅱ



地域創造系 地域探求Ⅱ



アウトドアスポーツ系 地域学入門



アウトドアスポーツ系 地域学入門



アウトドアスポーツ系 地域学入門



アウトドアスポーツ系 地域学入門

ビジュアルシート(取組みの様子)



アウトドアスポーツ系 地域スポーツ I



アウトドアスポーツ系 地域スポーツ I



アウトドアスポーツ系 地域スポーツ I



アウトドアスポーツ系 地域スポーツ I



アウトドアスポーツ系 地域スポーツ II



アウトドアスポーツ系 地域スポーツ II



アウトドアスポーツ系 地域スポーツ II



アウトドアスポーツ系 地域スポーツ II

ビジュアルシート(取組みの様子)



総合的な探究の時間 民芸班



総合的な探究の時間 民芸班



総合的な探究の時間 紙漉き班



総合的な探究の時間 紙漉き班



総合的な探究の時間 吹奏楽班



総合的な探究の時間 吹奏楽班



総合的な探究の時間 食文化班



総合的な探究の時間 食文化班

ビジュアルシート(取組みの様子)



総合的な探究の時間 環境A班



総合的な探究の時間 環境A班



総合的な探究の時間 環境B班



総合的な探究の時間 環境B班



総合的な探究の時間 地域福祉班



総合的な探究の時間 地域福祉班



総合的な探究の時間 集落調査班



総合的な探究の時間 集落調査班

ビジュアルシート(取組みの様子)



村高フォーラム2022



村高フォーラム2022



香美町長講演会



香美町長講演会 (ワークショップ)



教育講演会



教育講演会 (ワークショップ)



村高除雪隊



村高除雪隊

ビジュアルシート(取組みの様子)



村岡ダブルフルウルトラランニングスタッフ



村岡区区長協議会との懇談会



スピーチ 授業風景



冒険教育 授業風景
(ラペリング：懸垂下降)



総合的な探究の時間 発表会



総合的な探究の時間 発表会



アウトドアスポーツ



全国募集

アウトドアスポーツと地域活動を学ぶ

～普通科・地域アウトドアスポーツ類型～



地域創造



兵庫県立

村岡高等学校

〒667-1311 兵庫県美方郡香美町村岡区村岡2931
(TEL) 0796-94-0201 (FAX) 0796-94-0203
(HP) <https://www.hyogo-c.ed.jp/~muraoka-hs/>



兵庫県美方郡香美町より
下宿補助制度あり
(4万円/月)



地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）

研究開発実施報告書（第3年次）

巻頭言

兵庫県立村岡高等学校長 牧野 徹

2020（令和2）年から研究指定を受けている「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」も最終年が終わりました。村岡高校では、この研究指定の15年ほど前から「地域との協働」を核に、学校の特色化・魅力化と地域の活性化を重ね合わせて活動してきました。

2005(H17)	村高フォーラム	【活動の開始時期】
2011(H23)	地域創造類型設置、教育講演会	
2012(H24)	地域創造系合宿研修、鳥取大学公開講座 あいさつ運動、中高合同部活練習会（インスパイア事業）	
2013(H25)	学校運営連携協議会設置（コミュニティスクール構想） 村高発地域元気化プロジェクト、地域マラソンスタッフ 総合的な探究の時間発表会、町長講演会	
2014(H26)	地域アウトドアスポーツ類型改編 教育コーディネーター（香美町地域おこし協力隊）配置 香美町高校支援連絡会（町企画課・町教委・高校・地域おこし協力隊） 土曜チャレンジ学習事業（サタチャレ）、いそっ子教室（放課後こども教室）	
2016(H28)	射添小学校紙漉き授業	
2017(H29)	高校生による地域づくりサミットin但馬	
2020(R02)	文科省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」	
2021(R03)	卒業生「ヒーローインタビュー」	

特に、地域アウトドアスポーツ類型改編に連動して多くの活動が動き出しましたが、それらは内容や実施形態を進化させながら、現在も継続されています。もともと、本事業は、村岡高校が既にスタートさせている地域協働を発展・進化させる機会と捉えています。従って、研究指定が終了することで、「何かが終わる」ということはなく、時代の流れ、学校を取り巻く地域の環境や課題、現在そして未来の村高生のニーズ等に合致した、「地域系高校」と呼ばれる地域協働を軸とした高等学校の最先端を歩み続けていきます。

令和4年度はスクール・ポリシーを策定・提示することで、「村岡高校のあり方」について改めて整理することができました。グラデュエーション・ポリシーにおける育成を目指す人物像は「『人みな使命あり』の教育指針のもと、地域を学びのフィールドとした高校生活を通して、創造的に地域と協働できる人物」としています。さらに、カリキュラム・ポリシーの中に「ガクチカの蓄積」を盛り込みました。村岡高校でしか体験できない活動を、ガクチカ（学生時代に力を入れたこと）として自らの経験値を高め、それを国公立大学進学等のそれぞれ個に応じた進路実現に活かしていきます。

よく、地域系高校で誤解されていることですが、高校の目的は「地域活性化」ではありません。あくまで、生徒の育成です。村岡高校は、3年間の高校生活で真剣に地域活性化に向き合うことで、将来の地域との関わり方、自らの立ち位置を確立していき、それらを実行するための資質・能力を身につけていきます。地域を学びのフィールドとすることで、地域に活気があふれ、地域の未来を担う人材の育成が、これからの地域の活性化につながっていきます。

今後も、村岡高校は、「地域に学び、地域とともに協働し、地域になくてはならない学校」を目指します。特に、アドミッション・ポリシーで掲げている「なにを学ぶか」（ガクチカを蓄積した経験値）、「だれと学ぶか」（全国募集と地元講師の多様性）、「どこで学ぶか」（大自然豊かな地域全体が学びの場）といった『村岡高校にしかない学び』を改めて大切にしていきたいと考えています。これからも、村岡高校の教育活動にご理解を賜り、ご協力いただきますようお願いいたします。

目 次

ビジュアルシート

巻頭言

目次

1 研究開発の概要	1
(1) 学校の概要	2
(2) 研究開発の概要（地域との協働による高等学校教育改革推進事業）	5
(3) 3年間の授業の流れ（村岡高校文科省指定事業）	7
2 研究開発実施状況報告	8
(1) 研究開発実施状況報告書	9
(2) 目標設定シート	18
3 研究開発の内容	
(1) 各授業の実践	19
(ア) 地域アウトドアスポーツ類型 地域創造系	20
a 地域探求 地域学入門	
b 地域探求 地域探求Ⅰ	
c 地域探求 地域探求Ⅱ	
(イ) 地域アウトドアスポーツ類型 アウトドアスポーツ系	26
a 地域探求 地域学入門	
b 地域探求 地域スポーツⅠ	
c 地域探求 地域スポーツⅡ	
(ウ) 「村高発 地域元気化プロジェクト」	32
協働のまちづくり（1年）、総合的な探究の時間（2、3年）	
a 民芸班	b 吹奏楽班
c 食文化班	d 環境班A班
e 環境B班	f 地域福祉班
g 紙漉き班	h 集落調査班
(エ) 表現「スピーチ」	48
(2) 成果の普及・広報	49
①村高フォーラム	
②総合的な探究の時間発表会	
③成果物	
④新聞掲載記事	
⑤地域ケア研究会発表	
⑥HYOGO×WKC フォーラム高校生 SDGs 探究発表会	
⑦ヒーローインタビュー	
⑧その他（地域みらい留学 等）	
(3) 運営指導委員会及びコンソーシアム会議報告	63
4 評価・分析	80
(1) つきたい能力・生徒アンケート	
(2) 生徒アンケート集計結果	
(3) 評価・分析	
5 その他 関係資料	91
・高校魅力評価システム 組織診断ポートフォリオ	
・令和4年度実施教育課程表	98

1 研究開発の概要

(1)学校の概要

(2)研究開発の概要

(地域との協働による高等学校教育改革推進事業)

(3)3年間の授業の流れ(村岡高校文科省指定事業)

1 研究開発の概要

(1) 学校の概要

ア 学校名・校長名

- 1) 学校名 兵庫県立村岡高等学校
- 2) 校長名 牧 野 徹

イ 所在地

- 1) 所在地 〒667-1311 兵庫県美方郡香美町村岡区村岡 2931
- 2) 電話番号 0796-94-0201
- 3) FAX 番号 0796-94-0203
- 4) URL <http://www.hyogo-c.ed.jp/~muraoka-hs/>

ウ 学校の基本理念

(ア) 校訓 英知 自律 友愛

(イ) 教育方針

- a 地域に学び、知識と知恵を身につけ、地域と協働する創造的な人材を育てる。
- b 学校と地域の活動の中で、自律の精神を養い、規範意識と自己統制力を育てる。
- c 学校と地域の活動の中で、豊かな心を培い、敬愛と協調の態度を育てる。

エ 目指す学校像と重点目標

目指す学校像	重点目標
地域の学校	地域での学びをさらに充実させ、地域を支え元気にする人材を育成する。
自ら学ぶ学校	自ら進んで学び、議論・提案できる力を育成する。
心豊かな学校	協働的な学びの中で豊かな人間性を育てる。

オ 本校の研究テーマ

(ア) 文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」(地域魅力化型)

『ちいき大好きプロジェクト』 ～郷土愛を育む「村岡メソッド」の開発～

(イ) 高校生ふるさと貢献・活性化事業

a 活動のねらい

- ・地域協働活動を通じて、「地域を愛し、地域に愛される学校づくり」を推進する。
- ・地域の人々や近隣の中学校、小学校との交流の場を作り、地域に開かれた特色ある学校づくりを推進する。
- ・「総合的な探究の時間」「ボランティアサークル」を中心に福祉施設等を訪問し、高齢化の著しい地域でのボランティア活動を行い地域社会に貢献する。また、地域の清掃活動に積極的に取り組み、地域協働活動の機運と意欲を高める。

b 内容

- ・村高発 地域元気化プロジェクト(総合的な探究の時間)
- ・あいさつ運動
- ・海の日親子ボランティア
- ・ボランタリー村高
- ・オープンスクール

(ウ) 高校生就業体験事業

a 活動のねらい

- ・志望理由書、自己推薦書を通して自分を見つめ、進路決定を確かなものとする。

- ・就職希望者の地域企業でのインターンシップを実施し、勤労観を醸成する。
- ・専門学校講師による職業分野別体験を行い、職業についての知識と理解を深め、就業意識を高める。
- ・大学・短大・専門学校・企業の見学会や授業体験会を実施し、高等教育機関と職業について体験的に学ぶ。

b 内容

- ・総合型・学校推薦型入試対策講座
- ・ハローワーク講師による面接指導
- ・大学・専門学校・公務員講師による分野別職業体験
- ・インターンシップ
- ・ふれあい看護体験、ふれあい育児体験
- ・但馬地区事業所見学会、但馬地区高校内企業説明会参加

(エ) 高校生特色づくり推進事業

a 活動のねらい

- ・地域と連携し、本校の活性化・特色化を推進すると同時に地域の活性化について調査研究を行う。
- ・小、中学校との連携を密にし、地域に開かれた特色ある学校づくりを推進する。

b 内容

(a) 学校運営連携協議会の開催（年2回）

- ・地域の有識者で構成した「学校運営連携協議会」を開催し、本校の課題並びに活性化策について協議する。また、学校運営連携協議会を受けて、「連絡調整会（高校支援連絡会）」（毎月1回）を開催し、取り組みの具体化を図る。

(b) 公開講座の開催

- ・公開講座（地域探求等）を開催し、地元講師、大学講師を招いて、地域を知り、地域を研究し、地域へ提言する探求活動を行う。

(c) 「教育講演会・高校生による地域づくりサミット」の実施

- ・本校生、地域住民、但馬内高校生が広く参加できる教育講演会・高校生による地域づくりサミットを実施し、地域団体・但馬地区高校等と協働した地域活性化活動の実践交流会を行う。

(d) 「地域探求・総合的な探究の時間発表会、村高フォーラム」の開催

- ・地域の方々の意見を幅広く聞く場を設け、村岡高校はもとより、地域も活性化する方策についての討論会を行う。また地域探求・村高発地域元気化プロジェクト実践発表会を行う。

(e) 小・中学校や地域との連携事業の推進

- ・地元関係団体や大学と連携して、地域調査および地域活性化の取り組みを積極的に推進する。
- ・SDGs をキーワードにして持続可能な地域社会の実現へ向けて、「食でつなぐ人と地域」をテーマに地域・大学と協働して、その方策を探究する。
- ・マーケティングを活用した地域づくり
香美町・町教育委員会・商工会等と連携して、地域資源の活用およびゴミ削減、リサイクル等の環境活動による地域活性化、地域づくりを学び、マーケティング手法により「ひと・もの・こと」の魅力発信の具体的方策を探究する。
- ・「ワールドマスターズゲームズ関西」を舞台に「地域づくりの視点」「スポーツ観光の視点」「健康づくりの視点」から探究活動を展開する。
- ・「健康づくりと地域活性」をテーマに介護予防体操の普及・改善について香美町福祉課と連携して探究・実践する。

- ・射添紙復活に向けて、和紙デザイナー・地域住民とともに新商品の開発等に取り組み、地域住民や小中学生への広報・普及活動を行う。
- ・棚田保全活動
香美町農林水産課、県民局と連携して棚田の保全、土壌調査及び観光資源としての研究と棚田米の広報。また、地滑り対策と後継者対策について広報・普及活動を行う。
- ・森の健康診断の実施
香美町農林水産課・北但西部森林組合と連携して、人工林調査と間伐材などの森林資源の有効利用について調査・研究を行う。
- ・集落の魅力発信プロジェクトの実施
香美町内の小規模集落を中心に、調査活動を行い、高校生の視点で集落の魅力を発見し、発信していく。
- ・合同芸術祭・湯舟川コンサートの実施
本校及び中学校の吹奏楽部の演奏、地域の伝統芸能の披露、本校文化部の活動内容を発表する総合文化祭を開催し、地域、生徒の文化活動の向上を図る。
- ・部活動連携の実施
近隣の中学校と本校で合同部活動練習会を実施する。また、専門指導者を招いて技術指導を受ける機会を設ける。
- ・あいさつ運動の実施
香美町教育委員会が提唱する3つの町民運動の中の「あいさつ運動」を、小中学校PTAや香美町教育委員会と連携し、生徒会を中心に毎月1回実施する。

(オ) 高等学校における通級による指導

- ・全生徒に対応した全教員によるICT等を活用した、わかりやすいユニバーサルな授業の実施とその研修を積極的に推進する。
- ・学習サポート(授業における配慮・支援、個別の補充等)、面談による困り感への支援による生徒一人ひとりへの配慮を充実させる。
- ・通級による認知特性に応じたソーシャルスキル、ライフスキル等の指導を充実させる。
- ・普通校における「高等学校の通級による指導」を普及させるための教育課程等の整備を行う。

(カ) オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業

- ・オリンピック・パラリンピックについて学ぶ中で、スポーツの価値や精神を理解させる。
- ・スポーツ講演会や事前学習・振り返りを通じて共生社会を理解する能力と態度を養う。

(2) 研究開発の概要 地域との協働による高等学校教育改革推進事業

指定期間	ふりがな	ひょうごけんりつむらおかこうとうがっこう				②所在都道府県	兵庫県
令和2年～ 令和4年	① 学校名	兵庫県立村岡高等学校					
③対象学科 名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	各学年2クラス 合計6クラス	
普通科	42	40	54		136		
⑥研究開発 構想名	ちいき大好きプロジェクト ～郷土愛を育む「村岡メソッド」の開発						
⑦研究開発 の概要	地域活性の核としての高校の拠点機能化を推進し、地域における「人づくりネットワーク」の構築を図る。その上で、地域課題の解決等に資する学習を官民学協働で体系的に実施し、生徒の郷土愛を育み「地域を育てる学力」を形成する。また、本事業の評価及び卒業生の就職状況調査を分析し、その取組の具体的な検証と評価方法を開発する。						
⑧研究 開発 の 内容 等	⑧ -1 全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>開発する「村岡メソッド」の「地域を育てる学力」とは、科学的概念と生活的概念が統一された、「生活の中で生きて働く学力」、「主体性や生きる意欲をともなった学力」のことを指す。したがって、地域住民とともに地域課題を実践的に解決するプロセス（地域づくりの過程）を通して「地域を育てる学力」は育まれると考える。</p> <p>本研究は、生徒自らが発見した魅力を活用した地域課題の解決策を考案し、実践することにより、既存の知識を状況に応じて再構成しながら、よりよい未来を創出する基礎力である「地域を育てる学力」を育むことを目的とする。また、それらに寄与する学びから「新たな地域資源を創造する」意欲を持つ生徒を目指す。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>【現状の分析】</p> <p>本校は、兵庫県の北西部の中山間地域に位置し、県下でも有数の豪雪地域である香美町に設置されている。この地域には、スキー場などのアウトドアスポーツを楽しめる設備が多く、かつては、多くのスキー客が訪れ、町内は活気に満ちていた。しかし、スキー客の減少、高齢化や町内人口の減少により、町の活力が課題となっている。</p> <p>そのため本校では、高校生の視点で地域の課題を発見し、地域課題の解消を目指す取組を2011年度より推進してきた。また、2013年度からは、全校生による「村高発地域元気化プロジェクト」を立ち上げ、翌年度には「地域創造系」と「アウトドアスポーツ系」の2系列を設置することで、地域に学び、地域と協働する学校づくりを進めてきた。しかし、より実践的に課題解決能力を培うためには、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」を活用して新たなコンソーシアムを設置し、組織的、継続的に地域と一体となった「地域づくり」と「人づくり」を一層進める必要がある。</p> <p>【研究開発の仮説】</p> <p>本研究は、地域に学び地域との協働活動を実践する学校として、探究活動、課題研究を自治体や地域住民と進めていく。その活動の中で、地域の現状を理解し、地域課題発見・解決に寄与する学びから「新たな地域資源を創造する」意欲を醸成させることで、自律的な態度で社会と関わり続け、既存の知識を状況に応じて再構成しながら、よりよい未来の創出することができる「地域を育てる学力」を獲得できる。</p> <p>「地域を育てる学力」は、生徒の将来に渡って、主体的に地域のポテンシャルを見いだし、地域活性化に協働、参画する資質・能力として具現化され、当該資質・能力をさらに培うことで、それぞれの「ちいき」を愛し、地域を育てる学力を身につけた、地域を愛する未来型人間の育成につながる。</p>					

<p>⑧ -2 具 体 的 内 容</p>	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p>地域課題の解決につながる探究活動を、多くの地域住民と協働して取り組むためには、地域が抱える課題を正確に捉えるとともに、その課題が香美町の考える課題、地域住民が考えている課題と共通するものであることを見極める必要がある。</p> <p>そのため本校では、多くの地域住民が参加可能な「自然や暮らし（地域資源）を活かした観光・レクリエーション産業の活性化」、「安心して暮らせるまちづくり」の2つを探究テーマとして設定している。以下の2点を実施する。</p> <p>①「ふるさと教育」と「地域を育てる学力」の体系化</p> <p>香美町内の幼・小・中学校で行われている「ふるさと教育」を、高校で実施する「地域を育てる学力」として体系化し、さらに大学生段階・社会人段階へと繋ぎ、地域づくりの循環経路をつくる。</p> <p>②新たな「人づくりネットワーク」を目指した住民参加型の探究活動の実践</p> <p>学校で得られる科学知を、地域の生活知と関連づけて理解するとともに、地域に存在する生活知や生徒自身も持っている生活知を、科学の知識体系の中で理解する学習が必要となる。そのため、地域における人との関わりを豊かにする活動が不可欠であり、多くの地域住民が参加可能な探究テーマを設定することが重要である。これらを実現すべく以下のような地域課題に取り組み、官民学協働での「人づくりネットワーク」を構築しつつ、「地域を育てる学力」の形成を図る。</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <p>カリキュラム・マネジメントの推進にあたっては、校長のリーダーシップのもと、各関係機関との連携・協力を得て、校内ビジョン統括会議メンバーが、以下のようなPDCAサイクルのもと、評価・検証し教育内容の質の向上ために見直し、改善を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>P（計画）</u>：校内ビジョン統括メンバーを中心として、育成する資質・能力を学校全体で明確化し、カリキュラム開発専門家の助言を受け、教育内容の組織化を図る。上記の教育目標・内容は、学校運営連携協議会、高校支援会議等を通じて、地域社会との共有化を図る。 ・ <u>D（実施）</u>：担当教員が連絡・調整を図りながら、教育課程全体の有機的つながりを意識した教育実践を展開する。その際、地域協働学習実施支援員（教育コーディネータ：香美町地域おこし協力隊）を中心として、地域の人的・物的資源の活用を推進する。 ・ <u>C（評価）</u>：生徒のパフォーマンスの総体的な評価活動、地域住民の意識調査（アンケート、ヒアリング等）を実施する。評価活動と調査の結果に基づき、目標とした資質・能力育成の達成状況を、教育方法論を専門とする大学教員等を交えて検証する。 ・ <u>A（改善）</u>：校内ビジョン統括会議メンバーを中心としつつ、全教員（ビジョン委員会）で生徒と地域の実態を踏まえた教育実践の改善・充実を図る。上記の取組は、コンソーシアムや高校支援会議、地域政策学や地域教育学を専門とする大学教員等との意見交換を反映させつつ、随時弾力的に実施していく。また、研究成果報告会を開催し、検証を行い、全国サミットへも積極的に参加し、次年度に向けての改善・充実につなげていく。 <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特になし</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>事業後にも持続性するために</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 卒業後も講師、スタッフとして授業に参画しネットワークの一員になる。 ② 「村高フォーラム」を通して活動成果や「地域を育てる学力」の普及を小中学校、但馬地域の高校にも継続して行う。 ③ 町と連携し、提案した方策を町の事業として継続できるレベルとすることを目指す。 ④ 「人づくりネットワーク」を発展させ、地域人材の育成、強化を図る。

村岡高等学校文科省指定事業 3年間の授業の流れ

ちいき大好きプロジェクト ～郷土愛を育む「村岡メソッド」の開発～

村岡高校のある香美町の魅力

- ・豊かな自然環境
- ・豊富なブランド食材
- ・多様なアウトドアスポーツ施設



村岡高校のある香美町の課題

- ・人口減少と少子高齢化
- ・観光産業等の後継者問題
- ・従来の新たな魅力づくり



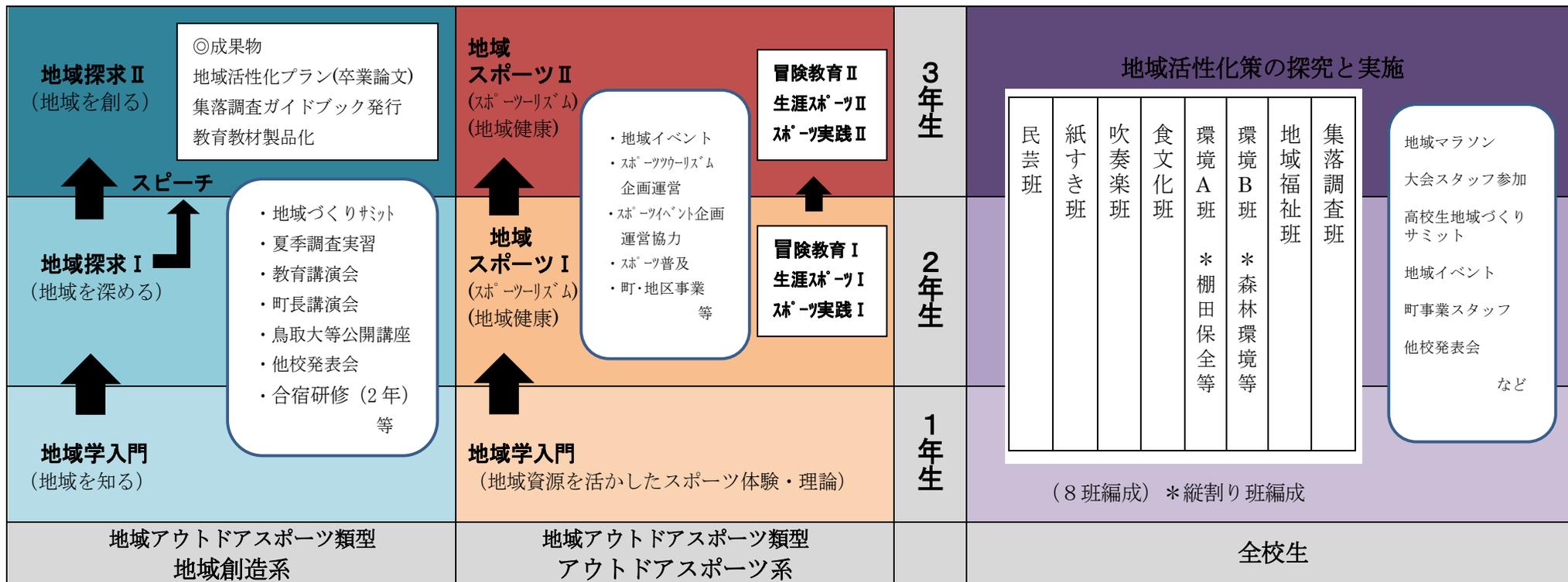
村岡高校の目指す姿

「人づくり」・「地域づくり」

- ・地域を育てる学力を身に付けた、地域を愛する未来型人材の育成
- ・新たな地域資源を創造する意欲を持つ生徒の育成

学校設定教科

総合的な探究の時間



成果の発表・地域への発信

村高フォーラム(プレゼンテーション・ポスターセッション・パネルディスカッション等) 10月
総合的な探究の時間発表会(プレゼンテーション) 3月

2 研究開発実施状況報告

(1)研究開発完了報告書

(2)目標設定シート

2 研究開発実施状況報告

(1)研究開発完了報告書

住所 神戸市中央区下山手通 5-10-1
管理機関名 兵庫県教育委員会
代表者名 教育長 藤原 俊平

1 事業の実施期間

令和4年4月12日（契約締結日）～ 令和5年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 兵庫県立村岡高等学校
学校長名 牧野 徹
類型 地域魅力化型

3 研究開発名 ちいき大好きプロジェクト～郷土愛を育む「村岡メソッド」の開発～

4 研究開発概要

地域活性の核として、高校の拠点機能を強化し、地域における「人づくりネットワーク」の構築を図る。その上で、地域課題の解決等に資する学習を官民学協働で体系的に実施し、生徒の郷土愛を育み、「地域を育てる学力」を形成する。また、本事業の評価及び卒業生の就職状況調査を分析し、その取組の具体的な検証と評価方法を開発する。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
岩切玄太郎	兵庫県企画部総合企画局計画課長	関係行政機関
新谷 浩一	兵庫県教育委員会高校教育課長	関係行政機関
今井 雄治	香美町副町長	関係行政機関
川戸 英明	香美町企画課長	関係行政機関
清水 幸信	香美町教育委員会教育総務課長	関係行政機関
山根 俊喜	鳥取大学副学長	学識経験者
横山 真弓	兵庫県立大学教授	学識経験者
西村 功	香美町民生委員・児童委員協議会長	地域住民
入江 善博	株式会社入江産業代表取締役	地域住民

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

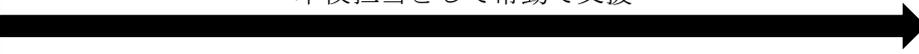
機関名	機関の代表者
兵庫県教育委員会高校教育課	課長 新谷 浩一
香美町教育委員会教育総務課	副課長 山田 貴広
香美町企画課	副課長 今西 勝彦
兵庫県立村岡高等学校	校長 牧野 徹
兵庫県立村岡高等学校同窓会	前会長 西村 芳和
鳥取大学地域学部	教授 筒井 一伸
NPO法人TUKULU	代表 松岡 大悟
うづかの森（民間企業）	代表 西村 昌樹
やまもり村岡（民間団体）	代表 上田 治

8 カリキュラム開発専門家，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	筒井 一伸	鳥取大学地域学部教授	都度依頼・謝金支払い
地域協働学習支援員	高橋 大蔵	香美町地域おこし協力隊	香美町企画課 会計年度任用職員

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会 コンソーシアム会議	組織		開催				開催					開催
カリキュラム開発専門家							研修					研修
地域共同学習支援員	本校担当として常勤で支援 											

(2) 実績の説明

活動日程	活動内容
令和4年4月12日	運営指導委員会、コンソーシアムを組織
令和4年6月30日	第1回会議 ・事業方針の説明、今後の事業内容に対する指導助言 ・会議日程について協議
令和4年10月8日	・「総合的な探究の時間、地域探求発表会」を見学 第2回会議（アンケート形式） ・発表枚葉や生徒取組についてのアンケートによる指導助言 ・村高フォーラム2022での基調講演「ソーシャルマーケティングとしての地域探求」とパネルディスカッション「地域と学校／学びが地域を創る」を参観

令和5年3月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間発表会」を見学（オンライン形式） 第3回会議 ・今年度の取組について成果・評価・課題の総括及び指導助言 ・指定終了後の取組について概要説明、協力体制についての打合せ
----------	--

- ・運営指導委員会及びコンソーシアム会議に担当指導主事を派遣し、大学・企業・関係機関等の専門家と事業運営に関して意見交換をするとともに、事業評価を踏まえた指導や助言を行った。
- ・探究活動の成果発表会に担当指導主事を派遣し、探究活動に関する指導や助言を行った。
- ・国費に加え、県事業「県立高校特色づくり推進事業（インスパイア・ハイスクール）」での追加予算を行い、事業の充実を財政面で支援した。
- ・研究終了後は、学校の特色づくりや取組継続に関する指導や助言を行うとともに、県事業に位置づけた一定の財政支援を行う予定である。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校設定科目 地域創造系の探究活動												
学校設定科目 アウトドアスポーツ系の探究活動												
総合的な探究の時間 「村高発地域元気化プロジェクト」												

(2) 実績の説明

① 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

ア 地域創造系の探究活動

「自然や暮らし（地域資源）を活かした観光・レクリエーション産業の活性化」、
「安心して暮らせるまちづくり」をテーマに、香美町の実情を把握し、高校生の視点で新たな価値観を見だし、課題解決する学びを通して「地域を育てる学力」を系統的に高めることを目的に活動した。

《地域学入門（1学年）テーマ「地域を知る」》

- ・オリエンテーション、導入 4月
- ・但馬の植生調査（講義、調査）地元講師 菅村 定昌 氏 6、7月
- ・水生昆虫調査（講義、実習）地元講師 西田 昭夫 氏 7、8月
- ・但馬の地質調査（講義、実習）地元講師 三木 武夫 氏 8月
- ・海洋生物、地層調査（講義、スノーケリング、シーカヤック実習）
地元講師 本庄 四郎 氏 8月
- ・獣被害について（講義）兵庫県立大学 教授 横山 真弓 氏 8月
- ・村岡の歴史調査（講義、実習）地元講師 石松 崇 氏 10、11月
- ・「地域探求・総合的な探究の時間発表会」
プレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿作成・ポスター作成、
発表準備 10月
- ・地域を知る（講義、プレゼンテーション）

- 「八幡山公園の散策および石像物を通した歴史・文化の学習」
鳥取大学地域学部講師 アレクサンダー・ギンナン 氏 12～3月
- ・コミュニケーションワークショップ
芸術文化観光専門職大学専任講師 田上 豊 氏 7、12月
- ・ビジョン出前講座「ひょうごビジョン2050について」
但馬県民局地域政策室協働推進課（ビジョン担当）班長 濱名 良輔 氏 11月

《地域探求Ⅰ（2学年）テーマ「地域を深める」》

- ・オリエンテーション 4月
- ・聞き取り調査「ふるさと給食」（講義、グループ討論）
香美町教育委員会教育総務課主幹 山根 孝枝 氏 5月
- ・テーマ「食とつなぐ人と地域」
鳥取大学地域学部 准教授 石山 雄貴 氏
- ・長野県阿智村で2泊3日の研修を実施 7月
阿智村概要、駒場まち歩き、五平餅づくり、地域の若者と交流、星空のまち概要、鳥獣害対策・6次産業化・高原トウモロコシ畑見学、ごか食堂の取り組み、堆肥センター・産業振興公社現地研修、調査研究プレゼンテーション、満蒙開拓平和記念館見学
- ・「地域探求・総合的な探究の時間発表会」
プレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿作成・ポスター作成
発表準備 10月
- ・グループ討議、プレゼンテーション等による今後の探求内容の協議 12～3月
- ・コミュニケーションワークショップ
芸術文化観光専門職大学専任講師 いしい みちこ 氏 12月

《地域探求Ⅱ（3学年）テーマ「地域を創る」》

- a テーマ「ひと・もの・こと」魅力発信大作戦
鳥取大学地域学部准教授 白石秀壽 氏
 - ・4班に分かれてプラン作成（ワークショップ）、プレゼンテーション、協議
5～7月
 - ・班別活動（現地調査、モニタリング調査、動画撮影等）
現地調査協力：吉滝キャンプ場経営 西村 太一 氏、
香美町商工会事務局長 田畑 善延 氏、株式会社奥但馬社員 今井 志朗 氏、
スミノヤゲストハウス経営 田尻 茜 氏 8～2月
 - ・「地域探求・総合的な探究の時間発表会」
プレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿作成・ポスター作成
発表準備 10月
- b 卒業論文「私の地域活性化プラン」
原稿作成、校正（担当教員による指導）7～1月

《地域創造系全体の取組》

- a 地域創造系夏季調査実習（総合的な探究の時間とリンク）
集落の魅力発信プロジェクト「むらの風景 vol. 5」におけるインタビュー調査
（協力アドバイザー）
カリキュラム開発専門家：鳥取大学地域学部教授 筒井 一伸 氏 8～9月
- b 地域探求講演会（町長講演会）
香美町の代表者による現状と課題に関する講演
グループ討議「若者のU・Iターンを増加させるために必要な施策を考える」

- 講師 香美町長 浜上 勇人 氏 7月
- 助言者 鳥取大学地域学部教授 塩沢 健一 氏
- c コミュニケーションワークショップ
芸術文化観光専門職大学専任講師 平田 知之 氏 7月
- d 神戸市立葺合高等学校生徒との意見交換会 12月

イ アウトドアスポーツ系の探究活動

「自然や暮らし（地域資源）を活かした観光・レクリエーション産業の活性化」を目指し、地域固有のレクリエーション資源（自然）を学び、アウトドアスポーツの魅力が伝えられるリーダー育成に必要な知識・技術を身に付けるとともに、アウトドアスポーツイベントの運営に必要な知識・手法を学び、香美町教育委員会・民間企業等と連携した企画を立案、実施するなど、より実践的な学びを行った。

《地域学入門（1学年）》

- テーマ「地域資源を活かしたアウトドアスポーツ体験」「スポーツ基礎理論と実践」
- a オリエンテーション（「私のお勧めのアウトドアスポーツ」をテーマにしたプレゼンテーション、レポートの作成方法等）4月
- b 地域の自然を知る（美方高原自然の家「とちのき村」職員による指導）
 - ・デイキャンプ 講師 小林 祐二 氏 4月
 - ・チャレンジラペリング 講師 西垣 幸造 氏 11月
- c スポーツ理論（履正社国際医療スポーツ専門学校教員による指導）
 - ・鍼灸師 講師 藤 仁 氏 6月
 - ・インストラクター 講師 大江 信一郎 氏 6月
 - ・柔道整復師／理学療法士 講師 田中 雅博 氏／川瀬 和大 氏 6月
 - ・栄養学 講師 下村 有佳里 氏 10月
 - ・スポーツトレーナー 講師 南 遥夏 氏 11月
- d 探究テーマ検討
 - ビジネス手法を取り入れた地域活性につながるイベント企画について
 - ・スポーツツーリズムの推進
講師 香美町教育委員会生涯学習課 田中 利彦 氏 1月
 - ・オリエンテーリング概論
講師 香美町教育委員会生涯学習課 田中 利彦 氏 2月
 - ・自然環境とスポーツ活動について 講師 鳥取大学准教授 関 耕二 氏 3月

《地域スポーツⅠ（2学年）》

- テーマ「健康づくりと地域活性（介護予防体操による身体機能改善）」
- a 元気体操普及活動
 - ・リハーサル 5月
 - ・村高元気体操講習会の実施
東上公民館、忠宮集会所、兎塚公民館（いずれも地区の高齢者対象）
香住文化会館大会議室（地域指導者対象）6、7月
- b 元気体操創作活動 元気体操～南中ソーラン編立位バージョンの創作～
 - ・香美町福祉課より改良点を指摘していただき、内容のブラッシュアップを図る
講師 鳥取大学准教授 関 耕二氏、香美町福祉課 山本美樹氏 1～3月
- c 地域ケア研究会実践報告発表
 - ・但馬圏域の保健・医療・福祉等の地域ケア関係者が会する場での意見交換 2月
- d 「地域探求・総合的な探究の時間発表会」
プレゼンテーションやポスターセッションに向けた原稿作成・ポスター作成、

発表準備 10月

《地域スポーツⅡ（3学年）》

テーマ「オリエンテーリングの普及及び教育的効果」

- a オリエンテーリング普及活動
 - ・1年生対象の体験会実施 講師 鳥取大学准教授 関 耕二 氏 6月
 - ・村岡区中央公民館「土曜チャレンジ学習」参加の小学生対象に体験会実施 講師 香美町教育委員会 田中 和彦 氏・村岡区公民館 邊見 穰 氏 8月
 - ・「村高フォーラム」にて体験会実施 10月
- b オリエンテーリング大会に競技者として参加
 - ・みかた残酷マラソン前日のオリエンテーリング大会 6月
- c 「地域探求・総合的な探究の時間発表会」
プレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿作成・ポスター作成、
発表準備 9～10月
- d 報告書作成 12～2月

ウ アウトドアスポーツ系全体の取組（総合スポーツ学）

- a 冒険教育 テーマ「地域の自然を活かしたスポーツインストラクター資格取得」
 - ・ツリーイング、キャンプ、レクリエーション、クライミング、ラペリング等の
体験、指導実習 5～11月
地元講師 美方高原自然の家「とちのき村」西垣 幸造 氏 森井 勇希 氏他
- b 地域スポーツ テーマ「地域の自然環境を活かしたスポーツの技術習得」
 - ・ゴルフ、スキー、スノーボード、スノーシュー、クロスカントリースキー
地元講師 井上 直樹 氏他 5～2月
- c 「地域探求・総合的な探究の時間発表会」
プレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿作成・ポスター作成、
発表準備 10月
- d 土曜チャレンジ学習事業（香美町教育委員会事業）
シャワークライミング、オリエンテーリング、ボルダリング指導補助 7～12月

エ 総合的な探究の時間「村高発地域元気化プロジェクト」の探究活動

生徒同志が議論して改善・充実を図っていけるよう、学年を越えた全校生徒を、興味・関心にもとづいて5班8グループに分け、「自然と暮らし（地域資源）を活かした観光・レクリエーション産業の活性化」「安心して暮らせるまちづくり」をテーマとして、班毎に課題解決に向けた地域協働活動に取り組んだ。

- a 民芸班：地域の方々と一緒に踊れる「南中ソーラン」の開発を行うことでさらなる地域の活性化を目指す。
- b 吹奏楽班：音楽を通して地域との交流を深め、地域になくてはならない吹奏楽団、演奏者と聞いている方双方が楽しめる演奏を目指す。
- c 食文化班：地域の方との交流を通じて食文化や伝統料理を知り、高校生目線で地域食材を活用したレシピを考案し、情報発信することにより地域活性化に繋げる。
- d 環境A班：「うへ山棚田」の保全を通して、おいしいお米を生産できる土壌を探ることにより、棚田の価値と地域経済の向上に繋げる。
- e 環境B班：森の健康診断（人工林の混み具合調査）をもちに伐採した間伐材を利用した木の駅プロジェクト等に取り組むことによって、地域内に経済効果を生むことを目指す。

- f 地域福祉班：高齢化、子育て支援についての調査として、今年度は買い物調査（困りごと調査）を追加し、世代を超えた交流を目指す。
- g 紙漉き班：自らが紙漉きを体験しその技術を高め、地域を巻き込み新たな交流を生み出すことを目的とする。地元の小学生との紙漉き体験企画を通じて、紙漉き技術を次世代へと繋げる。
- h 集落調査班：小規模集落の魅力を高校生目線で発見する調査を実施することで、課題発見・解決能力を培わせるとともに、より良く伝えるために必要な力を涵養することを目的とする。

② 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

- ・地域創造系

学校設定教科	地域探求
学校設定科目	地域学入門（1年） 地域探求Ⅰ（2年） 地域探求Ⅱ（3年）
- ・アウトドアスポーツ系

学校設定教科	地域探求
学校設定科目	地域学入門（1年）地域スポーツⅠ（2年） 地域スポーツⅡ（3年）
学校設定教科	総合スポーツ学（2、3年）
学校設定科目	冒険教育 生涯スポーツ スポーツ実践
- ・学年共通

学校設定教科	協働のまちづくり（1年）
	総合的な探究の時間（2、3年）

③ 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

- ア 協働のまちづくり（1年） 総合的な探究の時間（2、3年） 各1単位

名称「村高発★地域元気化プロジェクト」 全校生

 - ・学校設定教科「地域探求」での地域との協働による探究的な学びと「総合的な探究の時間」（村高発★地域元気化プロジェクト）を密接に連携させ教科横断的に展開した。
 - ・地域課題の解決に向けた探究活動を効果的に進めていくために、各教科で学習する知識を身に付け、活用することで、教科の学びを単独ではなく、相互に関連付けた。
 - ・各教科や学校設定教科「地域探求」の活動を「総合的な探究の時間」（村高発★地域元気化プロジェクト）と横断的に実施することにより、探究活動を多面的に捉え、分析する学びに発展させた。
- イ 学校設定教科「表現」 学校設定科目「スピーチ」（3年選択）2単位
 - ・Society5.0、人生100年時代における、地域と自分の姿を想定することにより、地域の未来を創造し、キャリアプランニングについて考えさせた。
 - ・高校生が生涯をとおして、主体的に生涯の生活を設定し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を考えると共に、自分の考えを表現させた。

④ 類型毎の趣旨に応じた取組について

- ア 地域住民への広報
 - ・「地域探求・総合的な探究の時間発表会」でのプレゼンテーション、ポスターセッション
 - ・土曜チャレンジ学習事業でのオリエンテーリング、クライミング、ボルダリング等の普及
- イ 他校生徒、地域住民、学識経験者等との交流、地域の魅力を再認識、資質向上

- ・「村高フォーラム 2022」
学識経験者による講演会、及び『「地域づくり×人づくり」～若者と地域を創る～』
をテーマにした生徒・地域住民、学識経験者等とのパネルスカッション
- ・「地域探求講演会」
町長講演「香美町のまちづくり」、町長と生徒による協議「若者のU・Iターンを増
加させるために必要な施策を考える」、鳥取大学准教授による指導助言等
- ・地元資源を活用した地域活性化について考える宿泊研修（長野県阿智村）
- ・「HYOGO×WKC フォーラム 高校生 SDG s 探究発表会」へのポスターセッション参加

ウ その他

- ・「ヒーローインタビュー」（卒業生インタビュー）
村岡高校の教育活動や事業協力に関する卒業生との意見交換

⑤ 成果の普及方法・実績について

- ・地域創造系1～3年生、及び総合的な探究の時間「集落調査班」による成果物「集落
の魅力発信プロジェクト『むらの風景 vol. 5』」の作成
- ・地域創造系3年生による地域探求Ⅱでの成果物「唐三の魅力に迫る」DVDの作成
- ・卒業論文「私の地域活性化プラン」の作成、地域（香美町）への提言・発信
- ・鳥取大学地域学部と共編した発行物「学びが地域を創る ふつうの普通科高校の地域
協働物語」の作成

1 1 目標の進捗状況，成果，評価

(1) 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

- ・地域をよくするために、地域における問題にかかわりたいと思う生徒の割合
3年目目標値 80% 3年目実績 76.1%
- ・高校卒業後、いずれは地元で働きたいと希望する生徒の割合
3年目目標値 70% 3年目実績 60.7%
- ・高校卒業後、地元で貢献したいと思う生徒の割合
3年目目標値 80% 3年目実績 82.9%

(2) 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）

- ・外部講師（大学教授、地元企業、地域住民等研究者）による授業回数、研修回数
3年目目標値 80回 3年目実績 126回
- ・地域課題について研究の取り組みを発表する機会
3年目目標値 10回 3年目実績 10回

(3) 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）

- ・コンソーシアムの構成団体数 3年目目標値 10団体 3年目実績 10団体

<添付資料> 目標設定シート

1 2 次年度以降の課題及び改善点

(1) 課題

- ・官民学が協働して取組ができる組織づくりを目指して、卒業生（地域の若者）との協働な
ど新たな取組も進めているが、本事業終了後の自走のためには、官民学協働のネットワー
クづくりのさらなる促進が不可欠である。
- ・地域（香美町）に対する指定校の認知度は高いが、中学生や保護者に対する指定校の取組
や地域協働活動の意義についての理解度が高いとは言えず、引き続き、中学生や保護者に
対して魅力を伝え、理解を図る必要がある。
- ・少子化が加速し生徒募集の難しい状況が続いているので、村岡高校の取組の成果や生徒の

成長について、地域や保護者等への効果的な広報や幼小中学生との活動を効果的に行なう必要がある。

(2) 改善点

- ・構築したコンソーシアム体制については、学校が従前から設置している学校運営連携協議会を活用し、体制を変えて継続する予定である。また、学校設定科目「地域探究」等でのコンソーシアム委員と協働した教育活動は引き続き推進する。
- ・官民学のネットワークづくりの具体化については、香美町や有識者と検討を継続する。
- ・地元の中学校をはじめとする教育機関に対しては、スクール・ミッション、スクール・ポリシーを示すとともに、本事業の成果による学校の魅力や特色を積極的に発信したりすることで、教育活動への理解を図る。

【担当者】

担当課	兵庫県教育委員会事務局 高校教育課	TEL	078-362-3817
氏名	中村由利	FAX	078-362-4288
職名	主任指導主事	e-mail	Yuri_Nakamura01@pref.hyogo.lg.jp

ふりがな	ひょうごけんりつむらおかこうとうがっこう	指定期間	2020～ 2022
学校名	兵庫県立村岡高等学校		

地域との協働による高等学校教育改革推進事業 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	目標値(年度)
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
地域をよくするために、地域における問題にかかわりたいと思う生徒の割合						
a	本事業対象生徒：		60	70	80	80(2022)
	本事業対象生徒以外：					
目標設定の考え方：地域との協働活動の成果としての地域貢献意識の向上を目指す。						
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
高校卒業後、いずれは地元で働きたいと希望する生徒の割合						
b	本事業対象生徒：		50	60	70	70(2022)
	本事業対象生徒以外：					
目標設定の考え方：地域との協働活動の成果としての地域貢献意識の向上を目指す。						
(その他本構想における取組の達成目標)						
高校卒業後、地元で貢献したいと思う生徒の割合						
c	本事業対象生徒：		60	70	80	80(2022)
	本事業対象生徒以外：					
目標設定の考え方：地域との協働活動の成果としての地域貢献意識の向上を目指す。						

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）						
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	目標値(年度)
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
外部講師（大学教授、地元企業、地域住民等研究者）による授業回数、研修回数						
a			60	70	80	80(2022)
目標設定の考え方：地域住民や学識経験者との交流や指導により多様な価値観の獲得と資質向上を目指す。						
(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
地域課題について研究の取り組みを発表する機会						
b			5	7	10	10(2022)
目標設定の考え方：他校生徒の交流や発表会等に参加し、プレゼンテーション、ディスカッション能力の向上を目指す。						
(その他本構想における取組の具体的指標)						
c						
目標設定の考え方：						

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）						
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	目標値(年度)
(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
コンソーシアムの構成団体数						
a			6	8	10	10(2022)
目標設定の考え方：関係団体、関係人口を増やし、地域との協働活動を推進する。						
(その他本構想における取組の具体的指標)						
d						
目標設定の考え方：						

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
全校生徒数(人)	185	173	169	153	136
本事業対象生徒数			169	153	136
本事業対象外生徒数					

3 研究開発の内容

(1)各授業の実践

(ア) 地域アウトドアスポーツ類型 地域創造系

- a 地域探求 地域学入門
- b 地域探求 地域探求Ⅰ
- c 地域探求 地域探求Ⅱ

(イ) 地域アウトドアスポーツ類型 アウトドアスポーツ系

- a 地域探求 地域学入門
- b 地域探求 地域スポーツⅠ
- c 地域探求 地域スポーツⅡ

(ウ) 「村高発 地域元気化プロジェクト」

協働のまちづくり(1年)、総合的な探究の時間(2、3年)

- a 民芸班
- b 紙漉き班
- c 吹奏楽団
- d 食文化班
- e 環境A班(棚田保全グループ)
- f 環境B班(森の健康診断グループ)
- g 地域福祉班
- h 集落調査班

(エ) 表現「スピーチ」

3 研究開発の内容

(I)各授業の実践

教科名	地域探求	科目名	地域学入門	単位数	1単位				
対象・学年	1年地域創造系12名			必修修の別	必修修				
1 仮説・ねらい	地域の調査(自然・歴史)や専門家からの講義により、探究活動の手法を身に付けるとともに、コミュニケーション能力や課題発見能力を養い、自ら学びに向かう姿勢を身につける。								
	地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コード・ネット力	⑧自己表現力
		◎	○	○	◎	○	○	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーション 地域の自然を知る			概要説明・プレゼンテーション(春季課題) 地質調査・植生調査・獣被害 水生昆虫調査 海洋生物調査				
	2学期	地域の歴史・文化を知る			現地調査(村岡商店街、地域の石造物) プレゼンテーション(現地調査報告)				
		地域を知る(まとめ)			プレゼンテーション(まとめ)				
	3学期	探究テーマ検討			地域の課題を見つける 探究テーマ検討				
3 実施内容	<p>(1)オリエンテーション</p> <p>①概要説明</p> <p>②プレゼンテーション テーマ「私のむらの魅力発見」4/19</p> <p>(2)地域の自然を知る</p> <p>①植生調査 講師：菅村定昌氏(兵庫県生物学会但馬支部)6/23 7/29 ・但馬の植生/ハチ北高原大沼の植生</p> <p>②水生昆虫調査 講師：西田昭夫氏(地元講師)7/13 8/3 ・昆陽川の水生昆虫調査/香美町土曜学習チャレンジ事業として実施</p> <p>③地質調査 講師：三木武行氏(兵庫県豊岡市ジオパーク普及啓発専門員)8/4 ・日本海形成に伴う多様な地形・地質・風土とくらし/岡見公園の地質調査</p> <p>④海洋生物調査 講師：本庄四郎氏(NPO法人 但馬自然史研究所)8/8 ・スノーケリング・シーカヤック実習</p> <p>⑤獣被害について 講師：横山真弓教授(兵庫県立大学自然・環境科学研究所)8/22 ・ツキノワグマの出没要因と獣害防止対策</p> <p>(3)地域の歴史・文化を知る</p> <p>①現地調査 講師：石松崇氏(香美町教育委員会) ・村岡商店街の散策や村岡周辺の石造物の観察を通し、歴史・文化を学ぶ。</p> <p>②プレゼンテーション(現地調査報告) ・新たな魅力発信の枠組みを考える。</p> <p>(4)地域を知る(まとめ) 講師：アレクサンダー・ギンナン 講師(鳥取大学地域学部)</p> <p>①プレゼンテーション ・自然分野、歴史文化分野に分かれて発表/グループワーク</p> <p>②現地調査 講師：アレクサンダー・ギンナン 講師(鳥取大学地域学部) ・八幡山公園の散策および石造物を通した歴史・文化の学習</p> <p>(5)その他</p> <p>①夏季集落調査実習 7月11日(月)～8月23日(火) ・事前授業/講師：筒井一伸 教授(鳥取大学地域学部) ・夏季調査実習(村岡区の集落調査) ・中間報告/講師：川口夏希 講師(鳥取大学地域学部) ・調査結果まとめ/講師：川口夏希 講師(鳥取大学地域学部)</p> <p>②町長講演会 7月15日(金) 講師：浜上勇人 香美町長 / 助言者：塩沢健一 准教授(鳥取大学地域学部) ・講演「香美町のまちづくり」 ・グループ討論「若者目線でのコロナ禍を乗り越え、産業を立ち上げるための施策を考える」</p> <p>③コミュニケーションワークショップ 7月11日(月)・12月12日(月) 講師：田上 豊氏(芸術文化専門職大学専任講師)</p> <p>④ビジョン出前講座 11月17日(木) テーマ「ひょうごビジョン2050について」 講師：但馬県民局地域政策室協働推進課</p>								
4 生徒感想	<p>・正直今までただの商店街だと思っていたのに今日の様々なお話を聞いただけで一気にイメージが変わりました。視点を変えるだけでこんなに変わるのかと驚きました。今回でより一層地元に誇りを持つことができました。素晴らしいお話を丁寧に説明してくださってとてもありがたかったです。</p> <p>・今日は身近にいる熊の特徴が知れてよかったです。熊と人間の共存は難しいと聞いて大変だと思いました。絶滅はしたらいけないけど、里に下りてきて人間に被害をもたらすのなら殺してしまうしかないのかと思いましたがいい案が思いつきませんでした。いつか共存できるようになればいいのになと思いました。</p> <p>・今回の発表は少し準備が足りなかったと思いました。奥方部屋については調べられるところはしっかりと調べることができました。でも、読み方がわからなかったり発表内容を忘れていたりしました。また発表する機会があれば、今回の発表のような失敗をしないために丁寧に事前の準備をしたいです。</p>								
5 評価	生徒評価(5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コード・ネット力	⑧自己表現力
	2022年4月	4.0	4.1	3.6	3.8	3.7	3.9	4.0	3.7
	2022年10月	4.0	3.8	3.9	4.0	3.7	4.2	4.0	4.0
6 成果と課題	<p>入学当初から何事にも真面目で自主的に取り組む集団であり、なおかつはきはきと発表することができる集団であった。講義を通して但馬地域の魅力や課題を学ぶにつれ、その自主性には磨きがかかり、魅力発信や課題克服のためのアイデアを次々と出していった。度々行われたグループワークでは一人一人が自分の意見をしっかりと持ち、活発な話し合いが各所で展開された。その中で、自分たちに何ができるのかを必死で思案する姿勢が見られた。</p> <p>一方で、提案される意見の中には少し現実離れしすぎているのではと思われるものも散見された。来年度以降、自分たちが探究していくテーマを考え、実際に探究するにあたり、物事を多面的・客観的に見るというような習慣付けが必要ではないかと考えた。</p>								

地域創造第1年

地域学入門

1. 地域学入門とは



地域の自然と歴史について学ぶ。「地域を知る」をスローガンに、各分野の専門家から「郷土」を知るための視点と探求方法を学ぶ。そして二年次以降の「地域探求」学習の探求テーマとなる資源を見つけ出す！

2. これまでの主な活動

学習内容	講師の先生	実施日
私の村の魅力発見・発表	筒井一伸氏	4月19日
但馬の植生	菅村定昌氏	講義：6月23日 実習：7月29日
水生昆虫	西田昭夫氏	講義：7月13日 実習：8月3日
但馬の地質	三木武行氏	8月4日
スノーケリング実習	木庄四郎氏	8月8日
獣被害	横山真弓氏	8月22日

(1) 但馬の植生

活動内容は植生の講義を受け、ハチ北で実習をしました。自然を管理する上での課題はシカによって植物の多様性が脅かされていることだと学びました。



コオニユリ



(2) 水生昆虫

活動内容は水生昆虫の講義を受け、後日、尾陽川で水生昆虫の採取を行い、採取した昆虫で標本を制作しました。水生昆虫と河川環境との関係が密接なため、河川の水質環境を保つことが大切だということを学びました。



実際に制作した標本



(3) 但馬の地質

活動内容は地質の講義を受けた後、香住区の岡見公園と海の文化館で実習をしました。

山陰海岸ジオパークの特徴と歴史を学びました。



(4) スノーケリング実習

活動内容は宇日海岸の自然について講義を受けた後、スノーケリングで海の生物を観察し、シーカヤックで宇日海岸周辺の地形を観察しました。

水中の生物の多様性や宇日海岸周辺の独自の地形といった自然の魅力を知りました。



シーカヤック体験

(5) 獣被害

活動内容は獣被害の講義を受けました。

クマの保全・対策はさまざまな方々による活動や政策によって成り立っていることを学びました。



3. 学習の成果

◆シカによる植生被害

シカによる自然環境への被害のより生物多様性の危機と同様に自然を継続的に利用することができなくなっているのだ。シカの対策をどうするのが、但馬の自然の課題であるか考える。



◆人工物の建設による自然環境の変化

ダムやスキー場が建設されたことによってその場所の自然環境が変わってしまい、特有の植物が減少し、それが周りに影響を与えさらに自然環境を変えてしまう。

◆人間と動植物が共生していくことの重要性

地域学入門で、人間と動植物たちとの共生について学んできた。この豊かな但馬の自然を守っていくには私たちが自然について学び、自然を壊すことなく利用することが大切だと考える。

4. 今後の展望

これまでは自然について学習してきた。これからは人間をはじめとした但馬の歴史や文化財を学んでいく予定である。そして、来年度以降の地域探求の学習に生かしていきたい。



教科名	地域探求	科目名	地域探求 I					単位数	1単位
対象・学年	2年地域創造系生徒9名						必修の別	必修	
1 仮説・ねらい	①これまでの学習から地域課題の解決策をまとめるために、新たな価値を創造する能力や議論する力を養うとともに、自己表現力を身につける。 ②SDGsによる持続可能な社会の実現に向けて「食でつなぐ人と地域」をテーマとし探究活動を行う。								
	地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コネクティビティ	⑧自己表現力
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	聞き取り調査「ふるさと給食」 長野県阿智村合宿研修事前学習会			ふるさと給食の現状についての講義 グループ討論 阿智村の取り組みについての事前学習				
	2学期	長野県阿智村研修合宿			講義 現地研修 プレゼンテーション				
	3学期	地域探求 I			グループ討論、プレゼンテーション：今後の探求内容の検討 アレルギー対応の料理開発、地元の食材を活かした料理の行事での活用 給食を通して小中学校との交流、野菜作り、ダンス制作等				
3 実施内容	(1)聞き取り調査「ふるさと給食」 ①ふるさと給食の現状についての講義 香美町教育委員会 ②グループ討論 助言者：石山雄貴講師（鳥取大学地域学部）								
	(2)長野県阿智村合宿研修事前学習会 助言者：石山雄貴講師（鳥取大学地域学部） ①阿智村の取り組みについての事前学習								
3 実施内容	(3)長野県阿智村研修合宿 助言者：石山雄貴講師（鳥取大学地域学部） 阿智村役場協働推進課：大石真紀子氏 ①講義：阿智村概要説明(ガイダンス) ②現地研修：駒場まち歩き(全村博物館) ③体験：五平餅(郷土料理)づくり ④交流会：地域の若者との交流 ⑤現地研修：星空のまち概要説明 ⑥講義：浪合 鳥獣害対策、6次産業化、高原トウモロコシ畑見学 ⑦現地研修：ごか食堂の取り組み ⑧現地研修：堆肥センター、産業振興公社 ⑨調査結果プレゼンテーション(阿智村中央公民館) ⑩満蒙開拓平和記念館見学								
	(4)地域探求 I (12/16(金) 2/9(木)) 助言者：石山雄貴講師（鳥取大学地域学部） ①グループ討論、プレゼンテーション：今後の探求内容の検討 (アレルギー対応の料理開発、地元の食材を活かした料理の行事での活用、給食を通して小中学校との交流、野菜作り、ダンス制作等) ②まとめ、助言								
3 実施内容	(5)その他 ①夏季集落調査実習 7月11日(月)～8月23日(火) ・事前授業/講師：筒井一伸 教授（鳥取大学地域学部） ・夏季調査実習(村岡区の集落調査) ・中間報告/講師：川口夏希 講師（鳥取大学地域学部） ・調査結果まとめ/講師：川口夏希 講師（鳥取大学地域学部）								
	②町長講演会 7月15日(金) 講師：浜上勇人 香美町長 / 助言者：塩沢健一 准教授（鳥取大学地域学部） ・講演「香美町のまちづくり」 ・グループ討論「若者論」 ③コミュニケーションワークショップ 12月14日(水) 講師：いしいみちこ氏(芸術文化専門職大学専任講師)								
4 生徒感想	・今年は、「食でつなぐ人と地域」というテーマに沿って活動してきました。このテーマで始めた当初は、地産地消や商品開発というような考えしか持っておらず、何かにつなげるにも新しさのない発想でしたが、給食の授業や阿智村研修を通して、食と何をつなげられるかや、地域住民と自分たちのつながり方を考えられるようになりました。 阿智村研修を通して思ったのは、自分たちで学ぶことが大事だということです。自分が学んだことから広げていくことで目的をもって活動することができるし、自主的に行動できるということが分かりました。 これから3年生になり、具体的に決めていく中で学んだことを活かしつつ、地域に根付いた行動を心がけ活動していきたいです。 ・阿智村と比較して香美町には自主的がありません。行政が主軸でなく、自分たちが主軸だと考え積極的に活動を行っていきたいです。 ・阿智村研修では地域の人が交流できる食堂に行き、香美町にもそんな施設があれば良いなと思いました。 今は、来年度の地域探求Ⅱで具体的に何をやるのかを考えている状態です。地元の食材を活用するための方法や、香美町の給食をより良くするために私たちにできることを考えていきたいです。香美町の良さを伝えられる人材になりたいです。 地域探求の活動を通して、自分の意思をもち、発表できるようになったと思います。しかしまとまらない部分や言葉が出ないこともあるので、語彙をつけて改善していきたいです。								
	5 評価								
5 評価	生徒評価(5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コネクティビティ	⑧自己表現力
	2021年4月	3.9	3.7	3.6	3.7	3.9	3.7	3.7	3.2
	2021年10月	3.8	3.7	3.8	3.6	3.9	4.2	3.9	3.8
	2022年4月	3.9	3.9	3.7	3.7	3.6	3.9	3.6	3.7
	2022年10月	3.9	3.7	3.9	3.8	3.8	3.9	4.0	3.8
6 成果と課題	1年次では、「地域を知る」ということをテーマに学習を進めてきた。2年次では今まで培ってきた自主性を基に、斬新なアイデアを出すなど、積極的に発言する姿が多く見られた。 また、村岡高校では毎年恒例で行われている研修合宿を2泊3日で長野県阿智村で行うことができた。ここ数年は中止や日帰りなど、十分な研修を行うことができなかったが、今年は従来の形で実施することができ、生徒の満足度も高く、得るものも多かったと思われる。 課題としては、実現が厳しいと思われる意見も多く見られることである。若者らしい柔軟な発想で物事を考えることは素晴らしいが、では限られた時間・資源・資金でどのように具現化するのか、という視点がやや乏しいと感じられる。今後は3年生となり、将来や世の中について現実的に考える機会も多くなると思われるので、現実的かつ独創的なアイデアが生まれることを期待したい。								

地域創造系2年 地域探求1 ～食でつながる人と地域～

地域創造系2年生



地域学入門の学習を通して得た知識をもとに地域探求のテーマを決めました。それが・・・
食でつながる人と地域

1. 食でつながる人と地域

私たちの探求テーマ「食でつながる人と地域」は、香美町の食材に目をつけ、食材を地元の人にも、ほかの地域の人にも知ってもらい香美町を活性化させようという思いのもと決めました。今後、生産者の方や地域食材を使って飲食店をされている方と交流し、食を通して消費者、生産者をつなげることを目標としています。今年度の活動は香美町のふるさと給食の取り組みについて教育委員会の方にお話を聞きました。また長野県阿智村に研修合宿に行きました。

現在、香美町の食材をPRするためになにができるかを考えています。

2. ふるさと給食の取り組み

香美町のふるさと給食の取り組みについて香美町教育委員会の方にお話を聞きました。

香美町の給食では、生産者の方と協力し、地元の食材を使用することで日本一のふるさと給食を目指しています。香美町のふるさと給食は、こどもたちに地元の食材のすばらしさを知ってもらうことと、保護者の方にも安心を届けられるという利点があります。ふるさと給食を広めるために私たちになにができるかを考えようと思いました。



3. 阿智村研修

〇1日目

阿智村ガイド

阿智村の観光資源や、村づくり委員会、全村博物館等について地域職員の犬石さんにお話を聞いた。

あうごち散歩

ガイドボランティアの方に案内していただき、動物の町を散策した。香美町の動物や歴史について学んだ。



五平餅づくり

阿智高校の生徒によってリノベーションされた古民家で郷土料理である五平餅を作った。

阿智村の若者との交流

阿智村に住む若い人との交流会をした。若い人から阿智村の魅力や良さについて聞くことが出来た。



1日目で学んだこと

- ・役場の方を中心として地域住民が主体となって様々な活動が行われていること。
- ・地域に埋れている魅力を見つけ出し、地域ガイドという方法で活性化に生かしていたこと。また、観光客の方々にその魅力を分かりやすく伝える方法。
- ・地域を活性化させるためには、様々な人との交流やたくさんの方との交流が大事なこと。



〇2日目

たい肥センターと農業振興公社

農業振興公社の取り組みについて説明を受けて、たい肥センターの見学に行った。農産物の活用について学んだ。



阿智村の特産品

阿智村の特産品であるトウモロコシや角餅等について説明を受けた。農産食品の工場や、トウモロコシ畑の見学も行った。



ごか食堂の取り組み

村づくり委員会の取り組みでできたごか食堂で研修を受けた。地元の食材を使って、地産地消を意識されていることを知った。



2日目で学んだこと

- ・農産物（牛のふん）を肥料として生かしていたこと。
- ・たい肥は食物を作るための最初の材料でたい肥から食物、人へと食でつながっていた。
- ・阿智村では阿智高校地域政策コースの生徒と協力してサルを運営しているということ。
- ・ごか食堂は地産地消をモットーに生産者の方と協力しお弁当・食事の提供・高齢者配食を行い、食を通して地域の活性化につなげていること。

〇3日目

学びの発表

二日間の学びを役場の方や地域の方に発表しました。発表後意見交換や質疑応答も行った。

- ・まちを歩いて気付いた歴史
- ・食でつながる人と地域
- ・住民の学び
- ・香美町で活かせること



4. 7月7日と探したふるさと阿智

元気がない

これは、商店街に活気がなかったり、地域の方も観光客も楽しめることがなかったりすることです。香美町にも歴史的な建物が残っているので、阿智村のように、古民家を生かしたマルシェのような取り組みを行い活気を取り戻し香美町を元気にしたいです。

観光客が少ない

香美町にも温泉やカニなどの海産物、スキー場などたくさんのお得なものがあると思います。それをどのように宣伝していくのが重要になってくると思います。阿智村では地域の方がガイドし町を紹介していたり、村づくり委員会という地域住民による魅力を活かした様々な活動をしていたり、魅力を最大限生かしている取り組みがたくさんありました。香美町でも様々な角度から魅力を活かす方法を考え香美町外に香美町の魅力を伝えていきたいです。

住民主体でない

阿智村では住民が自分達で考え、提案し、学習し、役場の方からの協力を受けながら自分たちで行動しているところに、わたしたちは驚きを感じました。香美町も住民主体で考えていくと、より良い未来が待っているのではないかと感じました。

5. 阿智村の循環について考えた

阿智村研修を通して、これから温泉を使った肉フェスティバルを開いたり、香美町で採れた野菜を売る市場を開いたり、小さなことから始めるのが第一歩となると思います。

ごか食堂では配達サービスを行ったり、地域の子供たちに食事を用意するイベントを開いたり、食を通して地域と関わり、地域を元気にしていました。また、食事をつくる人達の仲も深まり仲間づくりができるという効果もありました。この活動から、食が導く人と地域の関わり方を学ぶことができました。この学びをもとに食と何を結びつけることができるか考えていきたいです。

PRするためにはどんなメディアなどもプラスに考えて考える。例えば、阿智村で使われていなかった古民家をリノベーションし五平餅づくりを体験できる施設にしていたら、香美町は食が多く静かで様々な時間が流れるため都会に疲れた人に向けた癒しスポットをつくることができます。阿智村の活動を参考にし、自分たちなりの方法でPRしていきたいです。

6. 阿智村の学び

- ・地元食材探し
- ・生産者、経営者の方にインタビュー
- ・レシピ考案



教科名	地域探求	科目名	地域探求 II					単位数	1 単位
対象・学年	3年地域創造系生徒14名						必履修の別	必履修	
1 仮説・ねらい	<p>①地域との連携を深め、これまでの学習から地域課題の解決策をまとめるために、新たな価値を創造する能力や議論する力を養うとともに、自己表現力を身に付ける。</p> <p>②身近にある地域の資源を再発見し、その資源の活用法を模索しながら、「ひと・もの・こと」発信プロジェクトに取り組む。</p>								
地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コア・ネットカ	⑧自己表現力	
	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	
2 年間計画	学 期	と り く み						内 容	
	1学期	「ひと・もの・こと」魅力発信大作戦・検討			プラン作成 企画プレゼンテーション 現地調査				
	2学期	「ひと・もの・こと」魅力発信大作戦・調査			モニタリング調査 調査結果報告・発表 振り返り				
	3学期	「ひと・もの・こと」魅力発信大作戦・まとめ			モニタリング調査 振り返り 卒論完成				
3 実施内容	<p>(1)「ひと・もの・こと」魅力発信大作戦・検討</p> <p>①プラン作成／講師：白石秀壽 准教授（鳥取大学地域学部）</p> <p>②企画プレゼンテーション／講師：白石秀壽 准教授（鳥取大学地域学部）</p> <p>③現地調査／協力：西村太一 氏（吉滝キャンプ場経営）・田畑善延 氏（香美町商工会事務局長）・今井司朗 氏（株式会社奥但馬社員）・田尻 茜 氏（ミナゲタスノウ経営）</p> <p>(2)「ひと・もの・こと」魅力発信大作戦・調査</p> <p>①モニタリング調査／講師：白石秀壽 准教授（鳥取大学地域学部）</p> <p>②調査結果報告・発表／講師：白石秀壽 准教授（鳥取大学地域学部）</p> <p>③振り返り／講師：白石秀壽 准教授（鳥取大学地域学部）</p> <p>(3)「ひと・もの・こと」魅力発信大作戦・まとめ</p> <p>①モニタリング調査／講師：白石秀壽 准教授（鳥取大学地域学部）</p> <p>②振り返り／講師：白石秀壽 准教授（鳥取大学地域学部）</p> <p>③卒論完成</p> <p>(4)卒業論文 「私の地域活性化プラン」作成</p> <p>(5)その他</p> <p>①夏季集落調査実習 7月11日（月）～8月23日（火）</p> <p>・事前授業／講師：筒井一伸 教授（鳥取大学地域学部）</p> <p>・夏季調査実習（村岡区の集落調査）</p> <p>・中間報告／講師：川口夏希 講師（鳥取大学地域学部）</p> <p>・調査結果まとめ／講師：川口夏希 講師（鳥取大学地域学部）</p> <p>②町長講演会 7月15日（金）</p> <p>講師：浜上勇人 香美町長 / 助言者：塩沢健一 准教授（鳥取大学地域学部）</p> <p>・講演「香美町のまちづくり」</p> <p>・グループ討論「若者目線①ロケ外撮りを観光と産業を並べて重要な施策を考える」</p> <p>③コミュニケーションワークショップ 7月19日（火）</p> <p>講師：平田知之氏（芸術文化専門職大学専任講師）</p> <p>④意見交換会 神戸市立葦合高校 12月15日（木）</p>								
4 生徒感想	<p>・私は三年間の活動で地域への目の向け方が変わりました。地域学を学ぶ前はお店の有無など生活の面でしか地域を見ておらず、何も魅力がないと決めつけていました。しかし、歴史や自然、人など視点を変えてみると魅力になるものは沢山あります。そのことに気づいてからは地域にある神社や公園、自然などをただの景色から魅力あるものとして見るようになりました。</p> <p>・私はこの3年間地域創造系での活動を通して、改めてこの町を好きになりました。活動をする際地域に足を運ぶ機会が多く、多くの地域のかたと触れ合うことが出来ました。この3年間多くの人に支えられて活動してきたように思います。この地域の温かさと、人の優しさを私たち若者が引き継いでいけるように、守っていききたいと思います。</p> <p>・今回のプロジェクトで行ったモニタリングツアーにはたくさんの笑顔がありました。その光景を見て、その笑顔を作り出しているのが自分たちであることのやりがいや自分たちの手で地域を創ることの楽しさを実感しました。このような学びはプロジェクトに携わったことで得られたものだと思います。私たちと地域をつなげてくださった地域の方々や先生方、一緒に走り切ってくれた仲間们に感謝しています。</p>								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コア・ネットカ	⑧自己表現力
	2021年1月	4.4	4.3	4.0	4.0	4.2	4.0	4.0	4.1
	2021年4月	3.9	3.8	3.9	3.9	4.0	4.2	4.3	3.9
	2021年10月	4.1	4.3	4.1	4.1	3.8	4.0	4.1	4.0
	2022年4月	4.4	4.2	4.2	4.0	4.0	4.6	4.3	4.3
	2022年10月	4.3	4.1	4.3	4.2	4.2	4.4	4.4	4.2
	2023年1月	4.6	4.5	4.4	4.4	4.5	4.7	4.6	4.4
6 成果と課題	<p>本授業の成果として、生徒は課題発見能力と、その課題を解決するにあたり仲間との協調性やプラン作成能力、そして計画を実践する力を身に付けた。1年次では地域に関する知識を学び、2年次にはその知識をさらに深めることができた。3年次では、マーケティングの観点から、香美町に存在する資源を製品化し地域活性化に向けて、香美町の魅力的な「ひと・もの・こと」を発信していくプロジェクトを実践してきた。その過程で、生徒は地域にある課題や魅力を様々な視点から発見することができた、また、魅力を製品化するにあたって、仲間や教員、そして地域の方々や協働的に取り組み、綿密に計画を立ててそれを実践することができた。</p> <p>課題として、これらプロジェクトを継続して実践していく必要があると考えられる。香美町の活性化を目指すためには、ただ1年間の活動だけでは不十分である。この活動をさらに周知し、香美町の魅力を広げていく必要があると思われる。</p>								

地域創造系3年 地域探求Ⅱ

ひと・もの・こと 発信プロジェクト

「ひと・もの・こと」の発信プロジェクト

1. 地域探求Ⅱでは

2年時の活動で、地域の資源を見つけること大切だとそれをうまく活用するための仕組みづくりが大事だということを知りました。3年時では学びを生かして、自分たちの地域は多様な資源があるのか、またその資源はどのように活用できるのかということを知り地域探求Ⅱの中で学んで来ました。その中で「ひと・もの・こと」発信プロジェクトに取り組みました。



2. 「ひと・もの・こと」発信プロジェクト

このプロジェクトは、香美町の魅力的な「ひと・もの・こと」を発見していくプロジェクトです。香美町に存在する(業を調査し、これをマーケティング手法で発信する)が重要であることを目指しています。

私たちは、高松大学の白石秀典先生の指導のもと、マーケティング手法の学習、調査を行いました。調査、これらの学びをもとに、いよいよ活用する資源を決定し活動を始めました。活用する資源をもとに4つのグループをつくり、協力していける地域の魅力を伝えたい。よりよく発信していくためにマーケティング手法を活用しようとしています。

3. 発信の経路



4. 発信の活動状況

1. 「第三」の発信活動の経路

- 「第三」の発信活動「第三」の発信活動、第1回～第4回
- ターゲット: 30代～40代の若者
- 目的: 発信活動により、発信活動の活性化を図る「第三」の魅力を伝える
- ↓
- 「第三」の発信活動を上げる
- 活動の内容: 高松商會 - 第三の魅力を発信(高松商會、高松市観光局等と共同開催)
- 1. 第三の魅力を発信活動の紹介 + 自分たちが発信活動をする
- 2. 作業の準備
- 3. 準備 - 高松商會からのメッセージ (地元・高松市観光局ホームページで発信活動をしてもらう)
- 今後の経路
- 10月～11月中旬 「第三」の発信活動の準備 → 発信活動
- 11月中旬 高松商會ホームページで発信活動をしてもらうよう依頼する
- 12月～ 発信活動 → 発信活動の活性化を図る



2. キャンプ

- 「第三」の発信活動「第三」の発信活動、第1回～第4回
- ターゲット: 「香美町のひと・もの・こと」
- 目的: キャンプの魅力を発信する
- 地元・高松市観光局 - 高松市観光局と共同開催、高松市観光局の発信活動
- 今後の経路
- 1. 「第三」の発信活動の準備 + 準備 (スチールや準備)
- 2. 高松商會の - 高松 - キャンプ - キャンプの準備 など
- 3. 高松商會の発信活動の準備 + キャンプの準備 + enjoyしよう!!
- 料金: 500円
- 備考: スチールの代りにイスやタンス(高松市観光局、チェック)を使う
- 今後の経路
- 8月～高松商會の準備 → キャンプの準備 → 10月に実施予定
- 高松商會の発信活動として実施 → 地元・高松市観光局と共同開催して発信活動の活性化を図る



3. ライブ

- 「第三」の発信活動「第三」の発信活動、第1回～第4回
- ターゲット: 「第三」の発信活動
- 目的: 「第三」の魅力を発信する
- 地元・高松市観光局 - 高松市観光局と共同開催、高松市観光局の発信活動
- 今後の経路
- 1. 「第三」の発信活動の準備 + 準備 (スチールや準備)
- 2. 高松商會の準備
- 3. ナイトライブ + 高松市観光局のナイトライブを行う (準備)
- 4. 高松商會
- 5. ナイトライブの準備 → 高松市観光局
- 6. ナイトライブの準備、高松市観光局
- 今後の経路
- 高松商會の準備 + 高松市観光局の準備 → 10月に実施予定
- 「第三」の魅力を発信活動の準備 + 高松市観光局の準備 → 10月に実施予定



4. 商店街復活大作戦

- 「第三」の発信活動「第三」の発信活動、第1回～第4回
- ターゲット: 学生、地元・高松市観光局と共同開催、高松市観光局
- 目的: 高松市観光局の発信活動、高松市観光局の発信活動
- ↓
- 高松市観光局の発信活動 + 高松市観光局の発信活動
- ↓
- 高松市観光局の発信活動 + 高松市観光局の発信活動
- 活動の内容
- 1. アップル・アップル: イベント開催 × 高松市観光局の発信活動 (アップル・アップル、アップル・アップル)
- 2. 月1回のイベントの開催 - 高松市観光局 - 高松市観光局の発信活動
- 3. 高松市観光局の発信活動の準備 → OKコードの発信活動 + 高松市観光局の発信活動
- 今後の経路
- 高松市観光局の発信活動 + 高松市観光局の発信活動 → 高松市観光局の発信活動
- 今後の経路
- 高松市観光局の発信活動 + 高松市観光局の発信活動 → 高松市観光局の発信活動



5. まとめ

このプロジェクトを行っていく中で、学んだことが2つあります。

1つ目は元々企業がやっているプロジェクトに高校生らしさをプラスするむずかしさを学びました。また、これっきりで終わることがないように、自分たちが卒業した後も続けていけるようにしたいです。

2つ目に、このプロジェクトによって、自分で企画して実行する能力を身につけることができました。この能力を活かして地域へのアプローチを行い、住民の地域への愛着を深め、地域と住民をつなぐ架け橋となっていきたいです。そして、卒業後もこの活動を続けていくために、自分たちの卒業後の地域へのかかわり方を考えていきたいです。



6. 今後の経路

各班で香美町の活性化を目標に活動する

↓

活動後、反省点と改善点を踏まえて、自分たちの伝えたい魅力をより効果的に伝えるように改善していく

↓

自分たちが卒業した後も続けていけるように、活動を引き続き行っていく

教科名	地域探求	科目名	地域学入門	単位数	1単位				
対象・学年	1年アウトドアスポーツ系14名			必修の別	必修				
1 仮説・ねらい	<p>①地域の豊かな自然、観光資源、専門家の講義により、地域課題を発見しテーマ設定を行う。探究活動の手法を身に付けるとともに、コミュニケーション能力や課題発見能力を養い、自ら学びに向かう姿勢を身に付ける。</p> <p>②地域資源を活かしたアウトドアスポーツ体験やスポーツ理論の体験学習により、スポーツを通じた地域活性化の探求心を育む。</p>								
	地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コードイネート力	⑧自己表現力
		◎	○	○	◎	○	○	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーション	概要説明・プレゼンテーション(春季課題)・レポートの書き方						
		地域の自然を知る	地域の自然環境を活かしたアウトドアスポーツ体験						
		スポーツ理論	スポーツ関わる仕事を知る						
	2学期	スポーツ理論	スポーツ関わる仕事を知る						
		地域の自然を知る	地域の自然環境を活かしたアウトドアスポーツ体験						
		スポーツ理論	栄養学について学ぶ						
	3学期	探究テーマ検討	スポーツ観光と地域活性						
			探究テーマ検討						
3 実施内容	<p>(1) オリエンテーション 4月19日(火)</p> <p>①概要説明 ②プレゼンテーション テーマ「私のお勧めのアウトドアスポーツ」 ③レポート作成方法について</p> <p>(2) 地域の自然を知る</p> <p>①デイキャンプ 4月28日(木) 講師：小林 裕二氏(講師美方高原自然の家「とちのき村」) ・アイズブレイク ・野外炊事 ・ARネイチャーラー</p> <p>②チャレンジラベリング 11月14日(月) 講師：西垣 幸造氏(講師美方高原自然の家「とちのき村」)</p> <p>(3) スポーツ理論</p> <p>①鍼灸師/ 6月1日(水) 講師：藤 仁氏(履正社国際医療スポーツ専門学校) ②インストラクター 6月14日(火) 講師：大江 信一郎氏(履正社国際医療スポーツ専門学校) ③柔道整復師/理学療法士 6月20日(月) 講師：田中 雅博氏/川瀬 和夫(履正社国際医療スポーツ専門学校) ④栄養学 10月27日(木) 講師：下村 有佳里氏(履正社国際医療スポーツ専門学校) ⑤スポーツトレーナー 11月2日(水) 講師：南 遥夏氏(履正社医療スポーツ専門学校)</p> <p>(4) 探究テーマ検討</p> <p>①スポーツツーリズムの推進 1月19日(木) 講師：田中 利彦氏(香美町教育委員会生涯学習課) ②オリエンテリング概論 2月9日(木) 講師：田中 利彦氏(香美町教育委員会生涯学習課) ③自然環境とスポーツ活動について 3月1日(水) 講師：関 耕二氏(鳥取大学准教授)</p>								
4 生徒感想	<p>3年生の先輩方にラベリングの体験をさせていただきました。他学年とのアウトドアの授業は初めてだったので先輩方の姿を見て来年、再来年あるべき姿がわかったような気がしました。ペアの3年生と共に、装備の安全確認、プレーキハンドの練習をしました。その後、実際に橋から降りました。最初橋から宙にぶら下がるまで橋と顔がつくのではないかっていうくらい近く、降下のペースが凄くゆっくりだったこと、景色を楽しむ余裕がなかったことが降りた時の感想です。安全装備の着用時から「まあいっか」は許さない、「しっかり他人の人を見ときなさい」とか、今までの授業では聞かなかったような厳しい言葉もたくさん聞こえてきたけど、それは人1人の命がかかっているから当然のこと、常に頭の片隅に置いておかないといけないことだと再認識しました。ラベリングで降りる速さは心の揺れだと講師の方がおっしゃっていて、まだ言葉の本質は理解できていないと思うけど、でも、あの高さからロープ1本で降りることに対して恐怖心を抱く人がいるのは当然だと思うし、100パーセントの安全なんてない屋外授業だけど、それでも、100パーセントの安全に少しでも近づくように準備をして、万全に万全を期してから体験をする。大人になってラベリングが直接的に役に立つことはないと思うけど、それまでの準備段階や、準備を重ねて実際に体験して学んだことは自分が生きたいと思った人生の道標、やりたいことをあきらめない理由になるのではないかと思います。</p> <p>講義で、スポーツツーリズムの推進に向けて地域の現状や、地域でのスポーツイベントの動向を学習し、探求テーマを検討していききました。スポーツと観光・旅行を結び付け、香美町でツーリズムとなるスポーツを検討していききました。各班で地域性を活かした内容のものを出し合い、村高生主催のウォーキングイベントを開催することに決まりました。そして、利益を得たお金で、視察研修へ行くというものです。「ウォーキング」×「健康」についての仮説のもと、「マーケティング」×「ストーリーテリング」×「デザイン」というビジネスの手法を取り入、このイベント企画を成功させ、地域活性につながるイベントとにするために1年生アウトドアスポーツ系全員で意見を出し合い、協力し取り組んでいきます。</p>								
5 評価	生徒評価(5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コードイネート力	⑧自己表現力
	2022年4月	3.5	3.6	3.2	3.5	3.4	3.6	3.6	3.5
	2022年10月	3.4	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.5	3.3
6 成果と課題	<p>地域学入門では、「地域を知る」をテーマに、地域の専門家から地域の魅力となりうる資源を教わり、その資源とスポーツを結び付け地域活性の手法を学び、2・3年次における地域スポーツの学習に向けてその準備をしている。キャンプやラベリングなどの地域の自然を活用したアウトドアスポーツ体験により、基礎を学び、役割分担・責任感・リーダーシップ・協力など他者理解と自己理解を深めることができています。また、スポーツ理論や栄養学の学習を通して、高度な専門的知識を知り進路意識が高まった。地域学入門での学びは、前半に体験的な学習を主とし、後半に課題発見・課題解決能力の育成・向上に向けて探求課題(テーマ)の設定に取り組むことで系統的に学習が展開され、2・3年次に深みのある探求活動が行え教育成果を上げている。今後も地域からの要望に応えながら、地域活性に向けて取り組みたい。</p>								

1年アウトドアスポーツ系 地域学入門

一年生は最初に仲間づくりとして、とちのき村でデイキャンプをしました。仲間と支えあう活動を通じ、他社理解と自己理解を深め、チームの力を高めることをわらいとしています。

デイキャンプ

活動内容

- ・野外炊事
- ・ARネイチャーラリー
- ・ふりかえり



野外炊事

野外炊事では役割分担・リーダーシップ・協力する力が求められます。食材の下ごしらえ、薪割り、火おこしなど、役割分担しみんなが協力することでチームワークの向上に繋がりました。



ARネイチャーラリー

目の前にある課題を皆のみんなと協力して取り進むことで、自分も他人も喜ぶしあえるチーム作りのきっかけとするのが狙いです。タブレットを使い山の中を探検することで助け合いと高い安全意識が求められ、自然の怖さと仲間の大切さを同時に、学びました。

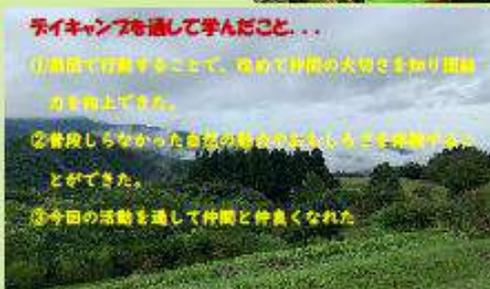


紙の壁で協力することが、仲間づくりの第一歩！



デイキャンプを通して学んだこと...

- ①最初は行儀すること、初めて自然の大切さを知り関心をもつようになった。
- ②普段知らなかった自然の怖さや楽しみを知ることができた。
- ③今日の活動を通して仲間と仲良くなった。



履正社国際医療スポーツ専門学校による講義

・鍼灸師



・インストラクター



・柔道整復師



・理学療法士



今回の活動の反省

今回の活動では、最初の準備で自分の準備が足りなかったことや、道具の準備が足りなかったことなど、反省することができた。また、今回の活動を通して、自分自身も成長することができた。

今後の活動予定

- ・卒業生、トレーナー
- ・チャレンジライティングウォール
- ・オリエンテーリング

感想

今回の活動で学んだことを活かして、これからも仲間と協力して頑張ります！

教科名	地域探求	科目名	地域スポーツ I				単位数	1単位	
対象・学年	2年アウトドアスポーツ系9名				必修の別	必修			
1 仮説・ねらい	<p>①「安心して暮らせるまちづくり」を目指し、「健康づくりと地域活性」をテーマとした探究活動を行いながら、新たな価値を発見する能力や自己表現力を養う。</p> <p>②高齢者の健康づくりをテーマに、香美町がすすめている「元気体操サークル」の普及に取り組む。また、身体機能改善状況を分析し、元気体操～南中ソーラン編立位バージョンへの創作活動を行う。</p>								
	地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コードイネート力	⑧自己表現力
		◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	元気体操普及活動			元気体操（座位バージョン）反復練習 地区訪問指導				
	2学期	元気体操普及活動			指導者講習会開催				
	3学期	元気体操創作活動・デモテープ作成			元気体操（立位バージョン）創作活動 デモテープ作成				
3 実施内容	<p>(1) 元気体操普及活動</p> <p>①5/24(火) 地区での元気体操講習会に向けて、昨年度完成した元気体操～南中ソーラン編立位バージョンへの反復練習を行う。</p> <p>②5/26(木) 司会進行役、体操効果説明係、体操指導係など役割分担を行い、リハーサルを実施する。</p> <p>③東上地区にて村高元気体操講習会を実施。 日時：6月 2日(木) 会場：東上公民館</p> <p>④忠宮地区にて村高元気体操講習会を実施。 日時：6月 2日(木) 会場：忠宮集会所</p> <p>⑤兎塚地区にて村高元気体操講習会を実施。 日時：7月12日(火) 会場：兎塚公民館</p> <p>⑥地域の指導員の方を対象に指導者講習会を実施。 日時：7月14日(木) 会場：香住文化会館大会議室</p> <p>(2) 元気体操創作活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 元気体操～南中ソーラン編立位バージョンへの創作 1/23(月) 1/30(月) 2/6(月) 2/13(月) 3/15(水) 3班に分かれ創作活動を行う。 リズム系、パワー系、ストレッチ系などの特徴がある体操が創作できた。 元気体操の作成にあたり、香美町福祉課より改良点を指摘いただき、体操内容をブラッシュアップする。 講師：鳥取大学 関耕二氏(准教授) 香美町職員 山本美樹氏(福祉課) <p>(3) 地域ケア研究会実践報告発表 日時：2月18日(土) 会場：但馬長寿の郷</p> <ul style="list-style-type: none"> 但馬圏域の保健・医療・福祉等の地域ケアに関わる者が一堂に会し、実践報告と調査研究報告を基に、意見交換を行った。 								
4 生徒感想	<p>2年生の初めから、学んできた南中ソーランを高齢者の方にわかりやすく教えられるように指導を受けてきました。その後は普及活動を地域に出向いて行いました。まず村岡地区で最初行いました。とても緊張しましたがシナリオ通りに進めることができ良かったです。次に向かった小代地区では、高齢者の方々とたくさん会話しながら元気体操と一緒に行うことができました。最後の兎塚地区では、回数を重ねたので、緊張せずに普及活動ができました。これらの普及活動を通して、今後の活動に対する自信ができました。また元気いっぱいの高齢者の方々のおかげでこちらも元気になることができました。この普及活動以外にも指導者向けの講習会にも参加しました。指導者向けの為「より分かりやすい指導」を心がけることにしました。その結果、「私たちのためにここまで来てくれてありがとうございます！わかりやすかった！」などの言葉をいただくことができ、大変やりがいを感じました。これらの活動を通して高齢者の方と話す機会を得られたことは、とてもいい社会経験の一つになりました。まだこれからも活動は続くので少しでも多くの人に元気体操が伝わればいいなと思います。</p> <p>僕たちアウトドアスポーツ系は南中ソーランを昨年度から幾度も練習してきましたが今回初めて人の前で南中ソーランを披露して思ったことが幾つかあります。最初は自分たちの練習してきた南中ソーランがうまくいくのかと不安な気持ちも多くありましたが、当日はしっかりと練習の成果を発揮することができ、高齢者の方にも、楽しんでもらえるような講習が出来たと自負しています。また自分の思っていた以上に高齢者の方が明るく元気でもとてもスムーズに進行することが出来たと感じています。最後に今回の講習で問題点は何個かあったのでその点を踏まえて高齢者の方が楽しくできるように改善していけたらいいなと思いました。</p>								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コードイネート力	⑧自己表現力
	2021年4月	3.4	3.6	3.2	3.4	3.4	3.7	3.5	3.4
	2021年10月	4.1	4.1	3.7	4.0	3.5	3.8	4.1	3.9
	2022年4月	3.5	3.6	3.5	3.8	3.5	3.8	3.7	3.6
	2022年10月	3.5	3.9	3.9	4.0	3.4	3.7	3.8	3.6
6 成果と課題	<p>昨年度完成した村高元気体操～南中ソーラン編立位バージョンへの普及活動を行った。先輩方が作成したDVDを見ながら、自分たちで反復練習をし、介護予防の観点の効果や効能を説明できるように練習を重ねた。サークルに参加した高齢者の方にみんなで楽しく声を出しながら実施することができた。そして、地域ケア研究会で発表した、専門職の方々と意見交換を行い、知見を広めることができた。</p> <p>また、村高元気体操～南中ソーラン編立位バージョンへの創作活動に取り組んだ。メンバーで意見を出し合い、体操の効果を確認しながら組み立てていった。体操の作成にあたり香美町福祉課の職員や鳥取大学の関先生より専門的な知見からアドバイスいただき、改善していくことで、より効果的な体操に改良されていった。身体活動を通じた体力や健康の維持・向上はますます重要な課題であり、香美町は健康や体力に関心の高い地域である。次年度、普及活動を行っていく中で高齢者の身体機能を分析し、機能維持・機能向上などの効果測定を実施していきたい。</p> <p>最後に、自分たちが創作した体操が、ただ身体を動かし身体活動や身体機能を維持・向上するのではなく、多くの地域の皆さんと一緒に体操を行い、楽しい時間を共有することで、活力ある地域へ繋がると思われる。今後も、普及活動をさらに進め、地域住民がより健康に生活できる地域づくりに取り組んでいきたい。</p>								

2年アウトドアスポーツ系
地域スポーツⅡ
地域づくり×人づくり

【趣旨】

香美町においても少子高齢化が進み、2045年には少子高齢化率が50%を超えることが予想されている（2015年では36.7%）このような状況下で高齢者を中心にスポーツを通して健康づくりを行い、香美町在住の多くの住民が元気になり、地域が活性化していくことを目指し、香美町と協働で取り組みを進める。

活動内容

- 5月 24日 元気体操練習
- 5月 31日 元気体操3パーソナル
- 6月 2日 元気体操（東上）
- 6月 1日 元気体操（忠宮）
- 7月 12日 元気体操（鬼塚）
- 7月 14日 元気体操（香住指導者講習会）



【元気体操の普及活動】

地域活性化のため、先輩から受け継いだ元気体操の普及活動を村岡・小代・鬼塚地区で行いました。



（村岡区：東上）



（小代区：忠宮）



（村岡区：鬼塚）

【結果】

村岡地区では、最初だったので、とても緊張したが、シナリオ通りに進めることができた。小代地区では、高齢者の方々とたくさん会話しながら元気体操を一緒に行うことができた。鬼塚地区では、回数を重ねたので、緊張せずに普及活動ができた。普及活動を通して、今後の活動に対する自信が付き、元気いっぱいの高齢者の方々のおかげでこちらも元気になった。

【反省点】

開始時に動作の説明を忘れたところがあった。

【改善点】

見本を見せるときは一步前に行き、かつ動きを大きくする。

【感想】

回数を重ねるごとに「より分かりやすい指導」を心がけた。その結果、「私たちのためにここまで来てくれてありがとう！わかりやすかった！」などの言葉をいただくことができ、大変やりがいを感じた。

香住での元気体操指導者講習会

(2022. 7. 14)

※ 趣旨と目的

香住での元気体操指導者講習会ということで、私たちが指導者に対して様々な部分を伝達し、各地域で普及して頂くことを目的としました。



※ 講習会の様子

この講習会では、詳しくが必要なのでいつもより時間を割く必要がありました。ですが、来て下さった方々がとても理解力が高くてスムーズに講習を進めることができました。



↑自己紹介をしている様子



↑元気体操を一緒にしている様子



↑小代区での準備の様子



↑事前練習の様子

経緯とこれからの活動

これまでの活動を通して高齢者の方とどのようにコミュニケーションをとるか考える必要があるという事、また、腰りを教える時にまだ覚えられていない場合があるという事がわかった。リズムが速くなることや曲の入りなどのところをもっとわかりやすくする。

今後の内容

- 立つたソーラン節の考案・制作
- 元気体操の練習

まとめ

2年生の初めから、学んできた南中ソーランを高齢者の方にわかりやすく教えられるように指導を受けてきました。高齢者の方と話す機会を得られたことは、とてもいい経験になりました。社会経験の一つとして良い力になりました。

教科名	地域探求	科目名	地域スポーツⅡ					単位数	1単位
対象・学年	3年アウトドラスポーツ系11名						必修修の別	必修修	
1 仮説・ねらい	<p>①香美町、香美町教育委員会、地元アウトドラスポーツ施設経営者などに「自然や暮らし（地域資源）を活用した観光・レクリエーション産業の活性化」、「安心して暮らせるまちづくり」をテーマとした活性化方策の提案とその実現に向けた地域との連携を一層深めることで、郷土愛を育む。</p> <p>②香美町で生涯スポーツの国際総合競技大会であるワールドマスターズゲームズ関西オリエンテーリング競技開催に向け、オリエンテーリング競技を学び、健康増進のための普及活動を行うと共に地域活性につなげる。</p>								
	地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コード・ネット力	⑧自己表現力
		◎	◎	○	◎	○	◎	◎	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーリング普及活動 香美町主催オリエンテーリング大会			オリエンテーリング大会競技運営 オリエンテーリング競技大会参加				
	2学期	オリエンテーリング普及活動			オリエンテーリング大会競技運営 村高フォーラムでオリエンテーリング体験コーナーを設置する。				
	3学期	オリエンテーリングまとめ			今後の普及活動について検討する。 報告書作成。				
3 実施内容	<p>(1) オリエンテーリング普及活動</p> <p>①1年生対象に体験会を実施 日時：6月17日（金） 講師：関耕二准教授（鳥取大学）</p> <p>事前準備</p> <ul style="list-style-type: none"> 6/7 マップ作成：村岡高校敷地内の地図にポイント、ヒントを落とし込む。 6/16 コース設置：地図上の赤丸・番号の位置にフラッグ・コントロールを設置。 6/10 企画作成：大会運営に関する規定やタイムテーブル作成。役割分担を行う。 6/16 リハーサル：実際にシステムを起動させ、チップをコントロールに差し、タイム計測が正常に作動するか確認する。 <p> *村岡高校オリエンテーリングマップ</p> <p> *タイム測定のチップ</p> <p> *目印のフラッグとコントロール</p> <p>②村岡区中央公民館の企画、土曜チャレンジ学習参加の小学生対象に実施 日時：8月24日（水） 講師：田中和彦氏（香美町教育委員会）・邊見権氏（村岡区公民館）</p> <p>事前準備</p> <ul style="list-style-type: none"> 8/3 会場となる御殿山を視察。 8/22 マップ及び企画作成し、コース設置する。 8/23 リハーサル <p>③体験会 日時：10月8日（土） 村高フォーラム参加の中学生、高校生、学校運営指導委員会及びコンソーシアム関係者に体験会を開催する。</p>								
	<p>(2) オリエンテーリング大会に競技者として参加</p> <p>①みかた残酷マラソン前日に行われたオリエンテーリング大会参加 日時：6月11日（土） 第1位 村岡高校3年男子N君</p>								
4 生徒感想	<p>今回のイベントの感想は今まで、オリエンテーリングに限らず様々なスポーツを体験してきましたが今回のイベントでは自分たちが運営側となって1年生に体験させるという、いつもとは自分の立場が逆になるイベントでした。自分は体育館ver.の地図作成と1年生を並べさせた後に準備体操をする役割でした。自分が一番苦労したことは、地図作成で体育館の大きさに対するマットやイスなどといった障害物の大きさがわからなかったり、そもそもExcelの詳しい使い方がわからなかったりしてスムーズに作成することができなかったり、1年生を体育館に集めるときに自分の指示の仕方が悪くうまく整列させることができなかったことです。このような反省から地図作成をする前にあらかじめ地図作成の仕方を復習し声をかける内容を工夫して1年生に伝わりやすい内容にすればよかったなと思いました。また、色々なスポーツの体験会や大会の運営の方たちはこんなにも大変な準備をして体験していただく方に楽しんでもらえるように工夫していたんだなと感じました。これからはスキー部で色々な大会に出ると思いますが、その時にはこの大会を開くまでに大勢の運営の方が事前に入念な準備をしてくださったおかげで自分が大会に出れるんだなということを頭に入れて残りの大会に挑みたいと思いました。</p> <p>今日は実際にオリエンテーリングを体験してもらいました。最初私は小学生が遭難するかもしれないと不安に思っていたのですが、無事全員完走することができました。今回の大会運営を通して学んだことは2つあります。1つめは本番ではうまくいかないこともあるということです。コンパスやオリエンテーリングの機械について、学校で練習した時はうまくいっていましたが、本番になると機械が上手く動作せず焦ってしまいました。2つめはオリエンテーリングの楽しさです。ポイントまで行くために地図を見て走ってまた次のポイントに行く。その間走らなければならない分ゴールした時の嬉しさもあって楽しいスポーツだなと思いました。今後はスムーズに大会運営できるように、機械やコンパスの使い方をマスターしたいです。</p>								
	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コード・ネット力	⑧自己表現力
	2021年1月	3.3	3.5	3.0	3.5	3.3	3.0	3.1	3.4
	2021年4月	3.6	3.6	3.6	3.4	3.5	3.8	3.3	3.5
	2021年10月	3.5	3.7	3.8	3.6	3.5	3.9	3.5	3.2
	2022年4月	3.4	3.5	3.3	3.8	3.3	3.7	3.7	3.5
2022年10月	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.7	3.8	3.7	
5 評価	<p>昨年度からオリエンテーリング競技について基礎講座を学び体験する中で、仲間と過ごす楽しさに気づき、リーダー性や協調性を養うことができた。そして、今年は高校1年生や小学生、また村高フォーラムに参加された様々な世代の方々やオリエンテーリングを通して交流することができ、企画したそれぞれの大会において、私たち自身の課題発見能力や表現力などの力を伸ばすことができた実感している。また、私たちの活動で、地域にオリエンテーリングの見識を深め、ワールドマスターズゲームズ関西オリエンテーリング競技に向けて微力ながらも普及の一助となったのではないかなと思う。オリエンテーリングという競技を題材にした探求活動を通して、少子高齢や近年の地域社会における近隣関係の希薄化、またコロナ禍における人と人の交流の機会の減少という状況の中で、私たちが企画したようなオリエンテーリング大会（スポーツイベント）は、地域住民の交流や触れ合い作り出し、活力ある地域社会の形成にも大きな役割を果たすものであると実感した。このように地域資源を活用し、住民のニーズに対応した生涯スポーツを行うことで、日常的に身体を動かす機会が増え、子どもから高齢者まで体力向上につながり、社会全体の豊かさにつながると思う。今後も、オリエンテーリングを地域の自然を活用した生涯スポーツとして継続できるように努めていきたい。</p>								
	6 成果と課題								

3年生アウトドアスポーツ系

地域スポーツII

地域スポーツIIの活動目標は健康づくりと地域活性化です。そのためオリエンテーリングの普及活動を行うとともに地域の健康を推進していければと思っています。

オリエンテーリングとは

地図とコンパスを用いて、山等に設置されたポイント探し、ゴールまでのタイムを競うスポーツです。



私たちは本来、2021年に開催予定のワールドマスターズゲームスに向けてオリエンテーリングの普及活動を行ってまいりました。コロナウイルスの影響で2026年に延期になってしまいましたが、今でも継続的に活動を行っています。

オリエンテーリングで使用する道具



[コンパス]



[フラッグ]



[マップ]



[シカード]

マップの見方

これはオリエンテーリング専用の地図です。マップの裏とコンパスの表を合わせ、黄色いマーカーリングを照らして向きを合わせ、その位置を調べます。コンパスの針が正確に指すように、マップの中心がスタートし、ゴールまでのポイント（フラッグ）を確認し、ゴールを目指します。

フラッグ・コントロール

旗、チェックポイント（フラッグ）をコントロールポイントに持っていき、シカードをコントロールポイントに差し込むことでポイントチェックポイントを確認し、ゴールを目指します。



活動報告

中高1年生へのオリエンテーリング体験



今まで学んできた知識や経験を活かし、1年生へのオリエンテーリング体験会を開きました。初めて自分たちの力で運営を行ったので少

してござってしまいうところもありましたが、なんとか1年生をサポートすることができました。



小学生へのオリエンテーリング体験

土曜日チャレンジ学習のオリエンテーリング体験会では小学生向けにマップに記入する文字をみららびに覚えたいポイントを用意したりするなど小学生を助成させよう工夫しました。



オリエンテーリングの魅力!!!

自然を満喫
できる!



体力と知能
の両立!

オリエンテーリングとは、自然を楽しむレクリエーション性と地図とコンパスを使いこなして走り回る競技性の二つを秘めたスポーツである!!

これらの要素を秘めたオリエンテーリングは地域の様々な人達に楽しんでもらうことができると思っています。これからは地域の健康づくりと地域活性化のために普及活動に取り組んでいきます。

教科名	総合的な探究の時間 (協働のまちづくり)		科目名	民芸班	単位数	1単位			
対象・学年	1, 2, 3年生				必履修の別	選択			
1 仮説・ねらい	南中ソーランを地域のイベントで披露することで、地域の方々との交流を深め地域を活性化していく。また、地域の方々（特に高齢者）でも一緒に踊れる南中ソーランの開発を行うことでさらなる地域の活性化を目指す。								
	地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーション			概要説明・班編成				
		班別討議			仮説・計画立案				
		班別活動①			新入生への指導				
		班別活動②			南中ソーランの全体練習				
	2学期	班別活動③			木遣り太鼓の練習（3年生）/南中ソーランの練習（1、2年生）				
		班別活動④			木遣り太鼓の練習（3年生）/南中ソーランの練習（1、2年生）				
		村高フォーラム			ステージ発表・ポスター発表				
	3学期	班別活動⑤			木遣り太鼓の練習（全員）				
		班別討議			検証・改善				
		活動報告書作成			個人レポート作成・活動報告書作成				
	総合的な探究の時間発表会			ステージ発表					
3 実施内容	<p>班別活動① 新入生への指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生と3年生による南中ソーランの披露 ・6人程度のグループに分かれ、1年生への南中ソーランの指導 <p>班別活動② 南中ソーランの全体練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を用いた踊りの改善 ・グループ毎の個別練習 ・全体練習 <p>班別活動③ 木遣り太鼓の練習（3年生）/南中ソーランの練習（1、2年生）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生による木遣り太鼓の練習 ・南中ソーランの練習（1、2年生） <p>班別活動④ 木遣り太鼓の練習（3年生）/南中ソーランの練習（1、2年生）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生による木遣り太鼓の練習 ・南中ソーランの練習（1、2年生） <p>班別活動⑤ 木遣り太鼓の練習（全員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6人程度のグループに分かれ、1、2年生へ木遣り太鼓の指導 								
4 生徒感想	<p>・私はこの3年間、他の班ではすることの出来ない経験をたくさんさせてもらい、とても充実した時間を過ごすことが出来ました。1年生の一番最初の授業で上級生の優しく、真剣な姿に憧れ、そんな先輩になりたいという目標を抱き、早2年が経った今、指導する側に立つ難しさをとても実感しました。（3年生）</p> <p>・みかた残酷マラソンや村岡ダブルフルウルトラランニングは、今年私たちは初めてだったので、分からないことや何度も何度も踊ることなど知らないことが多くて「まだ踊るよ」などと言われた時は心が折れそうになりましたが、皆で助け合い、声をかけ合い、協力しながらとてもしんどかったけど最後まで踊ったあとは達成感があり、最後まで諦めずがんばってよかったなあと思いました。（3年生）</p> <p>・今年で2年目となる民芸班の活動でした。去年と変わったことは、南中ソーランの踊りが上達できたことです。左右の踊りを学び、キレがあるような動きができるようになったと思います。ただし、声をもう少し出せるようにしていきたいと思いました。木遣り太鼓についても学んで上達していけたらと思います。（2年生）</p> <p>・民芸班に入って間もない頃は振り付けを覚えるのが大変で、とても苦労しました。ただ覚えて踊るだけでは何の意味も無いので、ここの振り付けはこういう意味があるのか何のために踊るのかという事を考えながらたくさん練習を重ねました。（1年生）</p>								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
	2022年4月	3.8	3.8	3.5	3.7	3.5	3.9	3.8	3.5
	2022年10月	3.9	3.8	3.7	3.8	3.7	3.9	4.0	3.8
6 成果と課題	<p>今年ではコロナ禍ではあったが、感染対策を徹底しながら地域の方々の前で南中ソーランを披露する機会があった。披露できたのは村岡地域福祉まつり、第1回オープンハイスクールや村高祭、村高フォーラムなどであった。さらにみかた残酷マラソンや村岡ダブルフルウルトラランニングでもランナーに向けて、熱い声援と共に南中ソーランを披露することができた。2・3年生は各自がよりよい踊りができるように練習を重ねるとともに、南中ソーランを1年生に指導することを熱心に行った。また昨年に引き続き、3年生男子だけでなく女子による木遣り太鼓の披露も行った。班別活動④では来年度以降に向けて、1、2年生も木遣り太鼓の練習を行った。課題としては、「お互いコミュニケーションをしっかりと取り合う」「声量をあげる」「木遣り太鼓の練習を重ねる」といったことが挙げられた。</p>								

～民芸班～

私たちは、村岡高校で「地域元気化プロジェクト」の一環として、スキー部と男女バレーボール部の部員を軸に活動しています。主に学校行事のオープニングや地域行事に出演し、南中ソーランと水遣り太鼓を披露しています。

・水遣り太鼓

伊豆諸島の一つである三宅島で育まれてきた太鼓です。三宅島は小さな島ですが、地形の変動が地震を引き起こし、マグマの活動は地鳴りの噴火となり、その強大なエネルギーは非常に強力で人々を圧倒します。このように怪やかさど厳しさを併せた島の中で育てられてきたのが、「水遣り太鼓」です。



男子の水遣り太鼓

・南中ソーラン

民謡歌手の伊藤多喜雄が北海道の民謡であるソーラン節をアップテンポにアレンジした曲を用いた踊りの通称名です。鶴岡市の南中学校の教師と生徒が考案したことが名前の由来です。アレンジされ、誕生したパターンも含め、国内の学校の運動会や体育祭等で広く踊られることでも知られています。



男子南中ソーラン



女子南中ソーラン

目標 南中ソーランを通して地域活性化を目指す

- ①完成度をより一層上げる
- ②高齢者の方に披露するだけでなく、一緒に踊れる「高齢者バージョン」も披露する
- ③女子も水遣り太鼓を披露する

実証結果

新型コロナウイルスの対策を徹底し演習や水遣り太鼓の練習を行っています。そして、村岡福祉祭りやオープンハイスクールや村高祭など様々な行事で披露することができました。

そして今年度は、三年ぶりにみかた残酷マラソンと村岡ダブルフルウルトラランニングが開催され、地域の方々やランナーの皆さんに披露することができました。

①完成度をより一層上げる

二人一組に分かれて踊りの確認をし、反省点・改善点の意見を出し合いそれを意識しながら練習して一人一人の技術力アップを目標としています。完成度を上げてから披露するよりキレが増しました。



二人一組の練習の様子

②高齢者の方に披露するだけでなく、一緒に踊れる「高齢者バージョン」も披露する

村岡福祉祭りや高齢者の方に「南中ソーラン」を披露しました。しかし、高齢者バージョンは残念ながら披露することはできませんでした。



村岡福祉祭り

③女子も水遣り太鼓を披露する

三年生による水遣り太鼓では、昨年引き続き今年度も女子による水遣り太鼓を披露しました。その結果、見た人に感動を与える事ができました。



水遣り太鼓



女子の水遣り太鼓

～今年度の活動～

みかた残酷マラソン

今年最初の地域イベントはみかた残酷マラソンでした。民芸班はランナーを応援するため、活動しました。踊りの最中にいる人々から「ありがとう」の声や、拍手が聞こえたとき、とてもうれしかったです。



残酷マラソンの様子

村岡福祉まつり

村岡福祉まつりのオープニングで地元の方々に見ていただきました。民芸班全員での活動ではありませんでしたが、一人一人が道力のある踊りをすることができました。



福祉まつりの様子

オープンハイスクール

オープンハイスクールに来てくれた中学生や保護者の方に南中ソーランを披露しました。男子の力強い踊りと女子のしなやかな踊りが合わさり、一味違う演習となりました。



オープンハイスクールの様子

村高祭

私たち民芸班はオープニングで南中ソーランを披露しました。一日目は男子全員で、二日目は女子全員で披露し、村高祭のスタートを盛り上げました。男子は声も大きく迫力がありました。女子は男子とはまた違った、しなやかで美しい演習を行いました。感動を与えました。



村高祭の様子

村岡ダブルフルウルトラランニング

三年ぶりの開催となった村岡ダブルフルウルトラランニングではランナーの方々に応援するための南中ソーランを披露しました。人数が少ない中での活動でしたが、最後までキレのある踊りをランナーの方々、地域の方々に見ていただくことができました。



ダブルフルの様子

～まとめ・今後の展望～

今年は地域のイベントで披露する機会が三回ありました。しかし、中止になったイベントもあり、まだ通常通りできることは嬉しいですが、その中でも自分たちができることを考えて活動しました。練習では、二人一組になり、お互いのスマートフォンで演習の様子を撮影し合い、意見を出し合いました。



その結果、昨年比で完成度を上げることができました。昨年よりも民芸班の人数は少なくなりましたが、一人一人の動きに迫力や力強さがあるので、もっと完成度が上がるよう、今後も民芸班団練を一丸となって頑張ります。

人みな使命あり

教科名	総合的な探究の時間	科目名	紙漉き班	単位数	1単位				
対象・学年	2,3年生			必修修の別	必修修				
1 仮説・ねらい	<p>自らが紙漉きを体験しその技術を高めていくことで、紙漉き体験企画を通じて地域内の人間を巻き込み新たな交流を生み出すことと主な目的として活動を展開する。</p> <p>また、地元の小学生との紙漉き体験の交流を通じて紙漉き技術を次世代へと繋げ、未来への架け橋となる効果も期待する。</p>								
	地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③アレンジメント能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コードイネート力	⑧自己表現力
		◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーション 班別活動① 判別活動② 班別活動③ 班別活動④ 班別活動⑤			概要説明・班編成 昨年度の振り返り・今年度の活動計画立案 紙漉き体験授業の計画討議 「カミドコロながす」にて紙漉き体験授業のシミュレーション 射添小5年生の児童との紙漉き体験 高知県大方高校とのオンライン交流				
	2学期	班別活動⑥ 村高フォーラム 判別活動⑦			ステージ発表の討議 ステージ発表・ポスター作成 紙漉き原料の製作				
	3学期	班別討議 活動報告書作成 総合的な探究の時間発表会			検証・改善 個人レポート作成・活動報告書作成 ステージ発表				
3 実施内容	<p>班別活動① ・元地域おこし協力隊である本多秋香さんの指導のもと、「射添紙でつなごう！村岡高校と地域」をモットーに地域の人と交流を続けること、自分たちが紙漉きの魅力を深く学んでいく方向で活動を行っていくことが決まった。</p> <p>班別活動② ・7月に実施する予定の射添小5年生の児童への紙漉き体験授業で、児童たちに紙漉き体験をより楽しんでもらうために自分たちができることは何かを話し合った。</p> <p>班別活動③ ・前回の判別活動で話し合ったことを児童に体験してもらうために、指導の手順を確認し、色彩豊かに和紙を彩るために原材料の選択について実験を行った。</p> <p>班別活動④ ・射添小5年生（6名）の児童との紙漉き体験を2・3年生の指導のもと行った。今年度は新たな取り組みとして、ダンボールやカレー粉などの染料を加えて紙漉き体験を行った。漉いた和紙をビーズでアレンジを加えることも行うことができ、小学生に大変好評であり、終始楽しみながら体験授業を行うことができた。</p> <p>班別活動⑤ ・お互いの高校で行っている活動を教え合うことで、自分たちのこれらの活動のヒントを得ることができた。また、「いの町紙の博物館」の方にインタビュー調査も行い、紙漉きの原料の代わりになるものや紙漉きを広めるために何を行っているのかなどレクチャーしていただいた。</p> <p>班別活動⑥ ・ステージ発表をするにあたって、自分たちの活動の何を伝えたいのか、うまくいった点・うまくいかなかった点を話し合い、発表の内容を厳選した。</p> <p>班別活動⑦ ・楮の蒸しハギとへぐりと煮熱の実践を行い、紙漉きを行うための前準備としてどのような工程があるのかを体験することができ、紙漉きに対する理解が深まった。</p>								
4 生徒感想	<p>・紙漉き班の活動を通して、「人と人のつながり」が地域を変える力を持っているということを強く学んだ。</p> <p>・新しいものを作るのではなく、人と人が直接交流できる「体験」から生まれる「つながり」こそが地域を中から変えていける、「地域コミュニティ」をつくるきっかけとなれることを学んだ。</p> <p>・自分たちが活動できているのは地域の人たちの支えがあって成り立っているものだと感じた。</p> <p>・紙漉き体験を通じて射添紙のつくる技術は習得したと思っていたが、活動を続けていくなかで紙漉きは奥深いものだと感じた。</p>								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③アレンジメント能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コードイネート力	⑧自己表現力
	2022年4月	3.3	3.5	3.1	3.2	3.1	3.4	3.4	3.1
	2022年10月	3.4	3.3	3.3	3.3	3.3	3.6	3.4	3.2
6 成果と課題	<p>本年度は射添小5年生との紙漉き体験授業以外に地域の人たちと体験を通じた交流を行うことは出来なかったが、紙漉き原料としてダンボールや牛乳パックを使用したり、カレー粉などの染料を試したりするなど自分たちレベルアップを図ることが出来た。小学生との紙漉き体験では、5年生6名が参加したが、そのうち1名しかこれまでに紙漉きの経験者がおらず、まだまだ伝統産業であった射添紙の認知度は低いままであることが分かった。</p> <p>高知県大方高校とのオンライン交流を通じて自分たちの活動を見直すきっかけとなり、紙漉き体験を通じた地域コミュニティをつくるのが、地域を内から変えるきっかけになるのではないかと考えるようになった。小学生との体験授業からも分かったことだが、射添紙の認知度はまだまだ低いため、身近なところから体験を通じたコミュニティをいかに作っていくかが今後の課題となる。</p>								

活動目的

- 紙漉きの魅力を地域内の人にもっと知ってもらおう
- 人と人とのコミュニケーションの間に「紙漉き」という体験を入れる

↓

人と人・地域と地域をつなげ地域活性化を目指す

ポストカード

村岡高校 紙漉き展

「モノ」から「体験」へつなげるための架け橋

ワークショップ in うづかの森

紙漉き体験を通して人と人とのつながりが深まることが分かった

射添小コラボ

- 小学生に実際に紙漉き体験をしてもらう

↓

紙漉きの魅力や地元資源の大切さが伝わり「紙漉き」という伝統の継承

新たな資源の発見

高知県大方高校との交流

- 村岡高校と大方高校でお互いの地域活動についてディスカッションする
- 土佐和紙について学び、射添郷と土佐和紙の関係性を調べる

↓

お互いが自分たちの活動をブラッシュアップ
射添郷が時代を越えてつながっていくためのヒントを得られた

地域と関わる際の視野が広がった
意見交換を通して刺激をもらった

いの町紙の博物館

受け継がれていくためのヒントが得られた

土佐和紙 | いの町紙の博物館 | tamobako.com

教科名	総合的な探究の時間 (協働のまちづくり)	科目名	吹奏楽班					単位数	1単位
対象・学年	1, 2, 3年生						必修修の別	選択	
1 仮説・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を通して地域の方との交流を大切にする。 地域になくってはならない吹奏楽団を目指す。 演奏者も聞いている方も楽しめる演奏を目指す。 								
	地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③アプレベンション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーション			概要説明・班編成				
		班別討議			仮説・計画立案				
		班別活動①			合奏練習①				
		班別活動②			合奏練習②				
		班別活動③			合奏練習③				
	2学期	班別活動④			合奏練習④				
		村高フォーラム			ステージ発表・ポスター発表				
		班別活動⑤			合奏練習⑤				
	3学期	班別討議			検証・改善				
		活動報告書作成			個人レポート作成・活動報告書作成				
		総合的な探究の時間発表会			ステージ発表				
3 実施内容	<p>班別活動① ・みかた残酷マラソンに向けた練習</p> <p>班別活動② ・吹奏楽コンクールに向けた曲練習</p> <p>班別活動③ ・基礎力向上のための基礎合奏および村高フォーラムに向けた曲練習</p> <p>班別活動④ ・村岡ダブルフルウルトラランニングに向けた練習</p> <p>班別活動⑤ ・基礎力向上のための基礎合奏およびアンサンブル練習</p>								
4 生徒感想	<ul style="list-style-type: none"> 地域で演奏する機会が増えて、聴いていただく方に届くような演奏を心がけることができた。 演奏機会は増えたが、目標の「地域になくってはならない吹奏楽団」になれているかどうか実感がないのでさらに地域での演奏機会を増やしたい。 初めて地域行事で演奏することができた。その中で、屋外での演奏では音の飛び方や響き方の違いに気づいたので、来年度に向けて息の使い方や体幹、曲のレパートリーを増やすなどさらなる向上を目指したい。 マラソンでの応援演奏で、多くのランナーの方から感謝の言葉をいただいたり、喜んでいただけて嬉しかった。 活動を通して、楽器の吹き方や聴いてもらえる人に喜んでもらえるにはどのように演奏すればいいのかなどたくさんのことを学ぶことができたと思います。 <p>・活動する中で自分たち自身が地域のために支える存在であることを実感できた。</p>								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③アプレベンション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
	2022年4月	3.6	3.5	3.1	3.5	3.3	3.7	3.5	3.3
	2022年10月	3.7	3.6	3.8	3.7	3.7	3.9	3.8	3.7
6 成果と課題	<p>今年度は、三年ぶりに開催されたみかた残酷マラソンやダブルフルウルトラランニングで応援演奏をすることができた。その中で、ランナーの方々から感謝の声を聞き取ること自分たちが地域行事で演奏することの意義や喜びを実感し、「聞き取り手のことを考えた演奏」について意識することができた。また、活動する中で自分たちの今後の新たな課題も見つけることができたので、来年度につなげたい。</p> <p>また、みかた校との交流をお互いの演奏をビデオレターで贈り合う形で実施した。コロナ禍であっても取り組める新たな演奏形態としてよい例となった。他にも浜坂高校と合同練習をして、お互いの演奏を聴き合い意見をする機会もできた。他校との交流する中で他校と比較し、自分たちの演奏を客観的に見つめるよい刺激となった。</p> <p>ただ、まだ地域施設や行事に赴くことが少ないため、吹奏楽で地域とつながり、盛り上げていく意識は少ないように感じる。今後は「地域になくってはならない吹奏楽班」であるためにはどう活動していくのかを考えていく必要がある。</p>								

吹奏楽班

吹奏楽団の目的

・音楽を通して地域の方々との交流を大切にする
・地域になくてはならない吹奏楽団を目指す

反省点

- ・練習不足（取り決めの遅さ、アーティキュレーションの乱れ）
- ・体の使い方が不十分
- ・個人としてはもちろん、団体としての演奏技術の向上

～今年度の目標～
一人一人がレベルアップを目指し、
全員で楽しめる演奏にする！

今後の活動内容

活動	内容
4月	入学式演奏、新入生歓迎演奏
6月	みかた種馬マラソン、但馬吹奏楽祭
7月	吹奏楽コンクール但馬地区大会
8月	オープンハイスクール演奏
9月	村高祭演奏、但馬高校音楽連盟合同委員会、 村岡ダブルフルクトラランニング演奏
10月	村高フォーラム（平日）
12月	アンサンブルコンテスト但馬地区大会（予定）
2月	ホワイトコンサート（予定）
3月	渥丹川コンサート（予定）

出石特別支援学校 みかた校との交流

みかた校：カップスによる演奏
↓ ピチオレターの連日合い ↑
村岡高校：吹奏楽演奏

演奏した曲
・アラジンドレー
・マリーゴールド
・六甲おろし

活動を終えて
・みかた校の方が楽しんで演奏しているのを見て自分たちも楽しんで演奏しようと思った。
・「ピチオレター」という新しい交流方法に喜びを感じた。

浜坂高校 合同練習・演奏

演奏した曲
・曇天100%
・バラボラ

活動を終えて
・大人気での演奏により厚みのある演奏ができた。
・浜坂高校との交流が深まった。
・楽器の表現の幅、基礎練習のレパートリーが増えた。

残酷マラソン

演奏した曲
・全力少年
・負けないで
・曇天100%

活動を終えて
・屋外での演奏を通して音の飛び方、響き方の違いに気づいた。
⇒音楽室だけでなく屋外や体育館での練習を取り入れる
・ランナーの方々が楽しんでくれたのがよかった。

村岡ダブルフルクトラランニング

演奏した曲
・全力少年
・曇天100%
・負けないで
・マーチ（ライオン・ロード）
・スーパーマリファナーズメドレー など

活動を終えて
・吹奏を通して大変だった。
・体験、体力、息の使いかなどの向上
・曲のレパートリーを増やす

今後取り組みたい事

①中学生との交流演奏
・文化祭で村岡中学校吹奏楽部と合同演奏
・吹奏楽部がない小中学校での演奏や楽器体験

②小学校・幼稚園訪問
・アンパンマンマーチやディズニーなど子ども向けの曲や流行りの曲を演奏する

吹奏楽の楽しさを
子どもたちに知ってもらおう！！

これからに向けて

～音楽部として～
・新しく練習メニューにダンスや体験も導入
・学年による指導
・各一人一人が演奏したい曲を演奏する

～反省点～
・動くのが慣れない人がいる
・指揮を見る余裕が足りない
・練習が特殊な
・吹くことに集中して地域の方々の笑顔の鑑賞が足りない

「自分たちの行動に責任を持ち、
認めて頂ける方々に楽しんでもらえる企画を作る」

教科名	総合的な探究の時間 (協働のまちづくり)	グループ名	食文化班	単位数	1単位				
対象・学年	1, 2, 3年生			必修修の別	選択				
1 仮説・ねらい	地域の方との交流を通じて食文化や伝統料理を知り、高校生目線で地域食材を活用したレシピを考案し、イベントやSNSで発信することで、地域活性化を目指す。								
	地域を育てる学力 に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション 能力	④新たな価値観を 創造する能力	⑤コミュニケーション 能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーション			概要説明・班編成				
		班別討議			仮説・計画立案				
		班別活動①			地元料理研究家木谷先生の料理教室				
		班別活動②			高校生「朝ごはん」コンテスト応募作品考案				
		班別活動③			高校生「朝ごはん」コンテスト応募作品試作(調理)				
	2学期	班別活動④			イベント用レシピ考案				
		班別活動⑤			イベント用レシピ試作				
		村高フォーラム			ステージ発表・ポスター発表				
		班別活動⑥			食糧学院高校生レシピコンテスト考案				
		班別活動⑦			食糧学院高校生レシピコンテスト試作				
	3学期	代表者(2名)活動			香美町ふるさと教育交流会活動発表				
		班別討議			検証・改善				
		活動報告書作成			個人レポート作成・活動報告書作成				
		総合的な探究の時間発表会			ステージ発表				
3 実施内容	<p>班別活動① 地元料理研究家の木谷先生による料理教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・但馬地域の食材を利用した調理実習～海の幸のいただき方～ ・木谷先生による調理実習(鮭のムニエル、イワシの竜田揚げ、シーチキン入り餃子) <p>班別活動② 高校生「朝ごはん」コンテスト応募作品考案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生「朝ごはん」コンテストに応募するため、班ごとに地元食材を利用したレシピを考案 <p>班別活動③ 高校生「朝ごはん」コンテスト応募作品試作(調理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに決めたレシピをもとに試作し、応募のための写真や書類も完成させた <p>班別活動④ イベント用レシピ考案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村岡ダブルフルワルトラランニングや村高フォーラムで提供するためのレシピを考案 <p>班別活動⑤ イベント用レシピ試作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村岡ダブルフルワルトラランニングや村高フォーラムで提供するためのレシピを試作。(実際にはコロナ対策や保健所の基準等の問題があり、食品の提供はできなかった) <p>班別活動⑥ 食糧学院高校生レシピコンテスト考案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食糧学院高校生レシピコンテストに応募するため、班ごとに「感謝」をテーマにしたレシピを考案 <p>班別活動⑦ 食糧学院高校生レシピコンテスト試作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに決めたレシピをもとに試作し、応募のための写真や書類も完成させた <p>代表者活動 香美町ふるさと教育交流会活動発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香美町教育委員会主催の「ふるさと教育交流会」で、食文化班の活動発表およびパネルディスカッションに参加 <p>・今までの活動のまとめ</p>								
4 生徒感想	<p>・木谷先生による実習で、地域食材や魚のいろいろな調理方法を学び、魚調理への苦手意識を克服することができました。</p> <p>・コロナ禍でも地域の方と交流できる方法がある。食文化班のレシピを調理動画として配信するというものである。(何の料理か)(作り方)(注意点やその他細かいところ)(食文化班の生徒からのメッセージ)などをのせればよいと思う。</p> <p>・香美町の農家の人からお話を聞いたり、協力していただいで自分たちで野菜を育てたりしたいと思う。</p> <p>・今まで魚はスーパーで切り身を買って調理していたけど、木谷先生からさばき方を教わって、とても勉強になった。</p> <p>・調理実習の経験をもとに、家で母に小麦粉を使っていないラーメンを作ったら、とても喜んでくれました。料理って楽しいなと思いました。</p> <p>・「朝ごはんコンテスト」で考えた献立を、香美町にある民宿に提供していただければいいなと思った。村岡米や矢田川みそ、香住の魚など、香美町には朝食にぴったりの食材がたくさんあるので、その魅力を伝えたいと思う。</p> <p>・コロナ禍のため、イベントで食品を出すことはできなかったけど、調理実習を通してまだまだ改良しないといけないと感じた部分もあったので、来年以降よりよいレシピで提供できればいいと思う。</p> <p>・地元の食材を提供してもらって、レシピを考えるなどの交流・活動を行って行けば良いと思う。</p>								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション 能力	④新たな価値観を 創造する能力	⑤コミュニケーション 能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
	2022年4月	4.0	3.9	3.6	3.7	3.5	4.0	3.7	3.4
	2022年10月	3.6	3.7	3.6	3.4	3.7	4.0	3.6	3.4
6 成果と課題	<p>今年度は年度途中で担当教員が変更し、(越江先生から育休明けの上野へ)生徒は変化に戸惑いがあったと思うが、よく指示に従い、意欲的に取り組んでいた。</p> <p>一学期は木谷先生の料理教室と、「高校生朝ごはんコンテスト」へのレシピ考案調理実習を行った。毎年恒例の木谷先生の授業は普段あまり行くことのない魚のさばき方や調理方法を学ぶことができ、生徒は異口同音に「ためになった」「楽しかった」と前向きな感想を述べている。「高校生朝ごはんコンテスト」は惜しくも賞を取ることはできなかったが、それぞれが自分の祖父の手料理に思いを馳せて食事づくりに取り組むことができたことは今後の生活にも有意義であったと考える。二学期はフォーラムかダブルフルに提供するためのメニューづくりと、「食糧学院高校生レシピコンテスト」へ向けてのレシピ考案・調理実習を行った。コロナ対策もあって実際に食品を提供することはできなかったが、アレルギー対策を念頭に置いたレシピ考案や「感謝」をテーマにレシピを考えたことなどから、食べる人のことを考えて食事をつくるという「食」を通じた交流を学ぶことができたと思う。</p> <p>今後は、コロナウィルスがなくなることはないという前提で、何か「食べるもの」を提供する以外に、実際に食材を作ってそれを使って調理実習を行ったり、レシピ動画を配信するなど、幅広い活動を展開していくべきだと考える。</p>								

食文化班の活動

(目的)

地域の方との交流を通じて地元の食文化や伝統料理を知り、地域食材を活用したレシピを考案し、イベントやSNSで発信する事で地域活性化を目指す。

(今年の目標)

- ①地域食材を活用し、高校生目線でレシピを考案する
- ②コロナ対策を徹底しながら情報発信の方法を心がける
- ③地域活性化につながるよう皆で熱く取り組む



地域の食材を活用した調理実習

・ねらい

- 1 地域の食材を味わう
- 2 イワシの手開きを学ぶ
- 3 さまざまな魚料理の調理法を学ぶ

講師の先生に来ていただき、イワシの手開きや餃子作りに挑戦しました。

(メニュー)

- ・鮭のムニエル
- ・イワシの竜田揚げ
- ・シーチキン入り餃子



(感想)

地域食材を活かした料理が作れました。またあまり体験することの出来ないイワシの手開きも上手くできたので今後の活動に活かしていきたいです！

元気に長生きできる 祖父母の味！ ～地元野菜たっぷり朝ごはん～

4班に分かれ、自分たちで献立とレシピを考案して調理しました。そのうち、2班の献立を紹介します。

①<Let's get nutrition!～栄養をとろう！>

- ・炊き込みご飯
- ・卵焼き
- ・きゅうりのあっさり漬け
- ・根菜の味噌汁



②<元気もりもりふるさと朝ご飯>

- ・マコモダケの炊き込みご飯
- ・人参の炒め物
- ・しじみ汁
- ・あじの塩焼き
- ・梨



卵を使わないクレープ作り

美方大納言の小豆を使ったクレープを作りました。生地は薄力粉、砂糖、牛乳、サラダ油で卵は使っていません。



・トッピングは小豆、バナナ、クリーム、さつまいも、はちみつを使って好きなように盛り付けしました

(感想)

・地元の食材を使ってクレープを作りました。このクレープはイベントで提供する予定で作りました。卵が食べられない人にもおいしく食べてもらえるように工夫しました。

(まとめ)

地元の食材を使って料理をすることで自分たちも地元の食材を知ることができました。また調理実習を重ねて練習することで調理の幅が広がりました。私たちの調理実習で材料を準備してくれた先生だけでなく料理を教えてくれた講師の先生にも感謝したいです。ありがとうございました。



教科名	総合的な探究の時間 (協働のまちづくり)	グループ名	環境A班					単位数	1単位
対象・学年	1, 2, 3年生						必履修の別	選択	
1 仮説・ねらい	1. 棚田保全を通して、より美味しく安全なお米を提供するとともに、棚田の価値と地域経済を向上させる。 2. 棚田の持つ地滑り防止機能を学ぶ。 3. 美味しいお米を生産できる土壌を探る。								
	地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーション			概要説明・班編成				
		班別討議			仮説・計画立案				
		班別活動①			田植え活動				
		班別活動②			地すべり防止講義				
		班別活動③			草取り ワークショップ				
	2学期	班別活動④			水田土壌講義				
		班別活動⑤			棚田稲刈り実習				
		班別活動⑥			水田土壌調査				
		村高フォーラム			ステージ発表・ポスター発表				
	3学期	班別討議			検証・改善				
		活動報告書作成			個人レポート作成・活動報告書作成				
総合的な探究の時間発表会			ステージ発表						
3 実施内容	班別活動① 田植え 講師：小林 良斉 氏（うへ山の棚田・俺たちの武勇田） ・うへ山の棚田での田植え活動								
	班別活動② 地滑り防止講義 講師：藤原 佳史氏（豊岡土地改良センター農村計画課） ・地すべりのメカニズムと棚田が持つ地すべり防止機能について ・日頃から適切に棚田を管理することで、地すべりを防ぐことにつながる								
	班別活動③ 草取り、ワークショップ 講師：小林 良斉 氏（うへ山の棚田・俺たちの武勇田） ・棚田1面分の除草を実施 ・SNSを活用した棚田保全PR								
	班別活動④ 水田土壌講義 講師：山本 定博 教授（鳥取大学農学部） ・米作りに最適な土壌とは？ ・土の色・匂い・感触から判断する								
	班別活動⑤ 稲刈り 講師：小林 良斉 氏（うへ山の棚田・俺たちの武勇田） ・棚田半面分の稲刈りを実施 ・稲をある程度まとめて束にする ・束にした稲を稲架に掛け、天日乾燥させる								
	班別活動⑥ 水田土壌調査 講師：山本 定博 教授（鳥取大学農学部） ・村岡区の田んぼにて、土壌調査を行った。 ・土壌状態を分析する方法について、実践的に学んだ								
4 生徒感想	・環境A班での活動を通じて、棚田は偉大な存在なんだと感じた。今年から環境A班に入り、活動した。それまで棚田はただ段々になっている田んぼという認識だった。しかし活動を通じていくなかで、棚田は土砂崩れ対策になっているほか、町の景観を保つ重要な役割をはたしていることに気が付いた。								
	・この活動をして、棚田の大切さや農業の大変さを知りました。また、その棚田高齢化や後継者問題もあり、棚田の存続が難しくなり、お米を知るという機会も少なくなってきたことに危機感を感じました。								
	・ワークショップでは、キャッチフレーズやロゴ付きTシャツを考案させていただきました。一人ひとり集中して考えていたし、意見を交わすことで違う価値観を発見することができた。								
	・今年の環境A班棚田班を通して学んだことは、土だけに限らず、様々なものを聞いたり、見たり、触ったりすることが大切だということです。僕は教授の講義の中で、「百聞は一見に如かず、百聞は一触に如かず」というフレーズが一番印象に残っています。話を聞くのも実際に現地に行ってみて見るのも大事だけど、一番は自分の肌に触れて感じてみるということが大切なんだと思いました。								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
	2022年4月	3.5	3.8	3.4	3.7	3.5	3.8	3.7	3.6
	2022年10月	3.6	3.8	3.8	3.9	3.3	3.7	3.8	3.7
6 成果と課題	生徒たちは田植え、草取り、稲刈り、そして土壌調査等を通して、棚田保全活動の意義を身体で感じながら実践的に学ぶことができた。それらの学びから、仲間と協力しながら問題解決にチームとして取り組む姿勢を育むことができたことも、成果としてあげられる。SNSを活用したお米や棚田保全のPR活動をはじめ、若者を中心とした多くの人が目を引くようなキャッチコピーや宣伝グッズを作成するなど、高校生の視点から考えられたフレッシュな活動ができた。 今後の課題は、棚田の魅力や保全活動の大切さをさらに多くの人に届ける方法を考えることである。一人でも多くの人に棚田が持つ様々な価値を知ってもらえるよう、活動を進めていきたい。								

環境 A 班 棚田班

～活動目標～

棚田の性質と地滑り防止機能を学び、おいしいお米を香美町外に発信し棚田に興味を持ってもらう

～棚田とは～

- ・山の斜面や谷間の傾斜地に階段状に作られた水田
- ・過疎・高齢化に伴って、1970年代から減反政策の対象として耕作放棄され始めた
- ・今は40%以上の棚田が消えていると言われている

～活動内容～

- 4月13日 オリエンテーション
- 6月24日 ワークショップ
- 5月13日 田植え・工事現場の見学
- 7月13日 草取り
- 8月 5日 山本教授の講義
- 9月16日 稲刈り
- 11月 4日 土壌調査

～地すべり防止機能～

- ・棚田の地すべり防止機能や保全への取り組みについての講義
- ・棚田の耕作を放棄すると、水を貯め込めなくなり地すべりなどが発生しやすくなる



～ワークショップについて～

- ・どのような方法で棚田の魅力についてのディスカッション
- ・キャッチフレーズや縄、ロゴ付きTシャツなどの考案

「おいでよ！ 天空の棚田」

「おいc ヘルc 板cの米」

「あなたの第二のふるさとになるかも」

etc



山本教授の講義 & 土壌調査

「おいしいお米を生産出来る土壌条件を探る」

良食味米を生産できる土壌条件とは

- ・健全な稲穂は健全な根が支え健全な根は健全な土が支える
- ・11月に土壌調査をおこない良いお米が作られる環境について学ぶ予定



今年度の主な活動の様子

田植え

深くまで苗を植えないといけなかった天候が悪く泥で足をとられた

草取り

おもったより草が多かったのもっと効率よくしたらよかった

稲刈り

音が気持ち良かった 稲を束ねるのが楽しかった

まとめ

- ・うへ山の棚田と板仕野の保全活動として田植えを行った

- ・米を美味しく作るための条件を知った

- ・棚田の耕作を放棄すると、水を貯め込めなくなり地滑りなどの災害が起こることが分かった



今回の感想

- ・棚田の美しい景観を保つとともに、農家がお米のありがたさについて身をもって感じる事ができた

- ・棚田には地滑りを防ぐ力があることを知った

教科名	総合的な探究の時間 (協働のまちづくり)	グループ名	環境B班					単位数	1単位
対象・学年	1, 2, 3年生						必修の別	選択	
1 仮説・ねらい	森の健康診断（人工林の混み具合調査）が災害に強い森をつくる第一歩となり、地域の環境保全にもつなげていく取り組みをすすめる。また、森の健康診断をもとに伐採した間伐材を利用した木の駅プロジェクト等に取り組むことによって地域内に経済効果を生む。								
	地域を育てる学力 に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーション			概要説明・班編成				
		班別討議			仮説・計画立案				
		班別活動①			施設見学				
		班別活動②			伐採現場見学				
		班別活動③			森の健康診断講義				
	2学期	班別活動④			森の健康診断講義				
		村高フォーラム			ステージ発表・ポスター発表				
		班別活動⑤			施設見学				
	3学期	班別討議			検証・改善				
		活動報告書作成			個人レポート作成・活動報告書作成				
		総合的な探究の時間発表会			ステージ発表				
3 実施内容	<p>班別活動① 施設見学 講師：北但西部森林組合 ・長板地区のバイオマスセンターで、施設・設備の見学を行った。</p> <p>班別活動② 伐採現場見学 講師：北但西部森林組合 ・丸味地区で森林組合が実際に伐採を行っている現場の見学</p> <p>班別活動③ 森の健康診断 講師：永松 大 教授（鳥取大学） ・相田地区の森林で、森の健康診断の講義と実習を行った。</p> <p>班別活動④ 森の健康診断 講師：西谷 雄紀 氏 ・相田地区の森林で、森の健康診断の実習を行った。</p> <p>班別活動⑤ 施設見学 講師：藤原 博文 氏 ・但馬高原植物園の見学を行った。</p>								
4 生徒感想	<p>・但馬高原植物園では、園内の植生と鹿による獣被害について学んだ。園内には2000種類以上の植物があり、自然を可能な限り残しつつ整備されていることを知った。また、近くには大かつらが古くからあり、その周りに人々が生活していたことを知った。</p> <p>・香美町には鹿がたくさんおり、今の季節は花が咲いていないので、木の皮を剥いで食べている。そうすると、木は腐って土壌が緩くなり、土砂災害を引き起こす要因となることを知った。初めて聞いた話だったのでとても驚いたが、調査をするだけでなく話を聞くことにより、他の観点からも考える大切さを学んだ。</p> <p>・森の健康診断を通して、森林には水源涵養機能、地球環境保全機能、土砂災害防止機能そして地球多様性保全機能という4つの役割があることを知ることができた。</p> <p>・森の健康診断では、いろいろの過程を経て初めて森の状態に気づくことができるということと、森がとても繊細であるということを知ることができた。</p>								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
	2022年4月	3.4	3.6	3.2	3.4	3.4	3.4	3.5	3.5
	2022年10月	3.3	3.5	3.4	3.6	3.5	3.7	3.7	3.4
6 成果と課題	<p>昨年度に引き続き、本年度も森の健康診断を実施でき、経験を引き継ぐことができた。木の伐採や運び出しといった木の駅プロジェクトの活動や、チェーンソー実習の希望があったが、コロナ禍の中では実施できていないので、機会があれば経験させてみたい。</p> <p>マンネリ化している活動の新しい展開を考えていくことも課題として引き続き残っている。</p>								

環境B班の活動目的

はじめに

私たち環境B班は、森の健康診断など森の環境保全を目的に活動しています。森は自然やたくさんの生き物を育ってくれます。だからこそ異常がないかを調べ、私たちが森の健康維持に貢献できるように頑張っています。

今年は丸味の伐採現場の見学や、相田の森の状態確認などの活動をしました。

森林の役割

- ・水源かん養機能 ・地球環境保全機能
- ・土砂災害防止機能 ・地球多様性保全機能

の大きく分けて4つあります。

これらの役割を果たしているか、森の健康状態を調べます。



森の健康診断

活動内容

植生診断や木の密集率を調べることで災害に強い木かどうかを診断して、森が健康であるかどうかを調べます。

そこで今年は相田で3班にわかれてそれぞれの場所で森の健康調査を行いました。



尺蔵の使い方

1. 1人が木のでっぺんが見える場所に尺蔵と30m巻尺、角度計を持って立ちます。
2. 木までの斜距離を測ります。
3. 木の幹の自分の目の高さの所を見て、傾斜角を測ります。
4. 尺蔵のストローを通して木の先端を見て、メモリの先端の値を記録します。
5. 換算表と式を使って樹高を計算します。



まとめ

伐採現場の見学

今回は丸味地区で伐採現場の見学をして、風などの天候によって木を倒す方向を定めてより安全に木を伐採する取り組みが行われていることがわかりました。

木の込み具合調査

森の健康診断を調査したことをデータにまとめて木の込み具合を調査しました。結果は森に入るほど過密であることがわかりました。

振り返って

今年は丸味で伐採現場の見学や相田で森の健康診断を行って、森の健康を保つためにはどうすればよいのか、また健康な森が行っている役割について学びました。これからもっと森についての知識を深めたいです。

教科名	総合的な探究の時間 (協働のまちづくり)	グループ名	地域福祉班	単位数	1 単位				
対象・学年	1, 2, 3年生			必履修の別	選択				
1 仮説・ねらい	<p>①子どもたちや高齢者とのふれあいの場を設け、自分たちの計画した遊びや活動を通して交流をする。</p> <p>②上記の交流を通して「世代を超えた交流の場」を作り、更には地域の人々の世代を超えた交流を盛んにし、地域の活性化につなげていく。</p> <p>具体的な活動として 1) 射添小学校放課後子ども教室における小学生との交流 2) 高齢者施設や独居老人宅への花の配達 3) 公共施設への花の配達 4) 買い物調査 (困りごと調査)</p> <p>を行う。例年、高齢者施設訪問等を計画していたが、今年度もまだコロナ禍にあり訪問することができなかつたため、引き続き「花の定期便」を実施した。</p>								
	地域を育てる学力 に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③アブレベンション 能力	④新たな価値観を 創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーション			概要説明・班編成				
		班別討議			仮説・計画立案				
		班別活動①			購入計画				
		班別活動②			花植え作業				
	2学期	班別活動③			花の配達				
		班別活動④			活動の振り返り				
	3学期	村高フォーラム			ステージ発表・ポスターセッション				
		班別活動⑤			検証・改善				
		活動報告書作成			個人レポート作成・活動報告書作成				
		総合的な探究の時間発表会			ステージ発表				
3 実施内容	<p>班別活動① 購入計画書の作成と配達先の選定 (A, B, Cそれぞれのグループでの討議)</p> <ul style="list-style-type: none"> 購入計画書の作成 - 花の種類、腐葉土の量、プランターの種類・数の決定 購入先との連絡調整 配達先の選定・・・昨年度まで訪問をさせていただいていた高齢者施設、保育園、コロナ禍で日々尽力されている医療機関等、独居老人宅等を中心に選定 水やり当番表の作成 <p>※①と②の間に、代表者が購入先の量販店に花の苗、腐葉土、プランターを購入に向いた。</p> <p>班別活動②</p> <ul style="list-style-type: none"> 花植え作業 - 予定していた花植え作業日が野球部の試合と重なり、残留組数名で花を植える作業を行った。 ※植え付け後は、当番が夏季休業中も含めて朝、夕2回の水やりを行った。 <p>班別活動③ 花の配達</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前に連絡を取っていた事業所等に各グループに分かれて、全員で配達を行った。(一部車利用) <p>班別活動④ 活動の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 班別活動①～③の総括 ア. 反省と次年度へ向けての改善点 イ. 活動を通して学んだこと ウ. 評価すべき点 								
4 生徒感想	<p>・花の定期便での活動で活動したことによって分かったことがありました。それは地域の方には体を動かすことが難しい人がいるのかなか買い物に行けない方がいるということです。そのようなことに気づけたのはこの活動をしたから気づけたんだと思いました。そのことが分かったので、地域の方を対象に買い物調査を頑張ってほしいと思いました。あとは、改めて地域住民の温かさに気づきました。配達をするときに家の場所が分からず困っていたので地域住民の方に助けてもらいました決して嫌な顔をせずに笑顔で分かりやすく教えてくれてとてもうれしかったです。また届けに行ったときに受け取ってくださった方々の笑顔を見ることができてとてもうれしく思いました。</p> <p>・活動を通して、交流することの大切さ、地域の温かさを改めて感じることができました。花の定期便は、私は直接渡しに行くことができず、また地域の高齢者の方々とお話しすることができず、残念だと感じましたが、渡しに行った班員が「笑顔になってもらった」と言っていたため、大切に育ててよかったなと思い、やりがいも感じることができました。コロナ禍でなければ、高齢者施設を訪問し、一緒にゲームをしたり、歌を歌ったりと交流できていたと思います。しかし、地域を歩き、直接渡しに行くことで、すれ違いざまに声をかけてくださる人、道を丁寧に教えてくれる人など、交流会を開いて交流するのは全く違う交流ができたのではないかと思います。放課後子供教室では、遊びをする中で暇にならないように間が空いた時に折り紙をしました。少人数で折り紙をしたのでいつも以上に会話ができ、元気をもらえました。「まだ遊びたい」と言ってもらえた時もあり、このゲームを計画してきたよかったなと思いました。地域福祉班の目的は、高校生と高齢者、高校生と子供が交流することではなく、高齢者と子供をつなぎ、地域のつながりを作ることで、交流して終わるのではなく、次、どう動けば高齢者と子供をつなぐことができるだろうともっと深く考えるべきだったなと私は今後悔しています。高齢者と関わるときに、子供のころの遊びや話を聞き、子供と関わるときにその遊びを計画をしたりと小さなことでもやっておけば、高齢者と子供の交流が実現したときに少しは力になると思います。3年間、地域福祉班に入ったことで、入る前よりも人と交流するのが楽しく思え、自分から話しかけることができるようになりました。地域の方と関わることができてとても楽しかったです。3年間ありがとうございました。</p> <p>・地域福祉班は、学校の外に出て、地域の方々や子どもたちとたくさん交流することができていると思いました。それを生かし、今後は子供と高校生、地域の方々で世代関係なく交流できる機会をつくる活動をしたら良いと考えました。例えば、高校生が子供たちと一緒に何かものを作り、それを地域の方に配るといった活動や子どもたちと一緒に花を宅配するなどです。地域福祉班の目標である「地域とのつなぎ役になる」ために今後もたくさんの人と交流できる活動をしていきたいです。</p>								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③アブレベンション 能力	④新たな価値観を 創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
	2022年4月	4.3	4.2	4.5	4.0	4.0	4.4	4.2	4.1
	2022年10月	4.2	3.9	4.3	4.0	4.4	4.3	4.3	4.5
6 成果と課題	<p>「花を育てて届ける」ために、購入計画に始まり、購入先との連絡、水やり当番の決定、鳥獣被害にあわないための工夫、配布先の選定に至るまで、各班(学年を超えた班編成)で話し合いを進める中で、責任感や協調性、仲間との協力、自然との共生、共存といったことを学ぶことができた。育てた花を施設や独居老人宅への配達を行うことで、地域の方とのふれあいを深めることができた。昨年度から実施した独居老人宅への配達では、家を探すのに地域の方が助けて下さる場面も多く、地域の方々の温かい心に触れるきっかけにもなったと思われる。放課後子ども教室での小学生との交流については、どんな活動をしたら小学生たちが喜ぶかだけでなく、昨年度の反省を踏まえて自分たちがどう動けば小学生たちがルールを守って遊べるかなど話し合い、事前の準備と打ち合わせをしっかりと行えるようになったことが、最大の収穫であり、成長であった。</p> <p>まだまだコロナ禍にあり、地域との直接的な交流が難しい状況ではあるが、与えられた環境の中で自分たちで考え、工夫した交流が行えた。今後は定期便、子ども教室との交流を継続しながら、さらに買い物調査の実施を加え、様々な場面での様々な形の交流を視野に入れて活動の幅を広げ、高校生を軸とした世代を超えた交流の実現を目指したい。</p>								

地域福祉班

1. 活動目的

世代を超えた交流の場をつくる
 高校生が地域の人と交流し地域のつながりを深める
 地域とのつなぎ役になる

2. 活動内容

花の定期便



放課後子ども教室（いそっこ教室）



花の定期便

活動目的

日頃お世話になっている地域の方々に花を
 届けることで地域のつながりを深める

活動内容

- ◇ 5月13日 購入計画・アポ取り
- ◇ 6月24日 購入日
- ◇ 7月12日 花の受け取り
- ◇ 7月13日 花植え
- ◇ 夏休み 水やり
- ◇ 9月16日 花配り

配った場所

- 村岡病院
- 宝樹保育園
- こよし園
- 一人暮らしの高齢者



良かったこと

- ・花を大切に育てることができたので花を届けたときに
 笑顔を見ることができた
- ・買い物に行けない方に喜んでもらえた

改善点

- ・一部の配達先に事前連絡をしていなかった
 → 事前準備を徹底する
- ・配達先を見つけるのに時間がかったため交流する時間が減ってしまった
 → 配達先の情報収集をする

いそっこ教室

活動目的

子供たちとのかわりを通して世代間交流の機会の提供につなげる

活動内容

- 9月28日 ・凧り堀
- ・ボーリング
- ・ドッジボール
- ・折り紙



活動を通して

良かったこと

- ・スムーズに進行できたため交流する
 時間を多く確保できた
- ・折り紙などの個別で遊ぶものを取り入
 れたので子供たちと会話できた

改善点

- ・指示が通ってなくて一人にさせてしまう時があった
 → みんなに集まってもらってから説明をする
- ・ドッジボールで一部の子どもしか投げない時があった
 → ルールを再度示す・全員が楽しく遊べるゲームを考え直す

まとめ

花の定期便では、配達する場所がわからず迷子になっていた時に車で
 その場所まで連れて行ってくださった方がいて地域の方々の温かさを改めて
 知ることができました。ただ花を渡すだけでなく受け取ってくださった方々の
 笑顔を見ることができ、エネルギーをもらうことができました。花を配った際に
 「花をなかなか買えないのでうれしい」と言ってくださり買い物に行くこ
 とが楽しい方がいることが分かりました。今後は地域の人を対象にして買い物誘
 導を行いたいと考えています。

また、いそっこ教室では子供たちが楽しそうに遊んでくれていて、高校生側も
 有意義な時間を過ごすことができました。少子高齢化が進む中で、子供と交流を
 回することはとても貴重な体験だと思えます。これからの活動では今回の改善点を
 踏まえ交流し、世代を超えて交流する機会に役立てられるように学びを得ていき
 たいと考えています。



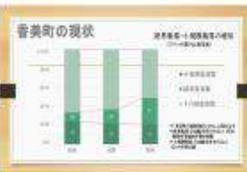
教科名	総合的な探究の時間			科目名	集落調査班			単位数	1単位
対象・学年	2,3年							必修修の別	必修修
1 仮説・ねらい	集落散策や地域の方へのインタビューを通してその地域の魅力を高校生の目線で発見し、その魅力を集めたガイドブックを作成することで「より多くの人に香美町の存在、そしてその魅力を知ってもらい」ことをねらいとし活動を行った。また、その過程で生徒自身に課題発見能力やその解決能力を培わせるとともに、より良く伝えるために必要な力について気づきをもたらすことでそれを涵養させることを目標とする。								
	地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーション			概要説明・班編成				
		班別討議①			仮説・計画立案				
		班別活動①			インタビュー調査の実施・改善点の協議				
	2学期	班別活動②			ガイドブック原稿の作成				
		班別活動③			ガイドブック原稿の作成				
		村高フォーラム			ステージ発表・ポスター発表				
	3学期	班別討議②			検証・改善				
		活動報告書作成			個人レポート作成・活動報告書作成				
		総合的な探究の時間発表会			ステージ発表				
3 実施内容	<p>班別活動① インタビューの実施・改善点の協議</p> <ul style="list-style-type: none"> インタビュー調査①（対象者：野々上区長 田輪 実さん）5/13 インタビュー調査を実施しての振り返り 改善点の共有 村岡商店街地域の一体性を活かした構成・原稿作成を計画 <p>班別活動② ガイドブック原稿の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> インタビュー結果よりガイドブック掲載文章を作成 「香美町の宣伝人」「田園回帰をしたい人」「子育て世代」「外国人」の4つにターゲットを分け、それぞれの集落の魅力に応じて読む人が自分に合った集落を見つけられるように工夫 書き方の統一、内容の精査 <p>班別活動③ ガイドブック原稿の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイドブック原稿のレイアウト 								
4 生徒感想	<p>私はこの2年間の集落調査の活動を通して学んだことが多くあります。まず、地域住民とのコミュニケーションの大切さです。地域住民にインタビューをおこなってきたので、多くの地区の方と話す機会がありました。このときに、ただ聞きたいことを聞くだけでなく、コミュニケーションを交えながらインタビューすることで自分が聞きたい思いと相手が伝えたいことを一致させることができるので、コミュニケーションは大切だと思います。また、質問する際に「私は子どもの時、～なことをしてきましたが、この地区ではそんなものや経験をできるものは何ですか？」のように、自分の経験を交えて聞くことによって、相手も質問に答えやすいのではないかと感じました。次に、自分が学んだことを言語化する難しさです。「私はこんなことをしてきた」というような事実を伝えるだけでなく、そこから何を学んだか、学びからどのようにこれからしていくのが良いかを伝えることが大切であると学びました。村高フォーラムのときにも、隣で話をされていた本校卒業生の方を見て、学んできたことがどんなことか自分で理解しているから、考えをまとめて話せているのだと感じ、自分も話せるようになるために学びを理解して言葉にしていこうと思いました。最後に、集まった考えをまとめることです。ガイドブックを作るうえで、出された魅力をどのように伝えればより伝わるのかを深く考える力がつきました。また、文章だけでなく写真やレイアウトも魅力的に見せるための方法も試行錯誤しながら、より良いものを作り上げていこうという思いをもって活動に取り組んでこれたと感じています。この集落調査の活動によって、地域の魅力を引き出すだけでなく、自分たちの能力を向上させることができたと感じています。この能力を活かして、将来社会に出たときも人とのコミュニケーションを大切に、「発信力」を自分自身もつけていきたいと思います。</p>								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
	2022年4月	4.3	4.0	4.1	3.8	3.8	4.3	3.9	4.4
	2022年10月	4.2	4.3	4.3	4.1	3.9	4.3	4.4	4.3
6 成果と課題	<p>集落調査の活動では生徒たちに「より多くの人に香美町の存在、そしてその魅力を知ってもらい」ことを通して地域の活性化をはかること、そしてこの地域貢献活動をするによって自らにはどのように有意義な力が身につけているのかを自覚してもらい、この二つを常々意識してもらい、活動、報告等に取り組んでもらった。感想のなかにはそうした意識付けによる成果が見て取れる。最大の課題は、形骸化にある。もちろん上記したように活動自体が大変意義深いものであることは疑いがなく、総合的な探究の時間に取り組む内容として探究活動であることが求められている以上、年数を追うことに探究が深まる取り組みが必要である。幸いなことに次年度で全集落の取材を終えることとなるので、ここからこれまでの活動がどう活かされていくのかという新しいステップに入ることになるだろう。</p>								

村高発！地域元気化プロジェクト(総合的な探究の時間)

集落魅力発信プロジェクト

1. 研究・活動の目的・動機 兵庫県立村岡高等学校 集落調査班

私たちが住んでいる兵庫県香美町では、高齢化と人口減少が進行し、それに伴う集落の小規模化により消滅の危機にある地域が増えています。そこで私たちは小規模集落に活力を与え、未来に残していくために、集落の魅力を高校生ならではの視点で発見し、発信するガイドブックを作るプロジェクトに取り組みました。



今年、村岡区の調査を行い、村岡区の集落の連携を強め、新たな魅力を発見できるようなガイドブックの作成を目指しています。

2. 研究・活動の方法

取組概要



3. 研究・活動の経過



2.3年生の取り組み

- まちなみ今昔物語
- 村岡こども大名行列
- 山名氏と黒野神社
- 山名氏と法雲寺
- 神話・伝説
- 子供時代の秘密の場所
- ましかとトレジャー

魅力発信 | 集落ガイドブック「むらの風景」vol.5 原稿作成中

ましかとトレジャー In 大学

伊藤 崇作 (いとう ともあき) さん・八重子 (やぶこ) さん
高知がゆかりの作家の皆さんに出会いました。
高知：スズメ、フクロ、ゴキブリ、ゴキブリ、ゴキブリ...
いくつもの動物を調べておられます。
とても勉強心で、スズメに習字、
高知でフクロの習字をさせてください。
なるほど、高知に生かす学生さん、
村岡に集まるのは、「高知」だったそうです。
改めて村岡のことが好きだと再確認できました。

お元気のいい今尾 宗子さんに会いました。
今尾さんの健康法は、散歩とヨガだそうです。
と！

伊藤 崇作 (いとう ともあき) さん・八重子 (やぶこ) さん
高知がゆかりの作家の皆さんに出会いました。
高知：スズメ、フクロ、ゴキブリ、ゴキブリ、ゴキブリ...
いくつもの動物を調べておられます。
とても勉強心で、スズメに習字、
高知でフクロの習字をさせてください。
なるほど、高知に生かす学生さん、
村岡に集まるのは、「高知」だったそうです。
改めて村岡のことが好きだと再確認できました。

お元気のいい今尾 宗子さんに会いました。
今尾さんの健康法は、散歩とヨガだそうです。
と！

高知の作家の皆さんに出会いました。
高知：スズメ、フクロ、ゴキブリ、ゴキブリ、ゴキブリ...
いくつもの動物を調べておられます。
とても勉強心で、スズメに習字、
高知でフクロの習字をさせてください。
なるほど、高知に生かす学生さん、
村岡に集まるのは、「高知」だったそうです。
改めて村岡のことが好きだと再確認できました。

お元気のいい今尾 宗子さんに会いました。
今尾さんの健康法は、散歩とヨガだそうです。
と！

4. 研究・活動の成果の概要

- 集落の魅力発信プロジェクトを通してわかったこと
- 集落の魅力は、そこで暮らす人々の中にある。
 - 魅力を再認識・再発見することで自信と誇りを取り戻す。
 - 集落内外の人々が魅力を共有することで、「絆・つながり」が生まれ、人々の交流・流れができ、移動が起こり、地域が活性化します。

5. 今後の活動

今後は各々の班でまとめた記事をガイドブックに載せるための校閲をしていきます！

6. まとめ

この活動を通して学んだことは、村岡の人の温かみや、地域の方は交流を通して楽しく暮らしていることに魅力を感じました。また、村岡の現状を目の当たりにし、高校生に出来ることは何かを考えたいと思いました。

今年は何年と違う形を用いて活動を行い、戸惑うこともありましたが、班のメンバーと協力して活動ができたと思います。また、ガイドブックを作成することで地域の魅力を伝えて行くことができると考えています。そのガイドブックをより多くの方に手に取ってもらうためにどうするか考えていきます。これからの活動も頑張っていきたいです。

教科名	表現	科目名	スピーチ					単位数	2 単位
対象・学年	3年13名						履修の別	選択	
1 仮説・ねらい	①さまざまな表現方法を実践的に習得し、自分の意見を正確に表現出来るプレゼンテーション能力などの資質や能力を育てる。								
	②高校生が生涯をとおして、主体的に生涯の生活を設定し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を考えると共に、自分の言葉で表現できるようにする。								
	③Society5.0、人生100年時代における、地域と自分の姿を想定することにより、地域の未来を創造し、キャリアプランニング能力を育てる。								
地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コネクティビティ	⑧自己表現力	
	—	—	◎	—	◎	◎	—	◎	
2 年間計画	【スピーチ1単位】				【夢ゼミ1単位】				
	学 期	と り く み	内 容		と り く み	内 容			
	1学期	(1) スピーチ	発声・スピーチ		(1) 私の夢	原稿作成・グループ発表・全体発表			
		(2) 自己紹介	自己紹介文作成・スピーチ		(2) 動機・実現計画・将来展望	原稿作成・グループ発表・全体発表			
		(3) 面接練習	面接カード作成・模擬面接		(3) 私の夢の具体化	原稿作成・作文作成			
	2学期	(4) スピーチ	学校祭から学んだこと等		(4) 未来へのステップを具体化	原稿作成・グループ発表・全体発表			
		(5) ディベート	概要説明・実践		(5) 仕事以外の私の夢	原稿作成・全体発表			
		(6) プレ意見発表	原稿作成・発表		(6) 将来設計	原稿作成・全体発表			
		(7) 意見発表準備	原稿作成		(7) 私の未来設計	原稿作成・作文提出			
	3学期	(8) 意見発表	意見発表 (5分以上)						
3 実施内容	【スピーチ1単位】 (特別非常勤講師：毛戸公彦)				【夢ゼミ1単位】 (特別非常勤講師：岡 伸二郎)				
	1 学期	(1) スピーチ		1学期	(1) 私の夢				
		①自己紹介 (1分) [オンライン授業] ②私のおすすめの〇〇〇(2分) ③気になるニュース (3分)			①原稿作成 ②全体発表				
		(2) 自己紹介 (PR) をつくろう ①自己紹介 (PR) を作成 ③自己紹介スピーチ			(2) 動機・実現計画・将来展望の明確化 ①原稿作成 ②グループ発表 ③全体発表				
	2 学期	(3) 面接練習 ①面接カード作成 ②面接練習		2 学期	(3) 私の夢の具体化 ①原稿の作成 ②作文提出 ③全体発表				
(4) スピーチ ①村高祭から学んだこと		(4) 未来へのステップを具体化する (10段階) ①原稿作成 ②グループ発表 ③全体発表							
(5) ディベート ①原子力発電は必要か。 ②田舎に高速道路は必要か。		(5) 仕事以外の私の夢 ①原稿作成 ②全体発表							
(6) プレ意見発表 ①プレ意見発表準備 ②プレ意見発表 (2分)		(6) 将来設計 (年別別) ①原稿作成 ②全体発表							
3 学期	(7) 意見発表準備 ①意見発表原稿作成		3 学期	(7) 私の未来設計 ①原稿作成 ②作文提出					
	(8) 意見発表 (5分以上) テーマ：①私の趣味 ②私の関心事 (時事問題) ③私のおすすめ ④私の町の将来								
	(9) 自己評価カード記入								
4 生徒感想	<p>・1年間、自分の意見を発表することを続けたことで、苦手だった人前で話すことが、できるようになった。また人の意見を聞くことで自分の考えの幅が広がり、様々な視点から物事が見れるようになった。</p> <p>・将来のことを考えたり、人前に立って発表したり、質問して、相手のことを掘り下げて新しい一面を知ったりでき、楽しい授業でした。進路実現にも、とても役にたった。この授業を選択して良かった。</p> <p>・人前で話すのが苦手で、下ばかり向いていましたが、授業を受けていくうちに慣れてきて、前を向いて話せるようになった。この授業を選択していなければ、克服できなかったでしょう。また集大成となる意見発表で自分の思ったことを言えて、楽しかったです。</p> <p>・これから社会に出て、人前で話す機会があると思うので、スピーチで学んだことが役に立つと思うので活かしていきたい。今まで自分になかったものが学べた1年でした。</p>								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コネクティビティ	⑧自己表現力
	2022年4月	—	—	3.5	—	3.5	3.7	—	3.6
	2022年10月	—	—	3.9	—	3.7	3.8	—	3.7
	2023年1月	—	—	4.5	—	4.6	4.8	—	4.7
6 成果と課題	<p>・コロナ禍で当初行う予定だった発声練習等の基礎トレーニングができていくという難しさはあったが、これから予想される「withコロナ」の時代に対応できる授業形態を模索したことは有益であった。</p> <p>・自己表現 (スピーチ) は経験を積み、それ相応の成果は上がるが、今後は、上手にスピーチすることよりも、「自分の意見を正確に伝える」「他人の意見を正確に聞き取る」ことが求められる。</p> <p>・キャリアプランニングをどう組み立てさせ、実現するような具体的な計画を立てさせて、自分の言葉で話れることが今後の課題である。</p>								

3 研究開発の内容

(2) 成果の普及・広報

- ① 村高フォーラム
- ② 総合的な探究の時間発表会
- ③ 成果物
- ④ 新聞掲載記事
- ⑤ HYOGO×WKC フォーラム高校生 SDGs 探究発表会
- ⑥ 地域ケア研究会発表
- ⑦ ヒーローインタビュー
- ⑧ その他(地域みらい留学等)

3 研究開発の内容

(2)成果の普及・広報

①村高フォーラム2022

【期 日】 2022（令和4）年10月8日（土）

　　《午前》 総合的な探究の時間・地域探求 発表会

　　《午後》 村高フォーラム

【場 所】 兵庫県立村岡高等学校体育館（香美町村岡区村岡2931番地）

【主 催】 村岡高等学校・村岡高等学校PTA・村岡高等学校同窓会（明倫会）

【共 催】 鳥取大学地域学部

【後 援】 香美町・香美町教育委員会

【テーマ】 「地域づくり×人づくり」～若者と地域を創る～

【趣 旨】 日本全体で高齢化と人口減少が進み、全国各地で具体的な対策が検討され始めている。特に過疎地においては「地域」と「学校」の存続が危ぶまれる状況があり、自分が住む地域で活躍し、地域を創っていく若い担い手を育てていくことが急務となっている。このような問題意識を基に、地域をはじめ関係する皆さんと意見交換を行いながら地域と協働する学校づくりを模索する。

【プログラム】

1 総合的な探究の時間・地域探求発表会（10:00～12:30） 司会【生徒会】

①オープニング：民謡集団 蘇武

②総合的な探究の時間 発表（環境A、B班、食文化班、地域福祉班、集落調査班、紙漉き班）

③地域探求・地域学入門発表（地域学入門、地域スポーツⅠ、地域スポーツⅡ、地探Ⅰ、地探Ⅱ）

④ポスターセッション（体育館パネル展示見学）／オリエンテーリング体験会

⑤全体会（各代表者による感想発表会）

⑥フィナーレ：吹奏楽演奏



2 村高フォーラム2022

第1部 開会 総合司会：[村岡高校教頭]

第2部 学校概況説明
「村岡高校の現状と課題」 牧野 徹 [兵庫県立村岡高等学校長]

第3部 基調報告 「ソーシャルマーケティングとしての地域探求」
報告者 白石秀壽[鳥取大学地域学部地域創造コース 准教授]

第4部 討論会「地域と学校／学びが地域を創る」
司会 小泉元宏 [立教大学社会学部現代文化学科准教授]
助言者 山根俊喜 [鳥取大学地域学部教授/副学長]
主催者 牧野 徹 [村岡高校校長]
報告者 白石秀壽[鳥取大学地域学部地域創造コース 准教授]

《パネリスト》

上田 治 (やまもり村岡代表)
今井一之 (芸術文化観光専門職大学職員)
松岡大悟 (NPO法人 TUKULU・香美町議会議員) 欠席
山田貴広 (香美町教育委員会教育総務課副課長)
小林夏綺 (島根大学4年生)
田中暖花 (地域創造系3年生)

第5部 閉会 挨拶 諏訪信彦 [明倫会(同窓会)会長]



②「総合的な探究の時間」発表会実施要項(オンライン)

日 時 令和5年3月7日(火) 2, 3校時(9:40~11:20)

場 所 発表者: オンライン室(管理棟2階)
視聴者: 生徒/各HR教室
運営指導委員、コンソーシアム、学校運営連携協議会、
学校評議委員/会議室

日 程

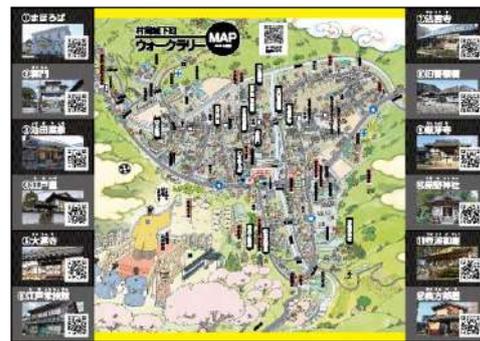
- 1 開会(9:40)
- 2 学校長あいさつ
- 3 生徒発表・質疑応答
 - ①民芸班 ②紙漉き班 ③環境A班[棚田] ④環境B班[森健]
 - ⑤吹奏楽班 ⑥食文化班 ⑦地域福祉班 ⑧集落調査班
- 4 講評[総合的な探究の時間に関して]
 - ①運営指導委員 ②その他
- 5 全体講評[総合的な探究の時間の課題と展望]
石山雄貴氏(鳥取大学地域学部人間形成コース 准教授)
- 6 閉会(11:20)



③成果物



地域探求Ⅱ活動報告書



村岡城下町ウォークラリーMAP



地域探求Ⅱリーフレット



総合的な探究の時間
活動報告書



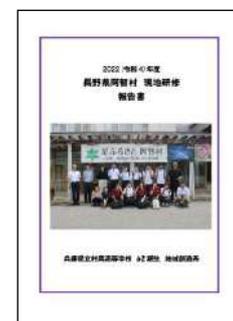
卒業論文



村岡城下町案内板(案内動画付)



村高フォーラム報告書



地域創造系
合宿研修報告書



集落ガイドブック「むらの風景」vol.5



唐三紹介動画

④新聞掲載記事

日本海新聞 2022年(令和4年)4月1日 金曜日

村高生学習成果 DVDや冊子に

高齢者向けの体操は、地域アウトドアスポーツ類の1人が考案した。「村高元気体操 南中1ライン編」と名付け、鳥取大地域学部と同町福祉課が監修し、高齢者がいすに座りながら楽しめる振り付けにアレンジした。

- 高齢者向け体操考案 ■
- 町内の石造物紹介 ■
- 小代21集落特色調査 ■

この20種類の動きを紹介している。出演した中野郁哉さん(18)は「このようなお話を取り入れたらいいのかが、高齢者の立場になって考えた」と振り返った。

香美町村岡区の村岡高(校務校長)の2021年度の3年生が3月28日、高齢者向けに考案した体操をはじめ、石造物や集落の歴史など地域探求学習の成果をまとめたDVDと冊子を作り、同町に贈呈した。体操のDVDは、町内各地の健康推進助成に役立ててもらう。(竹内厚子)

日本海新聞



村岡
町光所・通信部
0796
98-1010

高齢者向けの体操や地域の歴史などをDVDや冊子にまとめた生徒3人が3月28日、香美町村岡区の村岡高

アウトス禍で活動休止しているサークルもある。高校生が考案した体操が、活動再開の起爆剤になればと期待する。同類型の地域創造系の14人は、香住区の商見公園の1小人の舞や、村岡区の家塚地区の「馬の塚」など町内の石造物を紹介するDVDを作った。総合学習の調査班は、小代内21集落の特色をまとめたガイドブックを作成した。

日本海新聞 2022年(令和4年)6月8日 水曜日

棚田から防災考えて

土地改良センター 村岡高生に出前授業



田植えや電気柵の設置を体験する生徒。香美町村岡区板仕野

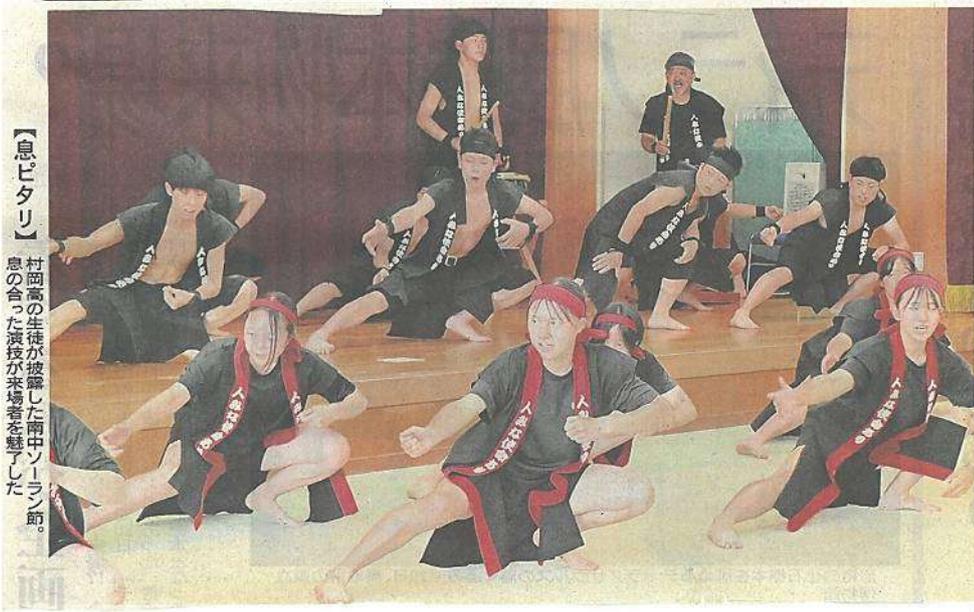
地滑り防ぐ仕組み学ぶ

但馬農協の土地改良センターは、香美町村岡区板仕野で棚田保全活動に関する出前授業を行った。村岡高(飯野徹校長)の生徒が、現地で行っている対策工事を見学するなどして棚田保全が地滑り防止に役立っていることを学んだ。(竹内厚子)

同センターにも多く、但馬「が10カ所あり、同地区地水位の変動が少ない馬地には農林水産省が指も含まれている。人の手で地滑りを防ぐが、近年定する「農地地滑り防止区」維持管理されている水田は、農家の減少などで耕作放棄地が発生している。そこで同センターなどは農作業を補助する棚田ボランティエを募集。同校や同地区の協力を得て昨年度は棚田保全活動を紹介するPR動画を制作した。

この日は生徒6人が、地滑り発生メカニズムなどを学び、対策工事も見て。その後、実際に田んぼに入り、地元農家の指導で田植えや電気柵の設置を体験。ぬかるみに足をこされながらも、まっすぐに苗を植えていった。

3年生の本田香夢さん(17)は「実際に手で植えたことにより達成感を味わえた。水田の管理の必要性が分かった」と話していた。



【息ピタリ】村岡高の生徒が披露した南中ソーラン節。息の合った演技が来場者を魅了した。

香美町村岡区の村岡老人福祉センターで19日、「村岡福祉まつり」があった。新型コロナウイルスの影響で3年ぶりの開催。福祉団体によるバザーや理学療法士の講話などがあり、来場者が福祉について理解を深めた。

福祉意識の高揚と住民の交流を目的に、村岡区の老人クラブ連合会など5団体でつくる実行委員会(西尾高雄委員長)が主催した。会場のバザーコーナーでは、町内にある福祉施設の通所者が製作した人形やパンなどを販売。ステージでは、村岡高の生徒約20人が息の合った「南中ソーラン節」を披露した。

また、町職員で理学療法士の山本美樹さんが「フレイル予防」をテーマに講話し、フレイルは高齢者の健康と要介護の間にある虚弱な状態だと紹介。予防のために「筋力トレーニングと日に当たる運動」「筋肉を減らさないためタンパク質を多く摂取」「友人や家族と関わりを持つ」を推奨した。

同区の生活支援ハウスに入所している遠池静子さん(92)は「これからの運動を続けて元気に過ごしたい」と話した。

当日の会場の様子を写真で振り返る。(前田一樹)

但馬県民局土地改良センターは、香美町村岡区の村岡高(牧野徹校長)で棚田保全活動に関するワークショップを開いた。1～3年生15人が参加し、同区板仕野で行われている「棚田ボランティア」の活動をPRするためのアイデアを提案し合った。(竹内涼子)

棚田保全活動 どうPR?

若いアイデア活発に



但馬県民局 村岡高でワークショップ

同センターや町は今年3月、耕作放棄地が発生している板仕野で農作業を援助する棚田ボランティアの募集を開始。これまでに6人ほどの応募があったが、

より多くの人に活動を知ってもらおうとワークショップを開いた。

生徒たちは「SNS(交流サイト)でトレンド入りするようなインパクトのある写真を発信する」「ライブカメラ映像を活用する」など思い思いに意見を出し合った。ボランティアの活動時に使用するのぼり旗やTシャツなどのデザインも考えた。

ワークショップでの話し合いを聞いていた板仕野の岡田政和区長(70)は「高校生が地域のことを真剣に考えてくれていることがうれしい。若者のアイデアをこれからの地域づくりに生かしていきたい」と話していた。

棚田ボランティアをPRするアイデアを発表する生徒たち＝香美町村岡区の村岡高



人口減少問題について浜上町長(右)に提言する生徒=15日、香美町村岡区の村岡高

人口減対策、町長に提言 「若者目線で住みたい町に」

高松大学 地域探求 村岡

香美町村岡区の村岡高は人口減少問題をテーマに浜上町長と議論し、改善策について意見を交わした。生徒たちは「地域探求講演会」を開いた。生徒たちは「同校が進める地域探求授

業の一端。地域創造類型、アウトドアスポーツ類型地域創造系の1〜3年生33人が参加した。講演では浜上町長が「町の最大の課題は少子高齢化と過疎化。人口は2005年の合併当時から5千人以上減少している」と現状について説明。地域の将来を担う若者の大半が進学や就職で町外に出たきり戻らないとし、「戻ってきてもらうために行政や地域は何をすればよいか」と生徒に問題提起した。生徒は3、4人のグループに分かれ、改善策についてディスカッション。浜上町長に「町内で数年働けば奨学金を免除する仕組みを作る」「高速インターネット環境を整備する」「長く暮らせば暮らすほど、金

を減らす」などのアイデアを提言した。3年の青木勇磨さん(17)は「若者目線で住みたいと思える町づくりを提案した。さらに住みやすい町になればうれしいと話した。(前田一樹)

日本海新聞



束ねた稲を稲木にかけていく生徒=香美町小代区貫田のうへ山の棚田

手刈り、天日干し 収穫の喜び肌で

うへ山の棚田、村高生体験

国の「つなぐ棚田遺産」に選ばれている香美町小代区貫田のうへ山の棚田で、

村岡高(同町村岡区)の生徒が手刈りを行った。昔ながらの手刈りを体験し、農家の苦労や収穫の喜びを味わった。

日本海新聞

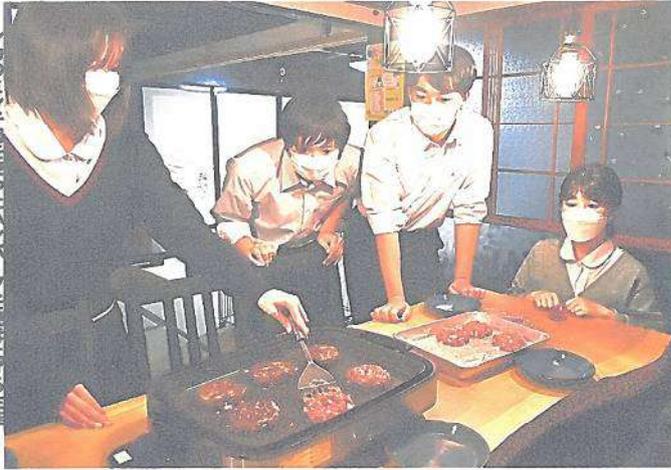
村岡 専売所通信部
☎(0796)98-1010

地域に学ぶ「総合的な学習の時間」の一環で毎年実施。この日は1〜3年生24人が参加し、棚田保全に取り組む地元有志のグループ「俺たちの武勇田」が管理する10坪の田んぼで作業を行った。生徒らは、同グループのメンバー小林良希さん(52)の指導を受けながら、鎌を使って黄金色になった稲を次々に刈り取り、稲を束ねる人、稲木にかける人に分かれ、協力して取り組んだ。天日干した稲は毎年、武勇田のメンバーが精米して同校に贈っている。父親が同グループのメンバーだったという2年生の沢田空響さん(17)は「普段何げなく食べている(飯の)ありがたみが分かった」と話していた。(竹内涼子)

増加のシカを観光活用

村岡高生がツアー案

ジビエ料理やサファリ計画



シカのミンチ肉を使ったハンバーグを調理する生徒たち。17日、香美町小代区貴田の「スミンヤゲストハウス」。

美方郡内で増加する野生のシカを有効活用して香美町のPRにつなげようと、村岡高（同町村岡区）の生徒がジビエの魅力を体感するツアーを考案した。第1回は、12月に同町小代区貴田の宿泊施設「スミンヤゲストハウス」の宿泊客を対象に実施する予定で、17日には生徒たちがモニターングツアーを行った。（竹内淳子）

同地域アウトドアスポーツ類型地域創造系で、3年生の授業の二環。ジビエ活用を取り組むグループの生徒4人は、2年生の時から鳥取大学の教授からマーケティングを学ぶなどしてツアーの構想を練ってきた。

実現に向け、スミンヤゲストハウスの経営者で狩猟免許を持つ田尻隆さんの（29）と夫の和幸さん（32）に協力を依頼。ツアーの日程は1泊2日とし、田尻さんの案内でジビエ料理やシカを捕獲するなどの仕掛け体験、小代区内を自動

車で巡りながら夜の動物を撮影する「ナイトサファリ」などを行う。

モニターングツアーでは、シカのミンチ肉を使ったハンバーグ作り挑戦。手作りしたハンバーグをホットプレートで焼き上げ、全員で試食して「脂身が少なくてあっさりして、クセがない」など感想を述べた。

その後、生徒は田尻さんの案内でナイトサファリを体験。メンバーの一人、中村優月さん（18）は「今まで話し合いばかりでツアーのイメージが湧かなかったけど、体験してみて楽しかったので参加者にも楽しんでもらえると思う。香美町ではシカの被害も増えているが、活用方法もあることを知ってもらいたい」と話していた。

生徒増加へのヒント

少子化による生徒数減少を乗りこえ、生徒数の復活に繋げた村岡高（香美町村岡区）の取り組みをまとめた学びが地域を創る（学事出版）が出版された。鳥取大地域学部の高井一伸教授（47）「農村地理学」が中心となつて執筆し、地域活性化への効果を生み出した学校改革の内情を事例とともに紹介。学校内外の関係者の寄稿も盛り込み、豊後地生き残るための学校の魅力アップへのヒントを記している。（松本妙子、竹内淳子）

村岡高、取り組みが本に 鳥大教授が改革内幕を紹介



学校改革の取り組みをまとめた学びが地域を創る「を手にする校野校長と生徒」8日、香美町村岡区の村岡高。

企画から生徒を募集。さらに合わせた「地域創造系」の2同類型を、スキーやロックコースに細分化した。ライミングなるを通じてスガ改革は功を奏し、入学希望などをまとめた学びが地域を創る（学事出版）が出版された。鳥取大地域学部の高井一伸教授（47）「農村地理学」が中心となつて執筆し、地域活性化への効果を生み出した学校改革の内情を事例とともに紹介。学校内外の関係者の寄稿も盛り込み、豊後地生き残るための学校の魅力アップへのヒントを記している。（松本妙子、竹内淳子）

約10年前から同校の改革に携わってきた高井校長は「無理に地域に呼び戻すのではなく、（生徒が）遠くまで飛んでいける力を付けるのが本来の教育。その結果が、地元への愛着や関係人口の増加につながる」と強調。また、同校の校野校長は「学校と地域、それぞれの目標を達成するために、互いの歩み寄り、互いの効果をもたせよう。これからは地域と人三つの関係を築きたい」と話している。

「学びが地域を創る」は、インターネットなどで購入できる。定価は2000円（税込）。

2023年
(令和5年)
2月4日 土曜日

日本海新聞

スノーダンプを使って雪を用水路に運び出す生徒
3日 香美町村岡区板仕野



村岡高生、雪を用水路に運び出す

住民の安全確保に汗
村岡高除雪隊が活動

村岡高(香美町村岡区)の生徒が、授業の一環として同区の歴史的な場所を巡るツアーを考案した。かつての城下町だったエリアに点在する寺社や史跡など12カ所に看板を設置し、そこに記したQRコードを読み取ることで生徒による解説動画が楽しめる内容。10日には地域の観光関係者や住民などを招いたモニタリングツアーを行い、ツアーの魅力を上向きにしようと意見を交わした。(竹内涼子)

「この日は1、2年生14人が、高さ60センチほどの積雪がある同地区の公会堂や防火水槽周辺で作業。互いに声をかけ合いながら、スコップやスノーダンプを使って雪を用水路まで運んでいった。防火水槽周辺では、1時間ほどかけて地面のコンクリートが見えるまで雪を除去した。岡田政和区長によると、同地区は住民の半数以上が高齢者で、雪かきが追い付かない状況にあるという。『昨年に続き、今年も高校生にお願いで活動してもらった。本当にありがたい』と感謝していた。

同校2年の岡沢有真さんが「みんな協力して作業が早く終わった。自分の住んでいる地域も雪が多いので、これからも積極的に除雪作業を手伝ってきたい」と話した。

2月11日(土) 日本海新聞 村岡専売所・通信部 TEL 0796 (94) 0426

城下町の面影訪ね

村岡高生がツアー考案

地域アウトドアスポーツに関する情報を集めるなど、この日のモニタリングツアーは地域創造系で学ぶ3年生3人が「旧城下」をテーマに企画。同区を歩いた人々に「ツアーには、動画制作に不可欠なカメラを貸してあげたい」という思いから、おとろけカメラマンの会が協賛し、村岡1年の時に島取大の教授を制作したり、観光スゴい民俗資料館、まほろばからマーケティングを学ぶことで解説動画を撮影し、やまなま歴史館からQRコードを制作し、看板を設置した。

村岡高(香美町村岡区)の生徒が、授業の一環として同区の歴史的な場所を巡るツアーを考案した。かつての城下町だったエリアに点在する寺社や史跡など12カ所に看板を設置し、そこに記したQRコードを読み取ることで生徒による解説動画が楽しめる内容。10日には地域の観光関係者や住民などを招いたモニタリングツアーを行い、ツアーの魅力を上向きにしようと意見を交わした。(竹内涼子)



看板に記されたQRコードを読み取って解説動画を視聴する参加者(右)=10日、香美町村岡区村岡

QRコードから解説動画へ



生徒が出演する解説動画

「ドキュメンタリー動画を撮影する機会を設け、生徒が出演する解説動画を制作した。動画では、生徒が解説している様子や、歴史や建物の特徴など、メンバーの一人、西谷を説明。参加者は熱心に聞き、岡沢さんは「モニタリングツアーを通して、同区村岡の歴史や文化について、元の人にも地域の魅力を再発見してもらいたい」と話している。

⑤HYOGO×WKCフォーラム高校生SDGs探究発表会2022

1 目的

- (1) 高校生のグローバルな社会課題等への関心を高め、コミュニケーション能力や課題発見能力、問題解決能力の向上を図る。
- (2) 持続可能な社会の担い手になるため、SDGsを基にして、地球市民としての在り方や生き方を、高校生が考えるきっかけとする。
- (3) 開発教育や課題研究に取り組む高校と大学、国際機関との交流を促進し、ネットワークの形成を図り、教育内容の充実を図る。

2 主催兵庫県教育委員会、WHO神戸センター（WKC）

3 幹事校 兵庫県立兵庫高等学校

4 ポスターセッション発表

村高発！地域元気化プロジェクト(総合的な探究の時間)

棚田保全活動について

兵庫県立村岡高等学校 環境A班 中村柊也・山田峻大

15 時の書かさも
守ろう

1. 研究・活動の動機・目的

棚田とは?
山形の棚田や平野に切り開いて形成した田んぼのこと。棚田の景観から見える緑豊かな山並みが美しい完成景観の一つ。この景観は日本の棚田百景に選ばれ、またその棚田と田舎の風景が美しい棚田百景を、棚田百景百景にも選ばれ、重要な場所でもあります。

活動の目的・仮説
近年、高齢化や農家が少なくなることから耕作地が減少し、棚田の景観も失われつつある。このままでは、棚田の景観も失われ、田舎の風景も失われていく。このままでは、棚田の景観も失われ、田舎の風景も失われていく。このままでは、棚田の景観も失われ、田舎の風景も失われていく。

2. 研究・活動内容③「保全活動を広める」

活動内容③
6月5日 土曜講座開催
6月13日 土曜講座開催
6月24日 ワークショップ
7月13日 土曜講座開催
9月16日 土曜講座開催

2. 研究・活動内容①「景観を保つ」

活動日程
5月13日 田植え
7月13日 草刈り
9月16日 草刈り
11月4日 土曜講座開催

活動内容①
5月13日 田植え
7月13日 草刈り
9月16日 草刈り
11月4日 土曜講座開催

2. 研究・活動内容④「保全活動を広める」

活動内容④
6月24日 ワークショップ
7月13日 土曜講座開催
9月16日 土曜講座開催
11月4日 土曜講座開催

2. 研究・活動内容②「景観を保つ」

活動内容②
7月13日 草刈り
9月16日 草刈り
11月4日 土曜講座開催

3. 研究・活動の成果・まとめ

農業町棚田ボランティア募集活動
「農業町棚田ボランティア募集活動」の成果を報告しました。ボランティア募集活動は、棚田の保全活動に大きな貢献をしました。今後も、ボランティア募集活動を継続してまいります。

59

⑥地域ケア研究会発表

2023年2月18日(土)兵庫県立但馬長寿の郷(主催:兵庫県但馬県民局 長寿の郷)において令和4年度代22回地域ケア研究会が開催され、村岡高校地域アウトドアスポーツ類型アウトドアスポーツ系生徒が地域探求Iで活動している「地域活性化のための村高元気体操」の実践発表を行いました。多くの方から好評をいただきました。



⑦ヒーローインタビュー

昨年度から引き続き、卒業生インタビューを行いました。インタビューを行うのは校長です。インタビュー内容は、高校時代に頑張ったことや苦勞したこと、現在の目標や夢などについて1時間程度インタビューを行います。開催頻度は2021年11月から毎月1回で全12回開催しました。このヒーローインタビューを通して、卒業生が実際に経験した生の話が聞け、村岡高校と卒業生の関係を深めること等に繋がっています。



⑧その他

1. 地域との協働による高等学校教育改革推進事業

- ・令和4年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」全国サミット
1月17日（火）
- ・令和4年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」成果検証事業イノベーション調査
1月25日（水）
- ・令和4年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」成果検証報告会
3月17日（金）

2. 「地域みらい留学」への参加

【主催】（一財）地域・教育魅力化プラットフォーム、内閣府、地域みらい留学推進協議会

【共催】島根県教育委員会、【共催】総務省、文部科学省 【協力】日本財団

◎登録料（88万円）については香美町の高等学校魅力化支援事業（年間180万円）より支出「地域みらい留学」と

都道府県の枠を超えて、社会課題の先進地である地域の学校に入学し立場や世代を超えた多様な人々と充実した3年間を過ごすことを目的とした事業。

都市圏をはじめとする多様な地域から生徒が入学することで以下の点で期待できる。

- ・地元の高校存続の観点で、定員数を担保することが可能になる。
- ・地元の高校生にとって、地元の高校が多様性のある魅力的な選択肢となる。

- ・「地域みらい留学2022」にて中学生、保護者への説明会を実施。合計9回（6/4・5、7/9・10、8/6・7、10/30）下宿生・生徒会・教職員・香美町企画課・香美町教育委員会が参加し、プレゼンテーションを行ったり、質問に答えた。中学生と保護者の参加者延べ238名

3. オープン・ハイスクールの開催

兵庫県の公立中学校、スキー部の西日本大会等に出場している中学校へ学校パンフレット、全国募集ポスターおよびオープン・ハイスクール案内を送付している。

- ① オープン・ハイスクール1回目 令和4年7月30日（土） 参加生徒42名
生徒による学校紹介、授業体験、部活動見学、進路相談会、下宿見学等を実施
- ② オープン・ハイスクール2回目 令和4年10月8日（土） 参加生徒12名
総合的な探究の時間・地域探求発表会、村高フォーラム見学、アウトドアスポーツ体験
生徒による学校紹介、進路相談会、下宿見学等を実施

4. 兵庫県内の公立野外活動施設、アウトドア施設へ全国募集ポスターを配布し掲示依頼する。



3 研究開発の内容

(3)運営指導委員会及びコンソーシアム会議報告

- **第1回運営指導委員会**
- **第1回コンソーシアム、学校運営連携協議会**
- **第2回運営指導委員会、コンソーシアム、学校運営連携協議会
第1回学校評議員会**
- **第3回運営指導委員会、コンソーシアム、学校運営連携協議会、
第2回学校評議員会**

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力型)」

令和4年度 兵庫県立村岡高等学校 第1回 運営指導委員会

- 1 日 時 令和4年6月30日(木) 15:30～
- 2 場 所 兵庫県立村岡高等学校 管理普通教室棟1階「会議室」
- 3 議 題 令和4年度文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」研究開発の進め方について
- 4 出席者

(1) 運営指導委員会

氏名	所属・職	備考
岩切玄太郎	兵庫県企画部総合企画局企画課 課長	関係行政機関
中村 由利	兵庫県教育委員会高校教育課指導主事	関係行政機関
今井 雄治	香美町副町長	関係行政機関
今西 勝彦	香美町企画課 副課長(代理)	関係行政機関
清水 幸信	香美町教育委員会教育総務課長	関係行政機関
山根 俊喜	鳥取大学副学長(入試担当)・入学センター長	学識経験者
西村 功	香美町民政児童委員会 会長	地域住民

(2) 村岡高等学校

事業者	校 長 牧野 徹
(司会)	教 頭 中尾 浩
(記録)	事務長 鶴田 宏
地域アウトドアスポーツ類型責任者 総合的な探究の時間総括	教 諭 足立 祐輔
地域創造系責任者	教 諭 今井 典夫
アウトドアスポーツ系責任者	主幹教諭 藤野 浩司
地域協働学習支援員	教育コーディネーター 高橋 大蔵

5 議事

(1) あいさつ 兵庫県立村岡高等学校 牧野 徹 校長

(2) 自己紹介

(3) 運営指導委員長の選出 ※ 設置要綱第5条

昨年度に引き続き、委員長 山根俊喜氏、副委員長 横山真弓氏を選出

(4) 令和3年度活動報告(中尾教頭)

昨年度の成果 『研究開発実施報告書(第2年次)』 p.15

※ 実績は、目標値をクリアしている。また、第1年次(R2)と比べ、全項目においてポイントが高くなっている。

例) 高校卒業後、地元で貢献したいと思う生徒の割合 本校 76.8%→81.2%、生野(第3年次) 44%

(5) 令和4年度 活動計画

① 目標設定シート【中尾教頭】

『研究開発実施報告書(第2年次)』 p.17 に最終年度の目標値を掲載。

資料『研究開発実施計画書』 p.7 に本年度の開発計画を掲載。

② 資料『村岡高校が取り組む地域づくり(2022年度)』の説明【足立教務部長】

・地域アウトドアスポーツ類型 [学校設定教科 地域探求]

知識だけではなく、学ぶ方法を学ぶ。(第1学年は、地域学入門として地域資源の発掘を行う。)

・アウトドアスポーツ系実施科目 [学校設定教科 総合スポーツ学]

自分づくり、仲間づくり、未来づくり

・総合的な探究の時間 [村高発★地域元気化プロジェクト]

学年を超えた縦割り班による活動。地域イベントの2大マラソン大会の運営に全校生徒がスタッフとして参画する。集落調査では、地域創造系の生徒全員が取り組んでいる。

文部科学省の指定が終了後も、継続して取り組んでいきたい。

(6) 質疑応答

(山根) 「知識ではなく、学ぶ方法を学ぶ」との記載があるが、知識は、活動のベースになるものであり、大切な要素だと思う。

(足立) 説明の際、「知識だけではなく」と説明した。単なる知識のインプットではないとの意味である。

(山根) 昨今、部活動は外部委託し、学校から離れていくような動きがある。明確に、部活動を取り込んだカリキュラムを作成する、総合探究に活動を組み込むのも、学校の特色にならないか。

(岩切) 今年度において終了後を見据えた仕掛け、準備を行っておくことが必要である。例えば、今日の委員会参加者を核として、指定終了後の、活動を持続させるための協議会の枠組みを作る。本県の場合、人口減対策、特に20代の若者の都市部への流出が課題になっている。地元の産業を知る、高校のカリキュラムにこの要素を取り入れれば、地元への定着、郷土愛の醸成に繋がる。

(今井) 大学にはよくあるが、高校にも附属の研究センター、シンクタンク機関があってもよいと思う。この機関で研究されたことを学校が実践する形態である。

(山根) 学校内での世代交代も、重要な要素となるが、この点について、何か対策をとっているのか。

(今井) 校内に高校魅力化推進委員会を特別委員会として立ち上げ、2年目になる。週1回、開催し、20代、30代の先生も加わり、事業検討などを行っている。

(山根) 「地場産業を知る」といった内容を地域探求、総合探究に取り入れてみては、どうか。

(今井) 以前、民間企業とタイアップして、商品パッケージを作るた取組みをした。

(牧野) 前回の運営指導委員会では、観光、起業、自然資源のキーワードを活動に取り入れては、どうかとの助言をいただいている。

(清水) 来年度、文部科学省からの補助金は、なくなるのか？

(今井) 指定を受ける前の状態に戻ることになる。現在、地元 香美町から高等学校魅力化支援事業として、5箇年、支援金をいただいている。この支援金で、①生徒募集（学校案内パンフレットの作成、地域みらい留学推進協議会への登録）、②地域への還元（ガイドブック等の作成）を行っている。

(清水) クラウドファンディング（外部からの資金調達）は、考えていないのか？

(中村) 県教委としては、行っていない。学校単位で寄附金募集は、行っている。

(西村) 鳥取県、島根県へ視察に行ってきた。まちおこしのための移住者施策のテーマとして、「企業を誘致する」のほかに「家族を誘致する」ことを挙げていた。未来を担う子どもが増えないと、継続性のあるまちおこしに繋がらない。

(今西) 香美町は、村岡高校への支援として下宿費の補助も行っている。もちろん、県立高校なら、町ではなく県が支援したらいいといった声もあるが。資金を捻出することも大事だが、資金がなくても出来ることを考えてみるのも必要である。

(山根) 鳥取大学医学部では、今、入院して外出できない子どもたちに院内で打ち上げ花火を見せたいとの取り組みとして、附属病院 HP でクラウドファンディングを始めている。すぐに、寄附金が集まったという事例もある。

(西村) 兎塚小学校が創立 50 周年になるのに際し、実行委員会でクラウドファンディングを始めた。学校も PTA も協力してくれることになった。

(牧野) 本校の地域アウトドアスポーツ類型は、兵庫県下で唯一、全国募集を行っている県立高校である。学校 PR について、内部の者より第 3 者にしてもらった方が、宣伝力がある。地域の方からもバックアップして欲しい。

6 指導助言 高校教育課 中村主任指導主事

文部科学省指定の最終年度となり、来年度以降の持続可能、自走がポイントになる。

これまでの取り組みを体系化し、評価し、外に発信していく時期でもある。村岡高校の取り組みが、全国のモデルになる。事業展開に当たり、ポイントが 5 つある。

- (1) 事業で優先されるのは、生徒の学びの充実である。地域のために生徒があるのではなく、生徒の学びを通じて地方創生が実現されること。
- (2) 探究学習においては、生徒の主体性に配慮する。学びのきっかけとして教師等が課題を設定する場合も考えられるが、生徒の自由な発想が尊重されること。
- (3) 新学習指導要領の趣旨を踏まえ育成すべき能力や人材像を関係者間で共有し指導に当たること。
- (4) 事業成果を高め、持続可能な仕組みを構築する観点から、組織的・計画的な体制の整備が重要である。(教師等の役割を明確にする。カリキュラム開発等の専門家や地域協働学習の支援員等、学校内での役割を明確にする。)
- (5) コンソーシアムの機能を最大限発揮させること。

8 閉会あいさつ 兵庫県立村岡高等学校 牧野 徹 校長

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」

令和4年度 第1回コンソーシアム会議並びに第1回兵庫県立村岡高等学校学校運営連携協議会

- 1 日 時 令和4年7月13日(水) 13:00～
- 2 場 所 村岡高等学校会議室
- 3 議 題 令和3年度文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」研究開発の進め方について
- 4 出席者

(1) コンソーシアム連携協議会

氏名	所属・職	備考
山田 貴広	香美町教育委員会事務局教育総務課 副課長	関係行政機関
今西 勝彦	香美町企画課 副課長	関係行政機関
筒井 一伸	鳥取大学地域学部 教授	学識経験者
上田 治	やまもり村岡 代表	地域住民

(2) 村岡高等学校運営連携協議会

氏名	所属・職	備考
山田 貴広	香美町教育委員会事務局教育総務課 副課長	関係行政機関
中島 保男	香美町立村岡中学校 校長	地域中学校代表
井上 貴博	香美町立小代小学校 P T A会長	地域中学校保護者代表
片山 眞理	香美町立射添小学校 校長	地域小学校代表
西垣 幸造	とちのき村 所長	地域団体
原 みどり	兵庫県立村岡高等学校 P T A会長	高校保護者代表

(3) 村岡高等学校

事業者	校 長 牧野 徹
(司会)	教 頭 中尾 浩
(記録)	事務長 鶴田 宏
地域アウトドアスポーツ類型責任者 総合的な探究の時間総括	教 諭 足立 祐輔
地域創造系責任者	教 諭 今井 典夫
アウトドアスポーツ系責任者	教 諭 西村 誠(代理)

5 議 事

1) 開会あいさつ 兵庫県立村岡高等学校 牧野 徹 校長

2) 報告

(1) 2年次事業報告、今年度事業計画について

類型責任者・総合的な探究(学習)の時間総括 足立教諭

① 第2年次の取り組み

単なる知識のインプットのみに留まらず、様々な活動を通して学ぶ方法を学ぶということを趣旨として、1学年へ「地域を知り」、2学年で「地域を深め」、3学年で「地域を創る」との流れで探究を進めています。

地域創造系3学年は、「石碑を巡る香美の旅」として国際的・芸術的・文化的アプローチを主眼とした活動をした。その成果を動画にまとめたDVDを作成しました。

アウトドアスポーツ系3学年では、「健康づくりと地域活性」のための介護予防体操を考案し、テキストとDVDを作成しました。

② 第3年次の取り組み

地域創造系2年生は「食でつなぐ人と地域」、3年生は「ヒト・モノ・コトを売り出す」とのテーマで探究を行います。例年と同じく、生徒自らが提案した地域課題へのアプローチといった活動を行っております。また、アウトドアスポーツ系2年生は、「健康づくりと地域活性のための介護予防体操」を更にブラッシュアップし、よりよい形で実現することを目指しています。3年生は「スポーツ観光と地域活性のためのリエンテリングの普及活動」を軸として取り組みます。

総合的な探究の時間「村高発★地域元気化プロジェクト」は生徒どうしが議論して改善と更なる充実が図られるように学年の枠を超え、全校生徒を8班に分け、班ごとに課題解決に向けた地域協働活動に取り組んでいます。

この中で、集落調査班のガイドブック作成については、地域創造系1～3学年の生徒全員が取り組み、成果物として毎年、発行しております。

みかた残酷マラソンや村岡ダブルフルウルトラランニングといった地域イベントにも参画し、地域活性化に向けた実践も行っています。

(2) 村岡高校の取組について

本校文部科学省指定事業 カリキュラム開発等専門家 鳥取大学地域学部 筒井教授

村岡高校が地域と関わる活動を始めて10年になるわけですが、この間やってきたことを一度きちんと整理して評価する時期が来ていると感じています。村岡高校は、地元にある高校として地域の中学校から入学してくる生徒がいる一方で、学区外から入学してくる生徒もいます。地域創造系の生徒だけではなく、総合的な探究の時間で全生徒が地域と関わるといった取組をしてきています。こういった取組について、私はプラスのことだと思っていますが、この村高の取組が生徒にとって、どのような意味を持つのか、教育現場にいれば気になりますし、保護者としても気になる場所だと思います。

私は、学校が、地域にとってどんな意味があるのか、学んだ生徒（卒業生）にとってどんな意味があるのかといったことをこれまで議論してきました。村岡高校全般的に取り組んでいる活動のキーワードの1つに「地域を育てる学力」があります。つまり、学校に来れば、個々人も学力が身に付きます。これは、どの学校でも普通にあることです。村岡高校の場合、これと同時に、地域（香美町全体、旧村岡・小代、あるいは集落）にとってどんな意味があるのかを常に念頭に置きながら、カリキュラムを組んでいます。その成果の分析をお願いしているところです。

これまで10年間、村岡高校は、地域活動をやってきましたが、この度、本を出版することになりました。『学びが地域をつくる』というタイトルです。村岡高校だけで1冊の本が作れました。東京の学事出版に話を持って行き、この村岡高校でやっていることは、全国の、特に高校、教育現場に届けるべきものと伝え、出版するに至りました。この本の中で、2つのテーマを取り上げています。1つは、村岡高校で学んだ卒業生は、どんな学力が着いたのか、地域を育てる学力に特化しています。地域と関わって学んだことが、どんな意味があるのかといったことをこの本の中で示しています。

それから、もう1点ですが、過疎地域において生徒が単に教室で授業を受けるに留まっているのではなく、外に出て行って、地域の人たちと一緒に活動する意義って何なんだろうといったことも取り上げています。

過疎対策のメインテーマが人材育成になっています。人材育成、まさに教育、地域の高校が絡んできます。村岡高校は、単なる高校ではなくて香美町にとってどんな意味がある高校なのかといった見方をしているという政策に流れが変わりつつあります。

この中で村岡高校のことを考える場合、学校の中だけで完結するものではなく、当然、地元の小学校、中学校のほか、むしろ地域に住んでいる方、行政の方に加わっていただきたいといったことも、この本に書いています。

村岡高校は、定員 80 人に達していない小さな学校です。一般論で言うと、存続が危ぶまれる高校です。しかし、これまで地道にやってきたことが、全国的に注目され、全国に発信していけば、他の高校、行政（市町村）の参考になるのだということが、この度の出版で証明できればと思っております。

3) 協議

(上田) 注目すべきは、地元中学校の開門率（普通科高校に進学した学区内の生徒数／その年のその学区の中学卒業生数）です。私の孫の年代になると、1 学年の生徒数が現在の半分近くになります。長いスパンで学校の存続を考えていかなければならない時期が既に来ています。

(牧野) 村岡高校として、学区を定めず、全国から生徒を募集できることは、絶対に死守しなければならないと思っております。

全国募集するメリットとして、もちろん人数的な意味合いもありますが、自分と違う人間にどれだけ接し、自分にはないものを肌で感じ、受け入れるといった多様性を育む大きな要素があると思います。

これが本校の一番大きな特色としていかなければと思っています。

(山田) 少子化がキーワードになっています。香美町 10 小学校、3 中学校がありますが、少子化による再編計画が議論されています。

村岡高校のように、地元では限界があり、学区外から生徒を募集しないと学校を存続できないのが昨今の、過疎地域の実状だと思います。香美町教育委員会としても、地元の高校である村岡高校存続のための一助として、下宿費補助をさせてもらっています。

村岡高校のよさをもっと多くの人に知ってもらえる機会が、この 2 年、コロナ感染症により奪われた感じがします。

(中島) 今年春の公立高校について、但馬学区（第 5 学区）、定員割れが起きています。希望すれば、全入できる雰囲気があります。

村岡高校は、全国募集できるといった強い武器があります。全国募集と表裏一体になるのは、住む場所（下宿）の提供です。町教委から手を尽くしていただいておりますが、そこをもっと充実させるような手立てが必要になるのではと感じております。

(片山) 今日の午前中、本校の 5 年生は、村岡高校の紙漉き班の生徒さんと一緒に紙漉き体験をさせていただきました。年々、様子を見てみると、村高の生徒さんのコミュニケーション能力の高さを肌で感じます。

また、村高フォーラムに何度か来させてもらいましたが、卒業生の発表を見ていて、すごく伝える力、生きる力が身に付いていることを直に感じました。こんな村高生の姿を見ている地域の子どもたちは、しっかりと先輩としてあこがれを抱いているのではと、感じました。こういったことをどんどん伝えていただくことで、子どもたちも地域に根ざしたい、残りたいという気持ちになっていくのではと思います。

話は、変わりますが、全国募集で受験し、入学してきた生徒（他所から来た生徒）について、何か課題のようなものがありますか。

(足立) 都市部から村岡へ来て、不便に感じることもあると思うが、ここでみんなと生活する中で、地域への愛着が芽生えてゆくのを日々、目の当たりにすることがあります。

神戸出身の生徒がハチ北ミュージックフェスに賛助出演、自分で絵を描いて T シャツにして出品するなど地域のイベントに積極的に参加していました。一緒にコミュニティを作っていく姿がありました。

(今西) 小学生や中学生の保護者に、今の村岡高校の生徒の姿を生でもらうような機会があってもいいのでは

と思います。生徒が作製した集落がトブックや介護予防体操の DVD、実際に体操講習に出向くなど、生徒の活動が目に見える形となることは、本当に素晴らしいことだと思います。

(西垣) 魅力ある、特色のある高校として、私の施設(尼崎市立美方高原自然の家)で村岡高校の生徒が野外教育、子どもへの指導法を学んでいます。卒業後の進路に野外活動の指導者を目指す大学・専門学校への前段階の課程を学べる高校として、村岡高校をもっと PR してみてもいいと思います。村岡・小代は、美方高原自然の家、県立兔和野高原野外教育センターがあり、野外活動体験施設の宝庫です。

(井上) 村岡高校がこのような特殊なカリキュラムを組んでいることは知っていますが、あまり詳しくは分かっていません。地元の保護者の方にも、村高のカリキュラムが浸透していないのでは、村高へ進学するメリットが行き渡って知られていないのではと感じています。

地域創造、アウトドアスポーツが目玉になっていますが、すべての生徒がこれらに興味を持っているとは限らないと思います。

(原) 私どもは、日高東中校区で、通学するには一番遠いと思います。子どもも、普段、家庭で学校のことをあまり言ってくれないので、村岡高校のことをあまり知らないというのが本音です。

私の子どもは、アウトドアスポーツ類型が楽しそうとの理由で、村岡高校に入学しました。しかし、入学してから何をやるのか、どんな学力が身に付くのかが見えてこない感じがしています。

(牧野) 本校の魅力を伝える一番の方法は具体的なことを示していくことだと思っています。この視点で、去年から、取り組んでいるのが、卒業生へのヒーローインタビューという企画です。実際に、大学に行っていたり、働き出したりした卒業生が、今、どのように過ごしているのか、高校時代をどのように思っているのか、今、何をして輝いているのかということにスポットライトを当てて見ていこうとの企画を始めています。

本校の類型は、探究への入口の一つであって、最終的に、地元に戻って活躍する子どもたちもいれば、都会へ出て違う形で仕事をしながら、自分の地域、ふるさととの関わり方を考える子どもたちがいていいわけです。

(筒井) 村岡高校は小規模校なので、顔を見せながら伝えても足ります。村岡高校ならではの取組です。

高校へ入学してくる生徒数の数を増やす方法は、2 つあると思います。まず 1 つは、住んでいる人を増やす、子どもの数を増やすことです。もう 1 つが、外から連れてくる、校区外からの受験生を増やすことです。

兵庫県は、村岡高校のように子どもの数が減っている田舎の高校が、まだ残っています。でも、47 都道府県を見たときに、もう田舎の高校を閉じたところがあります。特に田舎に住んでいる子どもは、県内の高校へ進学するにも、下宿しないと行けない状況になっています。高校進学時、どうせ下宿をするのなら、村岡高校に来てもらった方がいいのです。全国に散らばっている卒業生を通じて、都会からだけでなく、自分の住んでいるまちに高校がなくなった田舎から受験生を募る方法だってあります。

これからの高校の姿として、単に高校生に勉強を教えるだけの機能にプラスして、そこに住んでいる地域の人(社会人)にとっても意味のあるものでなければならぬ、高校生のためだけの高校でなくなってきました。高校に来れば、何か学べる、知れるといった拠点的なイメージです。香美町では、高校が地域の最高学府ですので、何か困ったことがあれば相談しよう、聞いてみようといった施設になればいいと思っています。こういったことが、高校でできるようになれば、生徒数だけで、その高校の価値を決めるといったことはなくなります。例えば、相談件数が多いので、この高校は残すべきだといった話になります。高校の機能を少し広げてみるのも、いいかもしれません。

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力型)」
 兵庫県立村岡高等学校令和4年度第2回運営指導委員会・第2回コンソーシアム会議
 第2回学校運営連携協議会・第1回学校評議員会 議事録

- 1 日 時 令和4年10月8日(土)10:00～16:00
- 2 場 所 兵庫県立村岡高等学校体育館
- 3 議 題 村高フォーラムに参加し、事業の進捗状況を確認する。(アンケートによる回答)
- 4 出 席 者

(1) 運営指導委員会

氏名	所属・職	備考
中村 由利	兵庫県教育委員会高校教育課指導主事	関係行政機関
今井 雄治	香美町 副町長	関係行政機関
川戸英明	香美町企画課 課長	関係行政機関
清水 幸信	香美町教育委員会教育総務課 課長	関係行政機関
山根 俊喜	鳥取大学副学長(入試担当)・入学センター長	学識経験者
西村 功	香美町民政児童委員会 会長	地域住民

(2) コンソーシアム連携協議会

氏名	所属・職	備考
山田 貴広	香美町教育委員会事務局教育総務課 副課長	関係行政機関
今西 勝彦	香美町企画課 副課長	関係行政機関
筒井 一伸	鳥取大学地域学部 教授	学識経験者
上田 治	やまもり村岡 代表	地域住民

(3) 村岡高等学校 運営連携協議会

氏名	所属・職	備考
中島 保男	香美町立村岡中学校 校長	地域中学校代表
諏訪 信彦	兵庫県立村岡高等学校同窓会(明倫会) 会長	同窓会代表
原 みどり	兵庫県立村岡高等学校 P T A会長	高校保護者代表

(4) 村岡高等学校 学校評議員

氏名	所属・職	備考
徳山万佐子		
井端 稔	東上区長	

5 議事

1) 総合的な探究の時間・地域探求発表会について(午前)

(1) 総評

- ・ 生徒たちが地域をフィールドとした探究活動に取り組み、その成果について、生き生きと説明する姿が印象的でした。多様な学びの場を提供し、丁寧に指導いただいた地域の方、先生方に改めて感謝申し上げます。
- ・ ポスターセッションでは、生徒たちがこちらの質問に対して物怖じせずに自分の考えを

述べ、オリエンテーリング体験コーナーでは、生徒たちが温かい声かけをしてくれました。こういったコミュニケーション力も学びの成果だと思います。

- ・ 探究活動をする上で大切なこととして、当日生徒たちにお伝えしたことは、次の2点です。
 - ① なぜだろうという視点を持つ。探究はその繰り返しである。
 - ② 地域の課題から社会や世界にある課題との関連を見つける。学びがその場で終わることなく、生徒たちの資質能力として着実に身につくようご指導願います。
- ・ 今回も高校生の発表する中でのキーワードが、非常に重いものが多いと感じました。特に4年間出席させていただく中で毎年感じるのは、原稿も見ずに、堂々と皆の前で落ち着いて話ができることは、この先の大きな武器だといつも感心しています。さらには、生徒会長の喋りには圧巻でした。今後、色々な場面である面接などに対して、これまた大きな武器を持っているなど感じました。
- ・ 地域のことを考え、愛着を持っている村高生が、数年後地域にどのくらい帰って来て、生活を送っているのか。追跡調査は難しいのは承知で、数値でも表せればと、とても興味深く思っています。

(2)総合的な探究の時間「村高発★地域元気化プロジェクト」の取組発表について

① 環境A班 (棚田保全)

どのような理由により、地滑り防止につながっているのか、少し説明があった方が良かったです。(ポスターには、そのことについて記載されていました。)

棚田の役割について、発表も資料もわかりやすく、さらなる取り組みに期待します。

② 環境B班 (森の健康診断)

森の健康チェックと災害に強い森林づくりについて発表され、今後研究を継続されることで、村岡高校だけでなく、林業や地域づくりにつながると思いました。

③ 食文化班

香美町においても、3世代家庭が減っていることと思います。祖父母とのコミュニケーションに基づくメニュー再現は大変貴重だと思います。地元メニューのレシピ一覧などの編集につながればよいと思いました。

授業の中に、我々の時には無かった、地域に出向いて地域の課題を探るなど、体験を通じて学ぶことができる村高生がうらやましく感じられた。

④ 地域福祉班

買い物弱者対策は、行政が取り組まなければならない課題で、現状として際立った取り組みが行われていない。恥ずかしながら来年の買い物調査の結果どのように示されるか楽しみです。

子どもと高齢者の橋渡し役を高校生が担う等、その責任感と地域の人々との関係づくりに対する関心の深さに、感心しました。

⑤ 集落調査班

ガイドブックの作成について、大変貴重な資料になると思います。

「活気が少ない」との発言、どうしたらよいのか我々にとっては大きな課題です。

どうすれば活気のある街づくりができるのか、とても悩ましく重い発言でした。

⑥ 紙漉き班

失われつつある紙漉きについて、小学生にも触れる機会を提供するなど、活動の意味深さを感じました。

⑦ 民芸班

迫力ある演出に感動しました。マラソン大会でもランナーを鼓舞する演奏に感謝いたします。

⑧ 吹奏楽班

親しみやすい曲目の選択や練習を重ねられた演奏に、もっと多くの地域の方々に聴いていただけたらよいと思いました。

(3) 地域探求

⑨ アウトドアスポーツ系1年 地域学入門

まとめにあった、色々な体験により将来の選択肢が広がるのだらうなと思いつつ、この体験が高3の進路先にどのような影響を与えているのか気になります。

学ばれた知識が、今後生徒の皆さんの進路の選択や人生テーマにつながると思いました。

⑩ アウトドアスポーツ系2年 地域スポーツⅠ (村高元気体操の普及活動)

コロナが少し落ち着き始め、以前のような社会活動が増える中で、フレイル対策にはとてもいいDVDだと感じました。とても良い冊子もできていましたが、運動による効果の部分で、筋肉の名称が記載されているが、分かる人は別にして、細かい部分の筋肉の位置は理解できないと思うので、巻頭にでも筋肉の部位を示したイラストがあればなお良かったのでは。

⑪ アウトドアスポーツ系3年 地域スポーツⅡ (オリエンテーリングの普及活動)

まとめで「将来、社会に出たときに役に立つ」との発言があったが、そのとおりだと思いました。

オリエンテーリングの普及につきましては、香美町生涯学習課だけでなく、生徒の皆様アイデアや行動力、実行力に大いにご支援をいただき感謝いたしております。

⑫ 地域創造系1年 地域学入門

香住高校もシーカヤックを活用した環境ごみの清掃活動を行っているので、日程調整が可能であれば、一緒に交流を含めた体験ができれば面白いのではないかと思います。

人と動植物の共生という大きなテーマを研究いただき、まさに他人ごとではなく香美町民にとって、直面している課題として、生徒の皆さんに問題意識を持っていただいております、今後さらに一歩踏み出す方向性を見出されることに期待しています。

⑬ 地域創造系2年 地域探求Ⅰ

「地域に貢献できる」「住民全体でのまちづくり」とあり、高校生の考える地域づくりとは何か、もう少し詳しく聞きたかったです。

阿智村での研修合宿での学びは、まちづくりにつながる大変重要なものであったと思います。見分を広められることで、香美町以外の状況を学ばれることは、大変

有意義だと思います。

⑭ 地域創造系3年 地域探求Ⅱ

「唐三」は国の補助金手続き、小代での工場設立等に関わってきたことから、この商品に気づき、取り上げてくれたことがうれしかったです。当時から、社長との話の中でいかに販路を広げていくかが課題とのことであったことから、とても興味深かったです。

「唐三」のPR動画の作成を通じて、他校の生徒が実践しないような課題に取り組んでおられ、その出来栄が気になりました。

2) 「村高フォーラム2022」について (午後)

- ・ 討論会では、パネリストの活発な意見交換に至らず、少し時間が足りなかったように思います。専門家や学外の方の意見もよいのですが、もっと多くの生徒がパネリストとして参加され、村高での学びの結果、皆さんがどのような考え方をしているかを聞いてみたいと思いました。
- ・ 地域での探究活動の価値について学術的に考える取組で、興味深く拝見しました。意見の中にもありましたが、生徒は与えられた課題に取り組むのではなく、生徒自身が課題を見い出して、答えのない問いについて考えることが大切だと思います。

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力型)」
 兵庫県立村岡高等学校令和4年度第3回運営指導委員会・第3回コンソーシアム会議
 第3回学校運営連携協議会・第2回学校評議員会 議事録

- 1 日 時 令和5年3月7日(火) 10:00～16:00
 9:40～11:20 総合的な探究の時間発表会
 11:30～12:45 運営指導委員会・コンソーシアム会議並びに学校運営連携協議会
 学校評議員会
- 2 場 所 兵庫県立村岡高等学校 会議室
- 3 日 程
- (1) 開会
- (2) 学校長あいさつ
- (3) 生徒発表
 ①民芸班 ②紙漉き班 ③環境A班[棚田保全] ④環境B班[森の健康診断]
 ⑤吹奏楽班 ⑥食文化班 ⑦地域福祉班 ⑧集落調査班
- (4) 講評
 ①中村由利氏(運営指導委員会) ②山田貴広氏(コンソーシアム連携協議会)
- (5) 全体講評[総合的な探究の時間の課題と展望]
 石山雄貴氏(鳥取大学地域学部人間形成コース 講師)
- (6) 閉会
- (7) 今年度の取組みについて総括(11:30～12:45)
 (運営指導委員、コンソーシアム、学校運営連携協議委員、学校評議員)

4 出席者

(1) 運営指導委員会

氏名	所属・職	備考
岩切玄太郎	兵庫県企画部総合企画局 計画課長	関係行政機関
中村 由利	兵庫県教育委員会高校教育課指導主事	関係行政機関
横山 真弓	兵庫県立大学 教授	オンライン
入江 善博	入江産業 代表取締役	地域住民

(2) コンソーシアム連携協議会

氏名	所属・職	備考
山田 貴広	香美町教育委員会事務局教育総務課 副課長	関係行政機関
今西 勝彦	香美町企画課 副課長	関係行政機関
西村 昌樹	うづかの森 代表	オンライン
上田 治	やまもり村岡 代表	地域住民

(3) 村岡高等学校 運営連携協議会

氏名	所属・職	備考
中島 保男	香美町立村岡中学校 校長	地域中学校代表
西垣 幸造	とちのき村 所長	オンライン
諏訪 信彦	兵庫県立村岡高等学校同窓会（明倫会）会長	同窓会代表
原 みどり	兵庫県立村岡高等学校 P T A会長	高校保護者代表

(4)村岡高等学校 学校評議員

氏名	所属・職	備考
井端 稔	東上区長	

(5)村岡高等学校

事業者	校長 牧野 徹
(司会)	教頭 中尾 浩
(記録)	事務長 鶴田 宏
地域アウトドアスポーツ類型責任者 総合的な探究の時間総括	教諭 足立 祐輔
地域協働学習支援員	教育コーディネーター 高橋 大蔵

5 開会挨拶 兵庫県立村岡高等学校 牧野 徹 校長

6 議事 「今年度の取組みについて総括」

(岩切) 1つ目は、「取組を見える化する」視点が重要になります。最近よく言われているSDGsについてですが、SDGsという看板を付ける意味ですが、取組を見える化する、取組を広げていくことだと思います。看板を掛けることで、みんなが理解し、運動が広まる効果が期待できます。村岡高校の場合、既に地域の方々から応援いただいておりますが、より力強い応援が得られるのではないかと思います。

2点目は、「高校卒業後、いずれは地元で働きたいと希望する生徒の割合」が6割あります。驚くべき数字です。これは、生徒のみなさんが地域へ入っている色々な活動をしていることの成果だと思います。また、「高校卒業後、地元で貢献したいと思う生徒の割合」が8割を超えております。これほど地域に愛着を持っている生徒は、恐らく都市部ではあり得ない。村岡高校の活動のプログラムの価値、成果は、まさにこの辺りに表れていると思います。

(中村) 村岡高校は10年来、地域との関わりを持つ取組をされてきた点でも、大きな節目を迎えております。これからの取組について期待しているところです。

文科省の研究は、新しい教育改革の流れの中で、普通科高校の場合は、まず探究を軸に既存の学びをどう特色づけていくかといったカリキュラム開発が1つの大きなテーマになっております。10年のうち、過去7年でやってきた部分と、この3年で取り組んだ部分で何が違うのか、その成果は何なのか。村岡高校の取組は、今や全国のモデルとなっており、他府県からも先進地視察があるようですが、ここが知りたいポイントになるかと思っております。指定が終わり、予算面を含めて自走していく姿を模索する上でも、研究指定3年と、それ以前の7年とを整理してみることが指定終了後の方向性を考えるのに重要になってきます。

(入江) 私は地元で企業を経営していますが、人手不足、人材不足が深刻です。将来は地元に戻りたいと思っている生徒さんに見合う受け皿が少ない、また地元での需要に関する情報が伝わっ

ていないのではないかと思います。情報を、Uターンを考えている卒業生へ届けてもらえるような仕組みが作れないだろうかと思えます。このような窓口を作っていただけるよう提案いたします。

(横山) 生徒さんたちの発表を聞かせていただきました。、要点のみの発表でしたが、素晴らしいプレゼンでした。

1つ言うとしたら、地域の方とのやり取りです。大人がどんな言葉を掛けて、これに生徒がどう対応した、反応したというところが重要になってきます。地域の大人とのやり取りを記録し、子どもたちの感想を見て大人が、今後、どんな言葉を掛けていくべきかなど大人側の対応についても考え、改善していく視点も重要かと思えます。

研究指定3年間の取組は、村岡という地域の特徴をうまく引き出し、生徒たちは、多くの大人、多様な関係者と関わりながら、コミュニケーション能力が培われていったと思えます。この能力がないと学びが深まらない、実学として発展性がないことになります。こういった高校時代からの取組があるとういのは、子どもたちの能力開発、発展に非常に有効です。村岡で育った、村岡高校で学んだ生徒の強みになります。二十歳前の教育というのは、非常に重要です。特に、考える力、これに注視することは、子どもたちのこれからの時代を生きる力を育むことに繋がります。高校で習ったこと、今 ICT でやっていることも、彼らが社会に出た時、古いものになっているといった勢いが、今の時代にあります。ツールはどんどん変わっていきませんが、変わらないもの、それは、考える力の強みであります。どこにいても対応できる力を育成する取組に繋がっていただいたのであれば、この3年間の取組は素晴らしいものになったのではと思えます。

(山田) 生徒数が減ってくる中で、現在の村高発★地域元気化プロジェクト8班の活動が維持できなくなるのを危惧したところです。8班の中でも、紙漉き班、吹奏楽班、地域福祉班は、地元小中学校の子どもたちと繋がって活動してもらっています。この繋がりは、子どもたちが高校生になる時の選択に影響を与えられと思いますので、生徒数が少なくなっても継続してもらえたらと感じています。

(今西) 今年度で研究指定は終了しますが、村岡高校の地域協働活動への取組は、今後も継続します。来年度、村岡高校の活動は、研究指定の間で見えてきた課題、また得られた成果を踏まえ、予算、生徒数減といった考えなければならない点ではありますが、よりバージョンアップしていくのではないかと期待しています。生徒の皆さんが地域へ出向き、住民の方々と交流する、こういった人との繋がりの活動の成果物として香美町の中に残っていくと思っています。

村岡高校の生徒のように早くから地域のことを考えている生徒と、そうでない者とは出発点に開きがあると思えます。地元で愛情を持って、仕事に取り組んでいただけると期待できます。

(西村) 現在、子どもを下宿という形で4名お預かりし、生活を見守っています。

下宿生は、まだ高校生でありながら、親元を離れ、香美町へ来てくれています。村岡高校の生徒が地域で活躍している姿は、とても頼もしく思えますが、反面、この子どもたちと生活面で関わっている自分は、彼らを一人前に育てられていないかと反省しております。学校外の生活面は、地域の大人や保護者、これが下宿生の場合にはオーナーが見ることになります。卒業する時に、生活面でも一人前に自立しているよう、先生方、親御さん、下宿オーナーが三位一体となって取り組んでいかないといけないです。皆さん方にも関心を持っていただきたい、私自身も考えながらやっていきたいと思っております。

(上田) 印象に残っているのが、紙漉き班の活動です。高知県の高校と接触を持たれて、非常に

多くのことを感じ取られていました。やはり、高校生というのは、ヒントを与えられると、発想豊かにいろんなことを展開していけます。

村岡高校の地域協働活動は、これまでの10年間は、高校の側が地域へ出掛けて自分たちの目で課題を探し、考察していく手法でした。地元の中には、この地域を何とか活性化したい、元気付けたいとの思いで活動されている方があります。こことうまく接触して、うまく繋がれば、地域が今、抱えている問題というのは、特に村岡高校の生徒さんへは入っていくと思います。このようなシステムが出来上がれば、高校生は、もっと発想豊かに、もっといろいろなことを考えながら活動していけます。まさしく地域を育てる学力そのものだと思います。

このようなシステムが、村岡で築いていければと感じています。研究センターのようなものです。高校生が、もっともっと触発され、問題意識も高まるはずですよ。

(中島) 村岡高校は、高校の教育改革、魅力づくりにしっかり取り組まれていると感じております。一方、中学校は、その改革の流れに充分、対応できていないと思っております。中学校は、基礎基本を身に付けさせなければならないというところから、なかなか前へ進めていないというのが私個人の感想です。

今年度但馬地区高校の複数志願で1校を除いてすべて定員を割っている状況です。今後、更に減少していく勢いです。こういった状況ですので、生徒確保に向けた学校の魅力化は、ますます重要になってきます。この時期、本中学校生徒の進路状況を見ておきますと、大学を見据えて、また部活動を頑張りたいとの観点から地元外への高校進学を考える子どもが多いように感じます。

キャリア教育が叫ばれて久しいです。中学校段階から、単に次の高校をどうするかではなく、更にその先にある進路、将来どういうふう生きていくのかを含めて考えさせていかなければならないと感じております。

(西垣) 生徒さんは、学校のほか地域、鳥取大学など様々な分野の方との繋がりが築かれた中で教育を受けており、村岡高校生は、恵まれていると思います。新しいことに取り組み、チャレンジ、苦勞、継続的な改善をしていなければ、これだけ長く続いていると思います。

成果物が着々と積み上げられています。成果物は、作ることがゴールではありません。これを地域がどう活かしていくか、地域に還元されて初めて成果があったと言えるでしょう。村岡高校、香美町の財産になります。過疎化が進む中、地域の高等教育機関として高校が残って欲しいと願っております。全国から生徒が来たいと思わせる魅力づくりが重要です。

地域との繋がりが強くなればなるほど、地域から高校がなくなってしまうと困る、村岡高校のキャッチフレーズ「地域になくてはならない学校」の色が濃くなります。

最後に、地域の責務として、働き先を作る、学校の責務として、失敗してもへこたれない、失敗を恐れない、あきらめず不撓不屈で頑張っていくといった生徒への人間性の涵養、こういった環境を整えば、地元で就職する人が増え、地域の活性化へと繋がっていきます。

(井端) 今月、「昔に戻る」をコンセプトとした『町民創造型事業 城下町リバイバルプロジェクト』、村岡の昔のいいところを復活させようという事業を立ち上げました。魅力ある村岡をもう一度、取り戻したいです。

村岡高校の生徒さんは、高校を卒業して一旦は、都会へ出ますが、外からふるさとを見て気付くことがあります。普段の生活していた時には気付かないことに気付くことがあります。若い時は、華やかな都会に憧れて出て行きますが、実は、自分が求めているものは、自分が生まれ育つ

た地元にあったと気付く瞬間があります。こういった村岡が持っている魅力を引き出してみようと思っています。

(諏訪) 先程、生徒さんたちの発表を見させていただきました。発表の内容は、素晴らしいものでした。悪条件の中でも、最近のツールである ICT を駆使しながらの、生徒さんたちの対応力の高さに改めて敬意を表します。

この学校に入ってよかったと思う割合が 94%もあります。すごい数値だなと思って見ました。村岡高校へ志願する生徒数が減ってきていますが、入学してよかったと思っている生徒がこれだけもあるというのは、生徒募集の際、もっとアピールしていいじゃないかと思います。

(原) 大学の先生からマーケティング、SNS での情報発信といった、これからの時代を創っていくものを授業で勉強している。高校で、このような授業を受けられるのは、すごく魅力的なことです。

PTA 会長に就任し、村岡高校のすごさ、それは、先進的な授業であったり、地域を活動の場にした取組などをより詳しく知ることができました。村高フォーラムでの報告など、外にもっと発信していけば、村岡高校のすごさをもっと知ってもらえるのではないかと思います。

7 閉会挨拶 兵庫県教育委員会事務局高校教育課 中村由利 主任指導主事

本日は、大変お忙しい中、4つの委員会が合同開催され、各委員また関係の皆様方、ご助言等いただき、ありがとうございました。私自身、生徒の取組の発表から見させていただき、発表している彼らの姿が、そのまま学びの成果であったと感じております。多くの方に支えていただいた結果、彼らの姿があると思っています。いろいろな場面でお力添えいただき、ありがとうございます。

文科省の研究指定は今年度で終了しますが、この3年間、全国に先駆け、新しい教育の在り方でカリキュラムを考えていくとの視点から、村岡高校に地域魅力化型による高校教育改革推進事業に取り組んでいただきました。沢山の成果が得られ、これから次へどう取り組んでいくかといった課題も見えてきました。この年度末、この点を整理していただき、来年度以降、より発展していかれますよう祈念しております。関係される皆様方へは、いろんな場面でご支援いただきますよう、引き続き、よろしく申し上げます。

4 評価・分析

(1)つけたい能力・生徒アンケート

(2)生徒アンケート集計結果

(3)評価・分析

4 評価・分析

(1) つけたい能力・生徒アンケート

村岡高校 つけたい能力

	地域学 入門	地域 探求 I	地域 探求 II	地域 スポーツ I	地域 スポーツ II	自己表現 (スピーチ)	総合的な 探究の時間
①課題発見能力	◎	◎	○	◎	◎		◎
②課題解決能力	○	◎	○	◎	◎		◎
③プレゼンテーション能力	○	◎	○	○	○	◎	○
④新たな価値を創造する能力	◎	◎	○	◎	◎		◎
⑤コミュニケーション能力	○	◎	◎	○	○	◎	◎
⑥議論する能力	○	○	◎	◎	◎	◎	◎
⑦コーディネート能力	○	○	◎	◎	◎		○
⑧自己表現能力	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎

生徒アンケート及び評価表(ルーブリック)

自己評価

資質・能力		自己評価					そう思う ← → 思わない				
1	問題発見能力	① 自ら情報を集め地域の現状に気付くことができる	5	4	3	2	1				
		② 他者との話し合いのなかで地域の現状に気付くことができる	5	4	3	2	1				
		③ 社会情勢をふまえ地域の課題を挙げることができる	5	4	3	2	1				
		④ 他地域と比較しながら、地域の課題を挙げることができる	5	4	3	2	1				
2	問題解決能力	⑤ 現状と課題を理解した上で、その解決に向け必要な方法を考えることができる	5	4	3	2	1				
		⑥ 他者と目的意識を共有しながら、課題解決に向け具体的な取り組みを行うことができる	5	4	3	2	1				
3	プレゼンテーション能力	⑦ 自分の考えを適切にまとめ、発表することができる	5	4	3	2	1				
		⑧ スライドやポスターなどを工夫して作成することができる	5	4	3	2	1				
		⑨ グループで話し合った内容を適切にまとめ、発表することができる	5	4	3	2	1				
4	新たな価値を創造することができる能力	⑩ 失敗を恐れず、新しいアイデアや計画を立てて実施することができる	5	4	3	2	1				
		⑪ これまでのやり方や考え方にとらわれず、より良い方向性を模索することができる	5	4	3	2	1				
5	コミュニケーション能力	⑫ 自分の考えを伝えることができる	5	4	3	2	1				
		⑬ 自分が分からない所を適切に質問することができる	5	4	3	2	1				
		⑭ 大人(地域住民・講師・教職員)と話し合いを進めることができる	5	4	3	2	1				
6	議論する能力	⑮ 相手の思いや意見を理解できる	5	4	3	2	1				
		⑯ 多様な意見をふまえながら、話し合いにより調整してまとめることができる	5	4	3	2	1				
7	コーディネート能力	⑰ 活動が計画通り進むように、方法や役割を工夫することができる	5	4	3	2	1				
		⑱ さまざまな人と話し合い、協力するなかで、新たな関係性を築いていくことができる	5	4	3	2	1				
8	自己表現能力	⑲ 自分が考えていることを、自ら進んで表現することができる	5	4	3	2	1				
		⑳ 受け手の側を尊重した形で考えを適切に表現することができる	5	4	3	2	1				
9	地域への関心	㉑ 地域(自分の生まれ育った地域)が好きだ	5	4	3	2	1				
		㉒ 将来何らかの形で地域(自分の生まれ育った地域)に関わりたい	5	4	3	2	1				
		㉓ 地域の魅力や課題について説明することができる	5	4	3	2	1				
10	自身について	㉔ 村岡高校での「地域との協働活動や探求活動」に進んで取り組んでいる	5	4	3	2	1				
		㉕ 村岡高校での「地域との協働活動や探究活動」により新たな考え方・スキルが身に付いた	5	4	3	2	1				
		㉖ 村岡高校に入学して良かった	5	4	3	2	1				

生徒アンケート集計(4月)

資質・能力	1				2		3			4		5		
	問題発見能力				問題解決能力		プレゼンテーション能力			新たな価値を創造することができる能力		コミュニケーション能力		
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
内容	自ら情報を集め地域の現状に気付くことができる	他者との話し合いのなかで地域の現状に気付くことができる	社会情勢をふまえ地域の課題を挙げることができる	他地域と比較しながら、地域の課題を挙げることができる	現状と課題を理解した上で、その解決に向け必要な方法を考えることができる	他者と目的意識を共有しながら、課題解決に向け具体的な取り組みを行うことができる	自分の考えを適切にまとめ、発表することができる	スライドやポスターなどを工夫して作成することができる	グループで話し合った内容を適切にまとめ、発表することができる	失敗を恐れず、新しいアイデアや計画を立てて実施することができる	これまでのやり方や考え方にとらわれず、より良い方向性を模索することができる	自分の考えを伝えることができる	自分が分らない所を適切に質問することができる	大人(地域住民・講師・教職員)と話し合いを進めることができる
創造系1年	3.8	4.1	3.8	4.1	4.0	4.2	3.6	3.5	3.6	3.8	3.8	3.8	3.6	3.7
創造系2年	3.7	4.1	3.7	4.1	3.7	4.1	3.5	3.9	3.8	3.7	3.6	3.9	3.4	3.5
創造系3年	4.2	4.8	4.3	4.2	4.2	4.3	4.1	4.2	4.5	3.8	4.2	4.2	3.7	4.1
創造系計	3.9	4.4	4.0	4.1	4.0	4.2	3.7	3.9	4.0	3.8	3.9	4.0	3.6	3.7
スポーツ系1年	3.4	3.9	3.3	3.5	3.6	3.7	2.9	3.5	3.2	3.5	3.5	3.6	3.5	3.2
スポーツ系2年	3.5	3.6	3.5	3.4	3.9	3.3	3.8	3.4	3.5	3.8	3.8	3.8	3.5	3.4
スポーツ系3年	3.1	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.1	3.7	3.1	3.7	3.9	3.5	3.2	3.3
スポーツ系計	3.3	3.7	3.4	3.5	3.6	3.5	3.2	3.5	3.2	3.6	3.7	3.6	3.4	3.3
類型全体	3.6	4.1	3.7	3.8	3.8	3.9	3.5	3.7	3.6	3.7	3.8	3.8	3.5	3.5
普通コース1年	3.4	3.7	3.2	3.4	3.6	3.6	3.0	3.2	3.0	3.0	3.0	3.2	3.1	2.9
普通コース2年	3.7	4.1	3.6	3.6	4.0	3.9	3.3	3.5	3.4	3.4	3.5	3.6	3.2	3.3
普通コース3年	3.5	3.9	3.3	3.3	3.6	3.7	3.5	3.4	3.4	3.3	3.3	3.7	3.3	3.3
普通コース計	3.5	3.9	3.4	3.4	3.8	3.8	3.3	3.4	3.3	3.3	3.3	3.5	3.2	3.2
全校生	3.6	3.9	3.5	3.5	3.7	3.8	3.3	3.5	3.5	3.4	3.4	3.7	3.4	3.4
創造系1年		4.0			4.1		3.6			3.8				3.7
創造系2年		3.9			3.9		3.7			3.7				3.6
創造系3年		4.4			4.2		4.2			4.0				4.0
創造系計		4.1			4.1		3.8			3.8				3.7
スポーツ系1年		3.5			3.6		3.2			3.5				3.4
スポーツ系2年		3.5			3.6		3.5			3.8				3.5
スポーツ系3年		3.4			3.5		3.3			3.8				3.3
スポーツ系計		3.5			3.6		3.3			3.6				3.4
類型全体		3.8			3.8		3.6			3.7				3.6
普通コース1年		3.4			3.6		3.1			3.0				3.1
普通コース2年		3.7			4.0		3.4			3.4				3.4
普通コース3年		3.5			3.7		3.4			3.3				3.4
普通コース計		3.6			3.8		3.3			3.3				3.3
全校生		3.6			3.7		3.4			3.4				3.5

資質・能力	6		7		8		9			10			平均
	議論する能力		コーディネート能力		自己表現能力		地域への関心			自身について			
	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	
内容	相手の思いや意見を理解できる	多様な意見をふまえながら、話し合いにより調整してまとめることができる	活動が計画通り進むよう、方法や役割を工夫することができる	さまざまな人と話し合い、協力するなかで、新たな関係性を築いていくことができる	自分が考えていることを、自ら進んで表現することができる	受け手の側を尊重した形で考えを敵対的に表現することができる	地域(自分の生まれ育った地域)が好きだ	将来何らかの形で地域(自分の生まれ育った地域)に関わりたい	地域の魅力や課題について説明することができる	村岡高校の地域との協働活動に力を入れている	村岡高校の地域との協働活動や探究により成長している	村岡高校に入学して良かった	
創造系1年	4.2	3.6	3.9	4.1	3.6	3.8	4.8	4.4	3.9	3.7	3.0	4.7	3.9
創造系2年	4.3	3.6	3.4	3.7	3.7	3.6	4.3	3.5	3.9	4.6	4.3	4.3	3.8
創造系3年	4.8	4.4	4.2	4.5	4.2	4.3	4.8	4.5	4.5	4.7	4.8	4.8	4.3
創造系計	4.4	3.9	3.8	4.1	3.9	3.9	4.6	4.1	4.1	4.4	4.1	4.6	4.0
スポーツ系1年	3.9	3.3	3.5	3.7	3.7	3.3	4.5	3.7	3.4	3.3	3.1	4.7	3.6
スポーツ系2年	4.1	3.4	3.6	3.8	3.6	3.5	4.6	3.8	3.6	4.0	4.0	4.5	3.7
スポーツ系3年	3.9	3.5	3.5	3.8	3.4	3.6	3.9	3.6	3.3	3.8	3.7	3.7	3.5
スポーツ系計	4.0	3.4	3.5	3.7	3.6	3.5	4.4	3.7	3.4	3.6	3.5	4.4	3.6
類型全体	4.2	3.6	3.7	3.9	3.7	3.7	4.5	3.9	3.8	4.0	3.8	4.5	3.8
普通コース1年	3.7	3.2	3.2	3.8	3.1	3.4	4.2	3.4	3.1	3.7	3.5	4.6	3.4
普通コース2年	4.1	3.7	3.8	3.8	3.5	3.6	4.0	3.5	3.6	3.9	3.9	4.5	3.7
普通コース3年	4.2	3.6	3.5	3.7	3.5	3.7	4.0	3.3	3.5	4.1	4.1	4.5	3.6
普通コース計	4.0	3.5	3.5	3.8	3.4	3.6	4.0	3.4	3.4	3.9	3.9	4.5	3.6
全校生	4.0	3.6	3.5	3.8	3.5	3.5	4.1	3.5	3.5	4.0	3.9	4.4	3.6
創造系1年		3.9		4.0		3.7		4.4			3.8		3.9
創造系2年		3.9		3.6		3.7		3.9			4.4		3.8
創造系3年		4.6		4.3		4.3		4.6			4.8		4.3
創造系計		4.1		4.0		3.9		4.3			4.3		4.0
スポーツ系1年		3.6		3.6		3.5		3.9			3.7		3.6
スポーツ系2年		3.8		3.7		3.6		4.0			4.2		3.7
スポーツ系3年		3.7		3.7		3.5		3.6			3.7		3.6
スポーツ系計		3.7		3.6		3.5		3.8			3.8		3.6
類型全体		3.9		3.8		3.7		4.1			4.1		3.8
普通コース1年		3.4		3.5		3.3		3.6			3.9		3.4
普通コース2年		3.9		3.8		3.6		3.7			4.1		3.7
普通コース3年		3.9		3.6		3.6		3.6			4.2		3.6
普通コース計		3.8		3.6		3.5		3.6			4.1		3.6
全校生		3.8		3.7		3.5		3.7			4.1		3.6

生徒アンケート集計(10月)

資質・能力	1				2		3			4		5		
	問題発見能力				問題解決能力		プレゼンテーション能力			新たな価値を創造することができる能力		コミュニケーション能力		
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
内容	自ら情報を集め地域の現状に気付くことができる	他者との話し合いのなかで地域の現状に気付くことができる	社会情勢をふまえ地域の課題を挙げることができる	他地域と比較しながら、地域の課題を挙げることができる	現状と課題を理解した上で、その解決に向け必要な方法を考えることができる	他者と目的意識を共有しながら、課題解決に向け具体的な取り組みを行うことができる	自分の考えを適切にまとめ、発表することができる	スライドやポスターなどを工夫して作成することができる	グループで話し合った内容を適切にまとめ、発表することができる	失敗を恐れず、新しいアイデアや計画を立てて実施することができる	これまでのやり方や考え方にとらわれず、より良い方向性を模索することができる	自分の考えを伝えることができる	自分から分らない所を適切に質問することができる	大人(地域住民・講師・教職員)と話し合いを進めることができる
創造系1年	4.0	4.3	3.8	4.0	3.8	3.8	3.9	3.9	4.0	4.0	3.9	4.1	3.5	3.6
創造系2年	3.7	4.3	3.6	4.1	3.8	3.6	3.7	4.0	3.9	3.8	3.8	3.9	3.4	3.9
創造系3年	4.4	4.4	4.2	4.2	4.1	4.2	4.1	4.1	4.5	4.0	4.4	4.3	4.1	4.2
創造系計	4.0	4.3	3.9	4.1	3.9	3.9	3.9	4.0	4.1	3.9	4.0	4.1	3.7	3.9
スポーツ系1年	3.4	3.6	3.2	3.5	3.6	3.4	3.3	3.5	3.3	3.3	3.5	3.5	3.4	3.3
スポーツ系2年	3.5	3.5	3.8	3.3	4.1	3.8	3.6	4.0	4.0	4.0	4.0	3.5	3.4	3.3
スポーツ系3年	3.6	3.7	3.8	3.4	3.6	3.6	3.2	4.0	3.6	3.8	3.4	3.8	3.4	3.4
スポーツ系計	3.5	3.6	3.5	3.4	3.8	3.5	3.4	3.8	3.6	3.6	3.6	3.6	3.4	3.3
類型全体	3.8	4.0	3.7	3.8	3.8	3.7	3.7	3.9	3.9	3.8	3.9	3.9	3.6	3.7
普通コース1年	3.4	3.8	3.7	3.5	3.7	3.6	3.2	3.2	3.5	3.6	3.5	3.5	3.4	3.6
普通コース2年	3.8	4.0	3.8	3.7	3.8	3.6	3.5	3.7	3.8	3.4	3.6	3.3	3.6	3.4
普通コース3年	3.8	4.2	4.1	3.9	4.1	4.1	3.8	4.1	4.0	3.9	3.9	3.9	3.6	3.7
普通コース計	3.7	4.0	3.9	3.7	3.8	3.8	3.5	3.7	3.8	3.6	3.7	3.5	3.5	3.6
全校生	3.7	4.0	3.8	3.7	3.8	3.8	3.6	3.8	3.9	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6
創造系1年		4.0			3.8			3.9		4.0				3.7
創造系2年		3.9			3.7			3.9		3.8				3.8
創造系3年		4.3			4.1			4.3		4.2				4.2
創造系計		4.1			3.9			4.0		4.0				3.9
スポーツ系1年		3.4			3.5			3.4		3.4				3.4
スポーツ系2年		3.5			3.9			3.9		4.0				3.4
スポーツ系3年		3.6			3.6			3.6		3.6				3.6
スポーツ系計		3.5			3.6			3.6		3.6				3.4
類型全体		3.9			3.8			3.8		3.8				3.7
普通コース1年		3.6			3.7			3.3		3.6				3.5
普通コース2年		3.8			3.7			3.6		3.5				3.4
普通コース3年		4.0			4.1			4.0		3.9				3.7
普通コース計		3.8			3.8			3.6		3.7				3.5
全校生		3.8			3.8			3.8		3.7				3.6

資質・能力	6		7		8		9			10			平均
	議論する能力		コーディネート能力		自己表現能力		地域への関心			自身について			
	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	
内容	相手の思いや意見を理解できる	多様な意見をふまへながら、話し合いにより調整してまとめることができる	活動が計画通り進むよう、方法や役割を工夫することができる	さまざまな人と話し合い、協力するなかで、新たな関係性を築いていくことができる	自分が考えていることを、自ら進んで表現することができる	受け手の側を尊重した形で考えを表現することができる	地域(自分の生まれ育った地域)が好きだ	将来何らかの形で地域(自分の生まれ育った地域)に関わりたい	地域の魅力や課題について説明することができる	村岡高校の地域との協働活動に参画している	村岡高校の地域との協働活動や探究により成長している	村岡高校に入学して良かった	
創造系1年	4.5	3.9	3.8	4.3	4.0	4.0	4.4	4.0	3.8	4.4	3.9	4.5	4.0
創造系2年	4.0	3.9	3.9	4.1	3.7	3.9	4.0	3.3	3.8	4.4	4.1	4.3	3.9
創造系3年	4.6	4.2	4.2	4.6	4.1	4.3	4.9	4.9	4.6	4.6	4.7	4.7	4.4
創造系計	4.3	4.0	4.0	4.3	3.9	4.1	4.4	4.0	4.1	4.5	4.3	4.5	4.1
スポーツ系1年	3.3	3.1	3.4	3.6	3.5	3.1	4.4	3.3	3.4	3.5	3.7	4.0	3.5
スポーツ系2年	3.5	3.9	3.9	3.8	3.4	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.9	4.3	3.7
スポーツ系3年	3.9	3.4	3.8	3.9	3.7	3.8	3.8	3.9	3.4	3.7	3.9	4.0	3.7
スポーツ系計	3.5	3.4	3.6	3.8	3.5	3.5	4.0	3.6	3.5	3.6	3.8	4.1	3.6
類型全体	4.0	3.8	3.9	4.1	3.7	3.9	4.3	3.9	3.9	4.2	4.1	4.3	3.9
普通コース1年	4.2	3.5	3.4	3.8	3.4	3.8	4.2	3.7	3.8	4.0	3.7	4.5	3.7
普通コース2年	4.0	3.8	3.6	3.8	3.7	3.8	4.1	3.9	3.6	3.8	3.8	4.5	3.7
普通コース3年	4.3	4.1	4.2	4.1	3.7	4.0	4.3	3.9	3.8	4.1	4.3	4.5	4.0
普通コース計	4.1	3.8	3.7	3.9	3.6	3.9	4.2	3.8	3.7	4.0	3.9	4.5	3.8
全校生	4.1	3.8	3.7	3.9	3.6	3.8	4.2	3.9	3.8	4.1	4.1	4.4	3.8
創造系1年		4.2		4.0		4.0		4.1			4.3		4.0
創造系2年		3.9		4.0		3.8		3.7			4.3		3.9
創造系3年		4.4		4.4		4.2		4.8			4.7		4.4
創造系計		4.2		4.1		4.0		4.2			4.4		4.1
スポーツ系1年		3.2		3.5		3.3		3.7			3.8		3.4
スポーツ系2年		3.7		3.8		3.6		3.8			4.0		3.8
スポーツ系3年		3.7		3.8		3.7		3.7			3.9		3.7
スポーツ系計		3.5		3.7		3.5		3.7			3.8		3.6
類型全体		3.9		4.0		3.8		4.0			4.2		3.9
普通コース1年		3.8		3.6		3.6		3.9			4.1		3.7
普通コース2年		3.9		3.7		3.7		3.9			4.0		3.7
普通コース3年		4.2		4.2		3.9		4.0			4.3		4.0
普通コース計		4.0		3.8		3.7		3.9			4.1		3.8
全校生		3.9		3.8		3.7		4.0			4.2		3.8

生徒アンケート集計（4月）

資質・能力	1				2		3			4		5		
	問題発見能力				問題解決能力		プレゼンテーション能力			新たな価値を創造		コミュニケーション能力		
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)
内容	自ら情報を集め地域の現状に気付くことができる	他者との話し合いのなかで地域の現状に気付くことができる	社会情勢をふまえ地域の課題を挙げることができる	他地域と比較しながら、地域の課題を挙げることができる	現状と課題を理解した上で、その解決に向け必要な方法を考えることができる	他者と目的意識を共有しながら、課題解決に向け具体的な取り組みを行うことができる	自分の考えを適切にまとめ、発表することができる	スライドやポスターなどを工夫して作成することができる	グループで話し合った内容を適切にまとめ、発表することができる	失敗を恐れず、新しいアイデアや計画を立てて実施することができる	これまでのやり方や考え方にとらわれず、より良い方向性を模索することができる	自分の考えを伝えることができる	自分が分からない所を適切に質問することができる	大人（地域住民・講師・教職員）と話し合いを進めることができる
民芸班	3.6	4.0	3.6	3.8	3.7	3.8	3.4	3.6	3.6	3.6	3.8	3.6	3.4	3.5
紙漉き班	3.1	3.4	3.1	3.5	3.5	3.5	3.0	3.2	3.1	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1
吹奏楽班	3.3	3.8	3.6	3.6	3.5	3.5	3.0	3.3	3.1	3.4	3.7	3.4	3.3	3.2
食文化班	3.8	4.2	3.9	3.9	3.9	3.9	3.5	3.6	3.7	3.5	3.9	3.6	3.6	3.3
環境A班	3.4	3.5	3.5	3.4	3.7	3.9	3.2	3.5	3.4	3.6	3.8	3.8	3.2	3.4
環境B班	3.4	3.6	3.2	3.4	3.6	3.7	3.1	3.4	3.0	3.4	3.4	3.5	3.3	3.4
地域福祉班	4.4	4.8	3.8	4.0	4.0	4.4	4.2	4.6	4.6	4.4	3.6	4.6	3.8	3.6
集落調査班	3.8	5.0	4.3	4.3	3.8	4.3	4.0	4.0	4.3	3.8	3.8	4.3	3.3	3.8
民芸班	3.8				3.8		3.5			3.7		3.5		
紙漉き班	3.3				3.5		3.1			3.2		3.1		
吹奏楽班	3.6				3.5		3.1			3.5		3.3		
食文化班	4.0				3.9		3.6			3.7		3.5		
環境A班	3.5				3.8		3.4			3.7		3.5		
環境B班	3.4				3.6		3.2			3.4		3.4		
地域福祉班	4.3				4.2		4.5			4.0		4.0		
集落調査班	4.3				4.0		4.1			3.8		3.8		

資質・能力	6		7		8		9			10			平均
	議論する能力		コーディネート能力		自己表現能力		地域への関心			自身について			
	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)	(22)	(23)	(24)	(25)	(26)	
内容	相手の思いや意見を理解できる	多様な意見をふまえて話し合いにより調整してまとめることができる	活動が計画通り進むよう、方法や役割を工夫することができる	さまざまな人と話し合い、協力するなかで、新たな関係性を築いていくことができる	自分が考えていることを、自ら進んで表現することができる	受け手の側を尊重した形で考えを適切に表現することができる	地域（自分の生まれ育った地域）が好きだ	将来何らかの形で地域（自分の生まれ育った地域）に関わりたい	地域の魅力や課題について説明することができる	村岡高校の地域との協働活動に積極的に取り組んでいる	村岡高校の地域との協働活動により成長している	村岡高校に入学して良かった	
民芸班	4.1	3.7	3.7	3.9	3.5	3.5	4.1	3.8	3.7	3.9	3.6	4.4	3.7
紙漉き班	3.6	3.1	3.3	3.5	3.0	3.2	4.2	3.7	3.2	3.4	3.2	4.7	3.4
吹奏楽班	4.0	3.3	3.3	3.7	3.1	3.4	3.9	3.2	3.2	3.7	3.3	4.3	3.5
食文化班	4.4	3.6	3.5	3.8	3.4	3.5	4.5	3.8	3.5	3.9	3.7	4.5	3.8
環境A班	3.9	3.6	3.6	3.8	3.6	3.6	4.2	3.7	3.5	3.6	3.6	4.5	3.6
環境B班	3.7	3.1	3.3	3.6	3.5	3.5	4.5	3.8	3.3	3.8	3.5	4.6	3.5
地域福祉班	4.8	4.0	4.0	4.4	4.4	3.8	4.8	3.6	4.4	5.0	5.0	4.0	4.3
集落調査班	4.8	3.8	3.3	4.5	4.0	4.8	4.5	3.8	4.3	5.0	4.8	4.5	4.2
民芸班	3.8		3.6		3.6		3.8			4.2			3.7
紙漉き班	4.1		4.1		3.7		4.6			4.7			3.7
吹奏楽班	3.7		3.6		3.4		3.6			4.0			3.5
食文化班	3.7		3.5		3.3		3.3			3.8			3.6
環境A班	3.5		3.4		3.0		3.5			4.0			3.5
環境B班	4.0		4.0		3.8		3.7			4.3			3.7
地域福祉班	4.0		3.7		3.6		3.8			4.0			4.0
集落調査班	4.3		4.0		4.1		4.3			4.3			4.1

生徒アンケート集計（10月）

資質・能力	1 問題発見能力				2 問題解決能力		3 プレゼンテーション能力			4 新たな価値を創造		5 コミュニケーション能力		
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)
	自ら情報を集め地域の現状に気付くことができる	他者との話し合いのなかで地域の現状に気付くことができる	社会情勢をふまえ地域の課題を挙げることができる	他地域と比較しながら、地域の課題を挙げることができる	現状と課題を理解した上で、その解決に向けて必要な方法を考えることができる	他者と目的意識を共有しながら、課題解決に向けて具体的な取り組みを行うことができる	自分の考えを適切にまとめ、発表することができる	スライドやポスターなどを工夫して作成することができる	グループで話し合った内容を適切にまとめ、発表することができる	失敗を恐れず、新しいアイデアや計画を立てて実施することができる	これまでのやり方や考え方にとらわれず、より良い方向性を模索することができる	自分の考えを伝えることができる	自分が分からない所を適切に質問することができる	大人（地域住民・講師・教職員）と話し合いを進めることができる
民芸班	3.8	4.0	3.7	3.9	3.8	3.8	3.6	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9	3.5	3.6
紙漉き班	3.4	3.6	3.4	3.4	3.3	3.2	3.1	3.3	3.4	3.1	3.4	3.4	3.2	3.2
吹奏楽班	3.6	3.9	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.9	3.8	3.7	3.7	4.0	3.6	3.6
食文化班	3.5	3.9	3.6	3.5	3.6	3.8	3.4	3.9	3.6	3.4	3.4	3.7	3.6	3.6
環境A班	3.7	3.5	3.6	3.6	4.0	3.6	3.5	4.1	3.6	3.9	3.9	3.5	2.9	3.6
環境B班	3.2	3.5	3.1	3.3	3.3	3.6	3.4	3.3	3.6	3.6	3.6	3.6	3.7	3.2
地域福祉班	4.0	4.5	3.8	4.5	4.2	3.7	4.0	4.5	4.5	3.8	4.2	4.5	4.5	4.3
集落調査班	4.3	4.0	4.0	4.5	4.3	4.3	4.3	4.3	4.5	4.0	4.3	4.3	3.5	4.0
民芸班	3.9				3.8		3.7			3.8		3.7		
紙漉き班	3.4				3.3		3.3			3.3		3.3		
吹奏楽班	3.7				3.6		3.8			3.7		3.7		
食文化班	3.6				3.7		3.6			3.4		3.7		
環境A班	3.6				3.8		3.8			3.9		3.3		
環境B班	3.3				3.5		3.4			3.6		3.5		
地域福祉班	4.2				3.9		4.3			4.0		4.4		
集落調査班	4.2				4.3		4.3			4.1		3.9		

資質・能力	6 議論する能力		7 コーディネート能力		8 自己表現能力		9 地域への関心			10 自身について			平均
	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)	(22)	(23)	(24)	(25)	(26)	
	相手の思いや意見を理解できる	多様な意見をふまへながら、話し合いにより調整してまとめることができる	活動が計画通り進むよう、方法や役割を工夫することができる	さまざまな人と話し合い、協力するなかで、新たな関係性を築いていくことができる	自分が考えていることを、自ら進んで表現することができる	受け手の側を尊重した形で考えを適切に表現することができる	地域（自分の生まれ育った地域）が好きだ	将来何らかの形で地域（自分の生まれ育った地域）に関わりたい	地域の魅力や課題について説明することができる	村岡高校の地域との協働活動に積極的に関与している	村岡高校の地域との協働活動や探究により成長している	村岡高校に入学して良かった	
民芸班	4.1	3.8	3.8	4.1	3.6	3.9	4.3	4.1	3.9	4.1	4.0	4.4	3.9
紙漉き班	3.9	3.4	3.4	3.5	3.1	3.2	3.8	3.9	3.4	3.7	3.6	4.4	3.5
吹奏楽班	4.0	3.7	3.6	4.0	3.6	3.8	4.1	3.6	3.7	4.0	3.9	4.2	3.8
食文化班	4.0	3.9	3.7	3.6	3.3	3.6	4.4	3.6	3.6	4.4	4.0	4.4	3.7
環境A班	3.8	3.6	3.8	3.9	3.8	3.6	4.1	3.8	3.7	3.9	3.9	4.3	3.7
環境B班	3.9	3.5	3.6	3.7	3.5	3.4	4.0	3.7	3.6	3.7	3.7	4.3	3.6
地域福祉班	4.7	4.0	4.3	4.3	4.5	4.5	4.8	4.2	4.5	4.7	4.5	4.2	4.3
集落調査班	4.3	4.3	4.3	4.5	4.0	4.5	4.3	4.3	4.5	4.8	4.8	4.8	4.3
民芸班	3.9		4.0		3.8		4.1			4.2			3.9
紙漉き班	3.6		3.4		3.2		3.7			3.9			3.4
吹奏楽班	3.9		3.8		3.7		3.8			4.0			3.8
食文化班	4.0		3.6		3.4		3.9			4.3			3.7
環境A班	3.7		3.8		3.7		3.8			4.0			3.7
環境B班	3.7		3.7		3.4		3.8			3.9			3.6
地域福祉班	4.3		4.3		4.5		4.5			4.4			4.3
集落調査班	4.3		4.4		4.3		4.3			4.8			4.3

(3) 評価・分析

地域との協働における探究活動で資質・能力の向上に最も効果的なファクターが「地域への関心」と言える。本校の学校設定教科「地域探求」は知識だけでなく、学ぶ方法を学ぶことに主眼を置いている。

高等学校在学時での地域課題の発見・解決で完結するのではなく地域への愛着、アプローチの多様性、持論化に重点を置いた取組が結実した結果だと分析できる。

以下に、地域創造系（第 61 期生）生徒の「活動のふりかえり」を掲載する。

.....

◆私はこの地域創造系の活動での人との出会いに感謝しています。1 年次での地域学入門では講師の方々に専門的な知識を教えていただくとともに香美町の魅力と課題を発見し再認識することができました。この活動によって、私は香美町により愛着を持ち、将来この町に帰ってきて地域活性化を行っていく一員になりたいと考えるきっかけになりました。2, 3 年次の活動ではマーケティングを学び、唐三を売り出すプロジェクトを行ったことによって様々な立場の方から意見を聞くことができ、今までの自分にはなかった多様な考え方を身に着けることができました。

この村岡高校の地域創造系に入学して先生方や地域の方、先輩方などから多くの刺激をもらったことで自分の地元へ愛着を持ち、自分が将来やりたいと思えることを見つけることができました。これからも人との出会いを大切に、香美町とつながりを持って生活していきたいです

◆私にとって地域創造系として過ごした3年間は、普通の高校生活以上の学びと出会いに溢れていた時間でした。「ひと・もの・こと魅力発信プロジェクト」も含め地域創造系では、自分の意見を伝え相手の意見とも向き合っ行動する場面が多くありました。この経験が自分自身に対しての自信や多くの方々との交流につながったのではないかと考えています。

また、今回のプロジェクトで行ったモニタリングツアーにはたくさんの笑顔がありました。その光景を見て、その笑顔を作り出しているのが自分たちであることのやりがいや自分たちの手で地域を創ることの楽しさを実感しました。このような学びはプロジェクトに携われたことで得られたものだと思います。私たちと地域をつなげてくださった地域の方々や先生方、一緒に走り切ってくれた仲間へ感謝しています。

.....

最終年にあたり、生徒アンケート分析を鳥取大学地域学部地域創造コース 白石秀壽准教授に依頼した。以下、その結果を示す。

① 時系列比較

地域創造系（第 61 期生）の生徒 14 名について、2021 年 4 月から 2023 年 1 月までの 6 時点において測定された「生徒アンケート」の時系列比較を行った。各質問項目は 5 件法（1=「思わない」-5=「そう思う」）で測定された（表 1）。「問題発見能力」「問題解決能力」「プレゼンテーション能力」「新たな価値を創造することができる能力」「コミュニケーション能力」「議論する能力」「コーディネート能力」「自己表現能力」「地域への関心」については、複数の項目の平均値をとった。分析の結果は、図 1～図 12 の通りである。ほぼすべての能力に関して、時系列的に生徒自身の知覚レベルで向上していた。2022 年 7 月に一時的な低下が観察されたが、コロナ渦で探究活動が停滞せざるえなかったことが背景にある。しかしながら結果として、この停滞がその後の大きな飛躍につながっている。

表1 質問項目

①	問題発見能力
X01_1	自ら情報を集め地域の現状に気付くことができる
X02_1	他者との話し合いのなかで地域の現状に気付くことができる
X03_1	社会情勢をふまえ地域の課題を挙げるができる
X04_1	他地域と比較しながら、地域の課題を挙げるができる
②	問題解決能力
X05_2	現状と課題を理解した上で、その解決に向け必要な方法を考えることができる
X06_2	他者と目的意識を共有しながら、課題解決に向け具体的な取り組みを行うことができる
③	プレゼンテーション能力
X07_3	自分の考えを適切にまとめ、発表することができる
X08_3	スライドやポスターなどを工夫して作成することができる
X09_3	グループで話し合った内容を適切にまとめ、発表することができる
④	新たな価値を創造することができる能力
X10_4	失敗を恐れず、新しいアイデアや計画を立てて実施することができる
X11_4	これまでのやり方や考え方にとらわれず、より良い方向性を模索することができる
⑤	コミュニケーション能力
X12_5	自分の考えを伝えることができる
X13_5	自分が分からない所を適切に質問することができる
X14_5	大人（地域住民・講師・教職員）と話し合いを進めることができる
⑥	議論する能力
X15_6	相手の思いや意見を理解できる
X16_6	多様な意見をふまえながら、話し合いにより調整してまとめることができる
⑦	コーディネート能力
X17_7	活動が計画通り進むように、方法や役割を工夫することができる
X18_7	さまざまな人と話し合い、協力するなかで、新たな関係性を築いていくことができる
⑧	自己表現能力
X19_8	自分が考えていることを、自ら進んで表現することができる
X20_8	受け手の側を尊重した形で考えを適切に表現することができる
⑨	地域への関心
X21_9	地域（自分の生まれ育った地域）が好きだ
X22_9	将来何らかの形で地域（自分の生まれ育った地域）に関わりたい
X23_9	地域の魅力や課題について説明することができる
⑩	自身について
X24_10	村岡高校での「地域との協働活動や探求活動」に進んで取り組んでいる。
X25_10	村岡高校での「地域との協働活動や探求活動」により新たな考え方・スキルが身に付いた。
X26_10	村岡高校に入学して良かった。

図1 問題発見能力

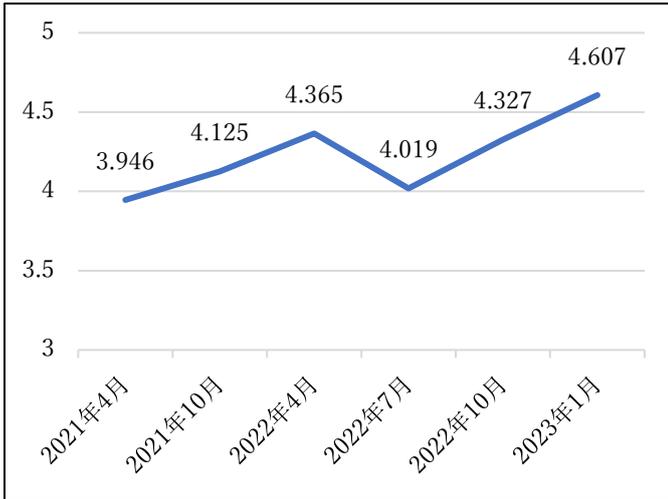


図4 新たな価値を創造することができる能力

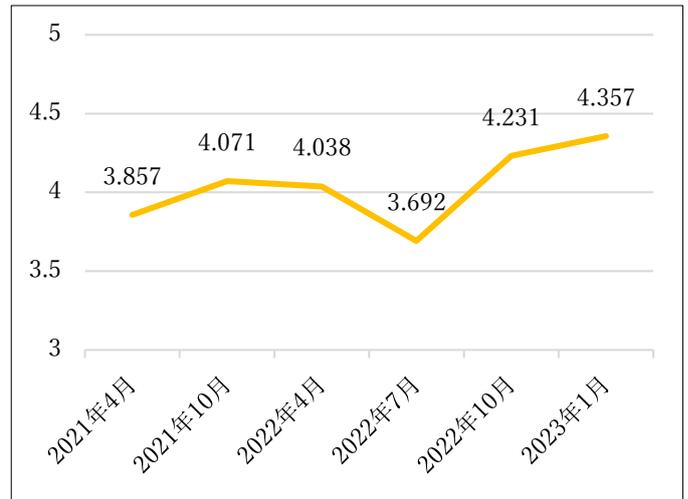


図2 問題解決能力

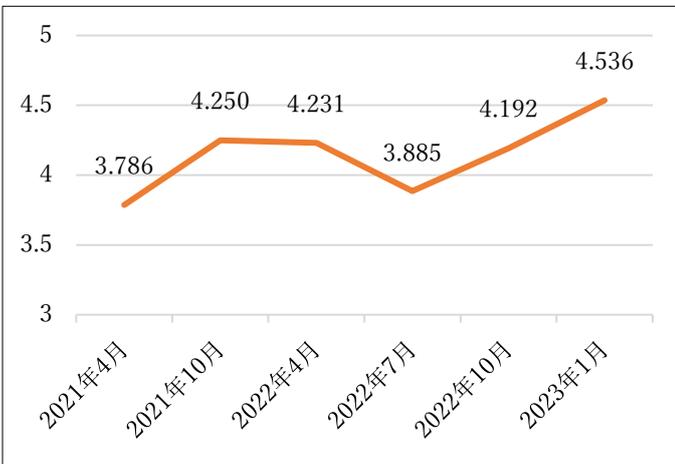


図5 コミュニケーション能力

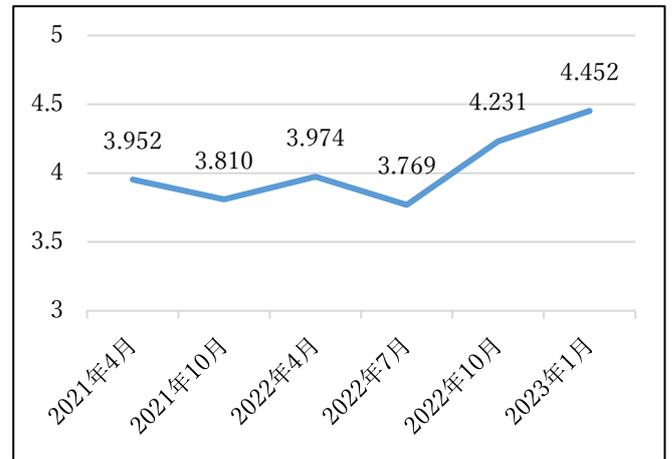


図3 プレゼンテーション能力

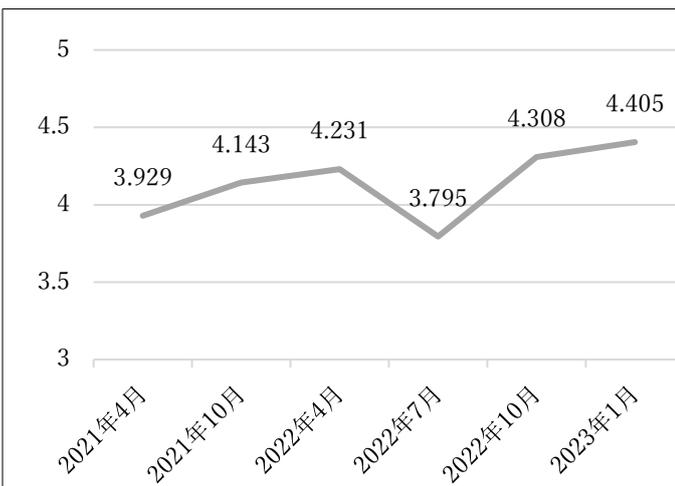


図6 議論する能力

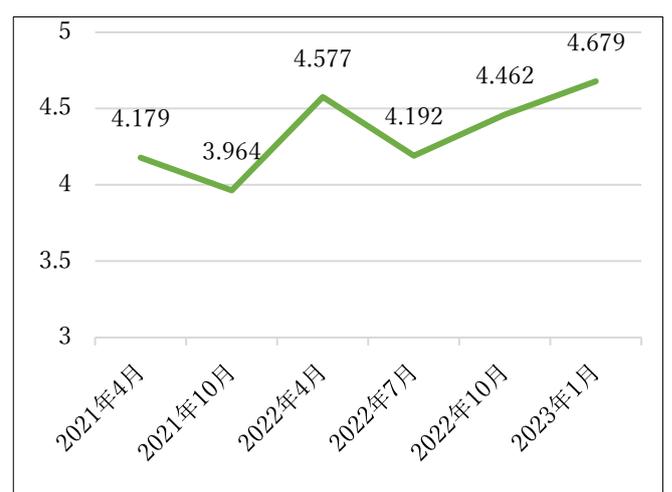


図7 コーディネート能力

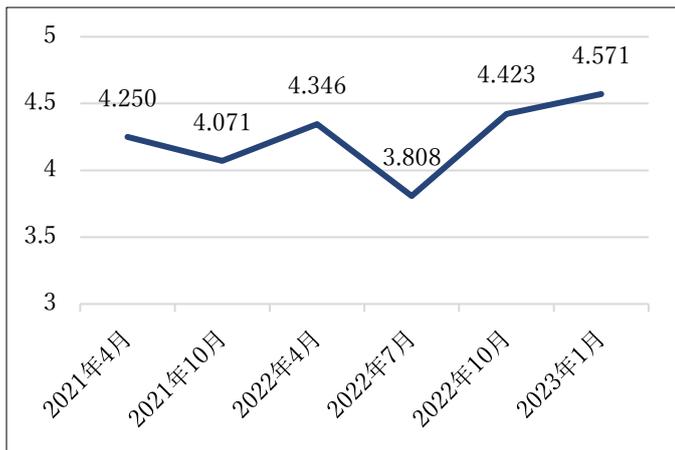


図8 自己表現能力

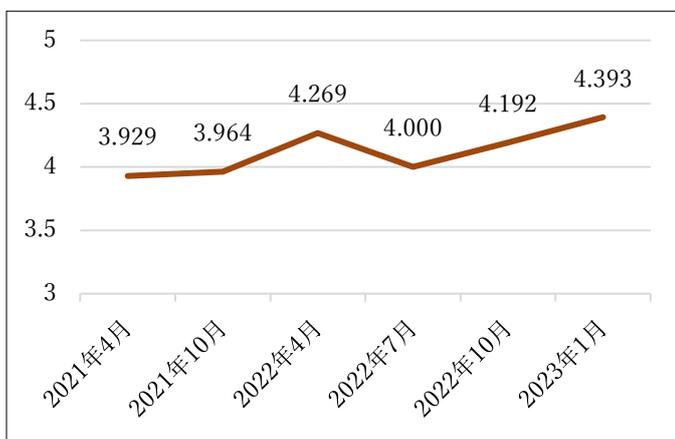


図9 地域への関心

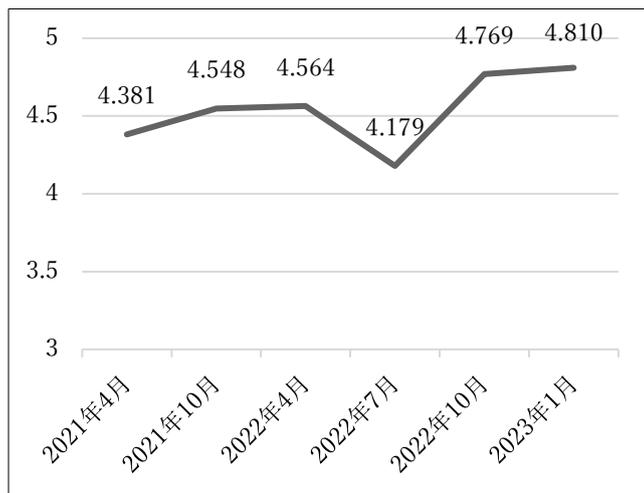


図10 村岡高校での「地域との協働活動や探求活動」に進んで取り組んでいる

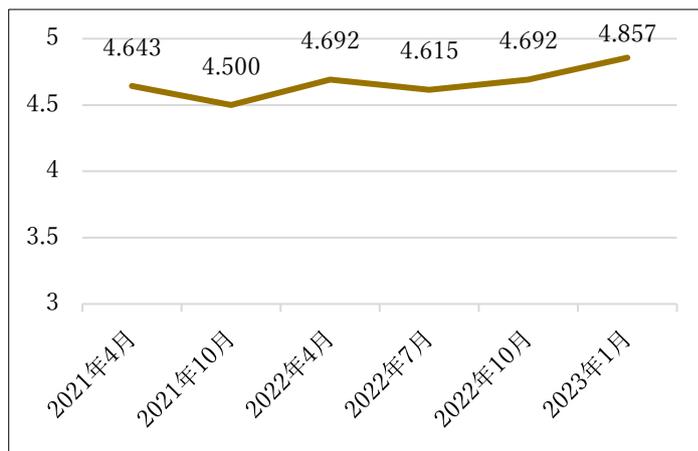


図11 村岡高校での「地域との協働活動や探求活動」により新たな考え方・スキルが身に付いた

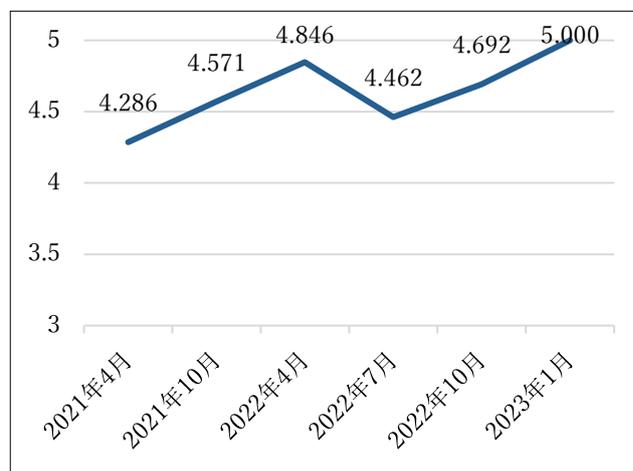
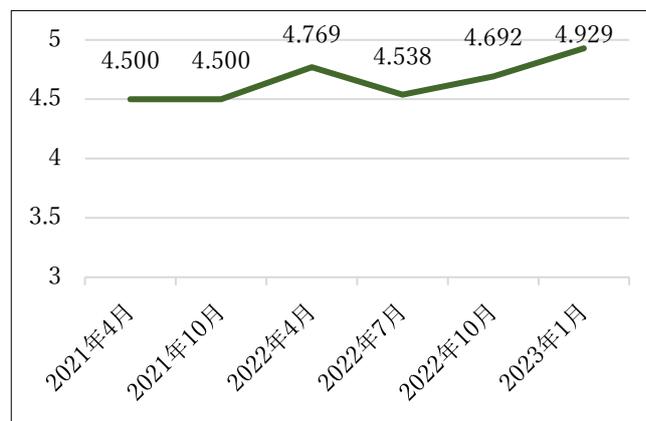


図12 村岡高校に入学して良かった



②回帰分析

地域創造系（第61期生）の生徒14名について、2021年4月から2023年1月までの6時点において測定された「生徒アンケート」を用いて回帰分析を行った（図13）。独立変数について、1期のラグオペレータをとった。すなわち、1つ前の時点で観測された変数を原因（独立変数）として、結果たる従属変数の予測を試みた。分析の結果、「地域への関心」が各能力の向上に寄与していることが見出された。

図13 分析結果

	従属変数 (t+1期)							
	問題発見能力	問題解決能力	プレゼンテーション能力	新たな価値を創造することができる能力	コミュニケーション能力	議論する能力	コーディネート能力	自己表現能力
(Intercept)	0.965	1.555**	0.209	1.961*	-0.056	-0.646	-0.635	-0.418
	0.587	0.543	0.75	0.786	0.651	0.686	0.719	0.702
問題発見能力	0.432*	0.184	0.168	0.116	0.124	0.451	0.035	0.224
	0.207	0.191	0.264	0.277	0.229	0.242	0.253	0.247
問題解決能力	-0.125	-0.194	-0.101	-0.158	-0.081	-0.234	0.114	-0.098
	0.178	-0.165	0.228	0.238	0.197	0.208	0.218	0.213
プレゼンテーション能力	0.450**	0.071	0.609**	0.207	0.126	0.656**	0.316	0.353
	0.162	0.15	0.207	0.217	0.179	0.189	0.198	0.193
新たな価値を創造することができる能力	0.372*	0.226	-0.009	0.289	0.177	0.273	0.348*	0.141
	0.14	0.129	0.178	0.187	0.155	0.163	0.171	0.167
コミュニケーション能力	-0.138	-	-0.12	-0.362	0.253	-0.513*	-0.273	-0.261
	0.167	0.155	0.214	0.224	0.185	0.196	0.205	0.200
議論する能力	-0.367*	-0.192	-0.214	-0.151	-0.158	0.031	-0.027	0.084
	0.168	0.155	0.214	0.224	0.186	0.196	0.205	0.200
コーディネート能力	-0.514*	-0.053	0.135	-0.133	0.057	-0.265	-0.12	-0.154
	0.191	0.177	0.245	0.256	0.212	0.224	0.234	0.229
自己表現能力	0.179	0.323*	-0.214	0.152	0.082	0.045	-0.009	0.051
	0.157	0.145	0.201	0.211	0.174	0.184	0.193	0.188
地域への関心	0.497**	0.650**	0.628**	0.498**	0.376**	0.685**	0.717**	0.689**
	0.099	0.092	0.126	0.133	0.11	0.116	0.121	0.118
R-squared	0.658	0.619	0.577	0.35	0.597	0.66	0.597	0.596
N	53	53	53	53	53	53	53	53

*** = $p < 0.001$; ** = $p < 0.01$; * = $p < 0.05$ 。上段：回帰係数。下段：標準誤差

5 その他 関係資料

- ・高校魅力化評価システム 組織診断ポートフォリオ
- ・令和3年度実施教育課程

Portfolio of sustainable education and community

高校魅力化評価システム 組織診断ポートフォリオ

高校名	兵庫県立村岡高等学校											
年度	2022年度											
回答者数	生徒・学生	117 (内訳)	1年生	37	2年生	31	3年生	49	4年生	0	5年生	0
	(昨年度)	149 (内訳)	1年生	39	2年生	53	3年生	57	4年生	0	5年生	0
	大人	35 (内訳)	教職員	18	(昨年度)	大人	39	(内訳)	教職員	22		

【MEMO】

教育目標、育てたい生徒像など



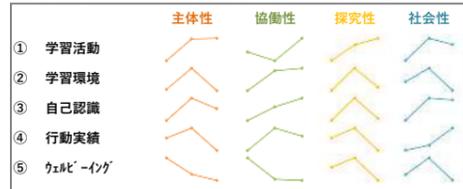
Summary 総括表

■ 今回の結果 (まとめ)

	主体性	協働性	探究性	社会性
① 学習活動	2	4	3	3
② 学習環境	4	4	4	4
③ 自己認識	3	3	3	3
④ 行動実績	3	3	3	3
⑤ ウェルビーイング	3	4	4	3

※肯定的回答割合が50%未満=1.50~65%=2.65~80%=3.80以上=4

■ 前回、前々回からの肯定的回答割合の推移 (まとめ)



※左から前々回、前回、今回。非受検回もグラフに表示されるため読み取り注意。

How to read 結果の読み取り方

このポートフォリオでは、以下の5側面、4領域、3軸により、高校と地域の学びの「いま」と「変化」を読み取ることができます。

- 5つの側面 → 各校・地域の状態を、「①学習活動」「②学習環境」「③生徒の自己能力認識」「④生徒の行動実績」「⑤ウェルビーイング」の5つから把握しています。
- 4つの領域から → 各設問を「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の4つの資質・能力に関する領域に分類しています。
- 3つの軸で → 上記のデータを「時間軸（前年度からの伸び）」「学年軸（学年による違い）」「地域軸（他地域との比較）」の3つの軸で整理しています。

結果に出てくる数字や言葉は次の意味を表しています。

- 【割合 (%)】 → 各項目で「4. あてはまる」「3. どちらかといえばあてはまる」という肯定的回答をした割合
- 【平均】 → 「あてはまらない=1」～「あてはまる=4」の回答の平均値
- 【他地域】 → 同じ機会に調査を実施した他校の回答の平均値
- 【回答上昇者の割合】 → (個人IDで紐づけを行い、複数回調査を実施した場合に表示) 前年と比べて、各領域の回答平均値が上がった回答者の、全回答者に占める割合

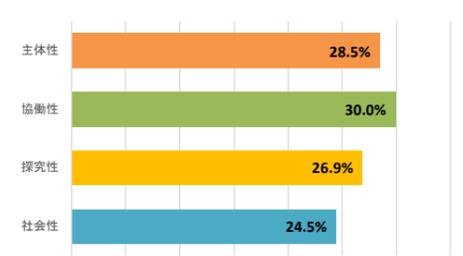
① 学習活動 (明示的なカリキュラム)

■ 今回の結果



※上段の数値 (%) が肯定的回答割合、下段の数値が平均値

■ 前回調査時からの変化 (回答上昇者の割合)



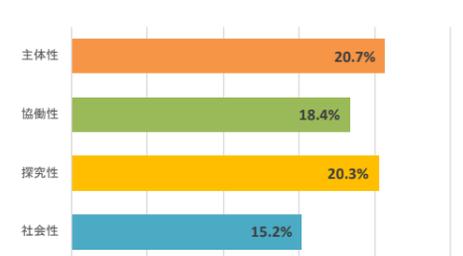
② 学習環境 (学びの土壌：非明示的なカリキュラム)

■ 今回の結果



※上段の数値 (%) が肯定的回答割合、下段の数値が平均値

■ 前回調査時からの変化 (回答上昇者の割合)



【学習活動】 【学習環境】 読み取り・検討の視点

- ・ 自校の強みや課題、それを増進/克服するための、協働のあり方は？
- ・ 普段から意識して取り組んでいる活動の機会や環境づくりは？その成果は出ていそうか？
- ・ 協働を支えるコーディネート機能として、どのような役割が必要か？

■ 強み・伸びしろ

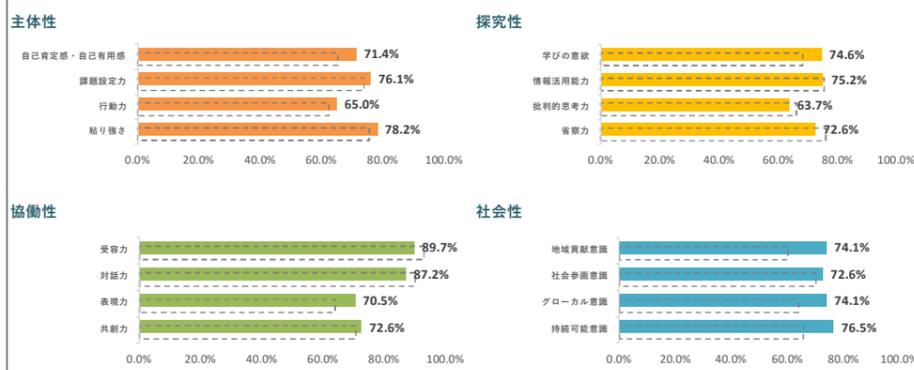
	強み：肯定的回答割合が最も高い項目	伸びしろ：肯定的回答割合が最も低い項目
① 学習活動	93.2% グループで協力しながら学習や調べものを行う	50.4% 日本や世界の課題の解決方法について考える
② 学習環境	93.2% 挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	60.7% 地域に、尊敬している・憧れている大人がいる
③ 自己認識	89.7% 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	50.4% 複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ
④ 行動実績	82.9% 授業で分からないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた	65.8% 授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った
⑤ ウェルビーイング	94.0% この学校に入ってよかったと思う	56.4% 日本の将来は明るいと思う

③ 自己認識 (資質・能力の主観的認識)

■ 今回の結果



■ 今回の結果 (詳細)



※点線は他地域における肯定的回答割合

【生徒の自己認識】 読み取り・検討の視点

- ・ 普段から意識している、育てたい生徒像や、身につけさせたい力に関する指標の結果は？
- ・ 前回からの変化は？その要因として、何が考えられそうか？(学習活動、学習環境と関連付けて)
- ・ 今後、意識して伸ばしていきたいと考える力は？そのために必要な「次の一手」は？

■ 総合的な生徒の満足度

	満足度
生活全般の満足度 (0~10で6以上)	77.8%
高校に対する満足度	94.0%
この学校を中学生におすすめできる	84.6%

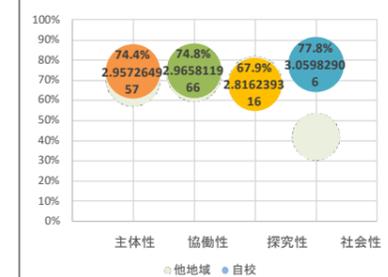
※非受検回もグラフに表示されるため読み取り注意。

■ 総合的な大人の満足度

	満足度
この地域を将来暮らす場所としておすすめできる	68.6%
この学校に関わってよかった	100.0%
この学校を中学生におすすめできる	94.3%

④ 行動実績 (資質・能力の発揮)

■ 今回の結果



■ 前回調査時からの変化 (回答上昇者の割合)



【生徒の行動実績】 読み取り・検討の視点

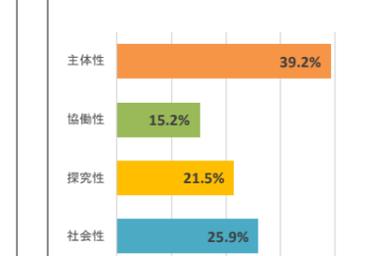
- ・ 生徒に期待する具体的な行動は？
- ・ 生徒の自己認識との関連は？
- ・ 具体的な行動を促すような、学習活動や学習環境づくりはできているか？

⑤ ウェルビーイング

■ 今回の結果



■ 前回調査時からの変化 (回答上昇者の割合)

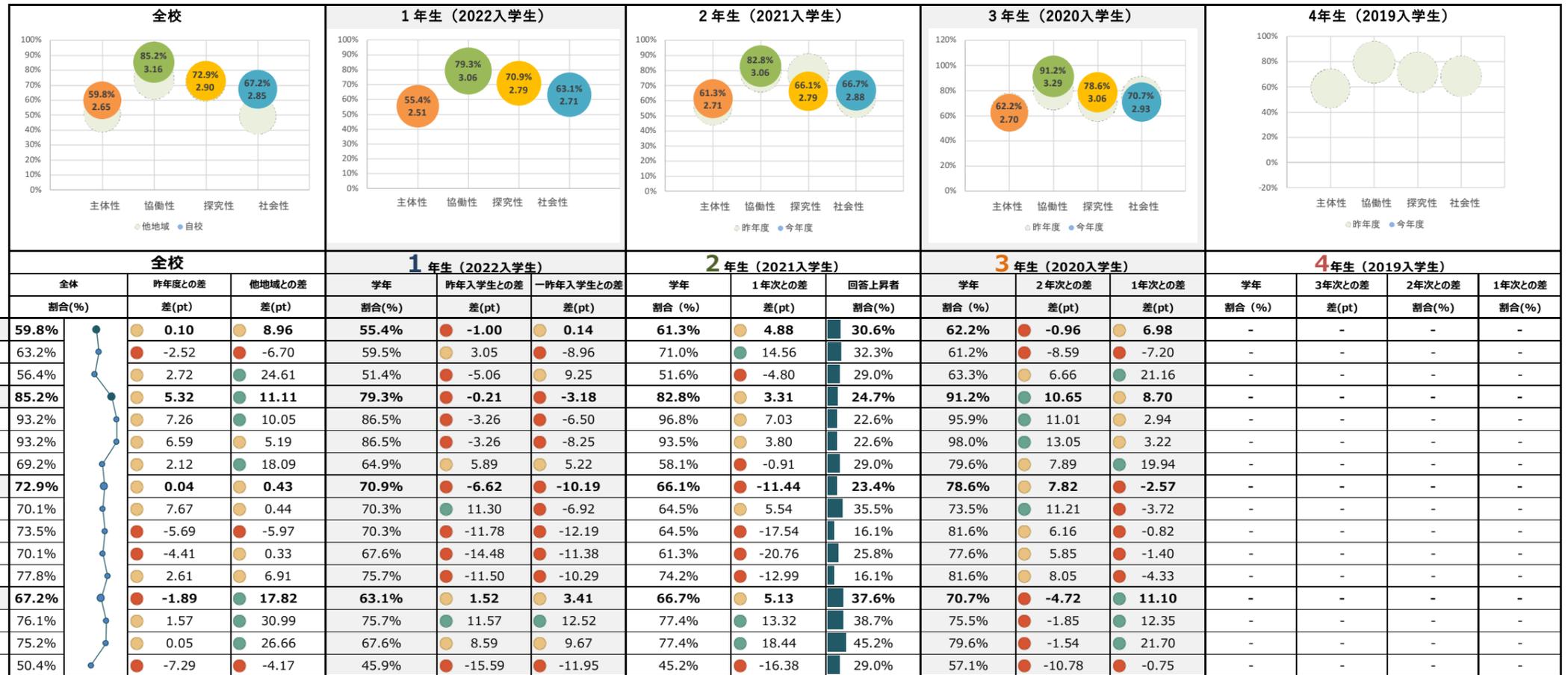


【ウェルビーイング】 読み取り・検討の視点

- ・ 学習環境や大人のあり方との関係は？
- ・ 生徒の資質能力との関連は？
- ・ ウェルビーイングの観点を学校目標にどう位置づけていくか？

Details 詳細結果

① 学習活動（明示的なカリキュラム）



※3年生、4年生の「回答上昇者率」は「上昇率」シートで確認いただけます

② 学習環境（学びの土壌：非明示的なカリキュラム）



大人質問項目	生徒の認識 (A)								大人の認識 (大人全体の評価) (B)				生徒と大人の認識の差 (A-B)	
	割合(%)	昨年度との差 差(pt)	他地域との差 差(pt)	回答上昇者	学年別				割合(%)	昨年度との差 差(pt)	うち教職員 割合(%)	昨年度との差 差(pt)	生徒と大人(全体) 差(pt)	生徒と教職員 差(pt)
					1年生	2年生	3年生	4年生						
主体性に関わる学習環境	83.2%	-2.75	6.47	20.7%	79.7%	82.3%	86.5%	-	88.1%	4.23	95.4%	7.17	-4.9pt	-12.1pt
20 失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある	87.2%	0.60	10.76	27.8%	83.8%	83.9%	91.8%	-	88.6%	6.52	100.0%	13.64	-1.4pt	-12.8pt
21 挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	93.2%	-0.13	2.87	16.5%	94.6%	90.3%	93.9%	-	94.3%	1.98	100.0%	0.00	-1.1pt	-6.8pt
33 目標や当事者意識を持って挑戦している人がある	83.8%	-1.47	2.87	20.3%	81.1%	83.9%	85.7%	-	88.6%	6.52	94.4%	8.08	-4.8pt	-10.7pt
34 地域に、尊敬している・憧れている大人がいる	60.7%	-15.16	5.92	20.3%	45.9%	61.3%	71.4%	-	-	-	-	-	-	-
30 人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある	82.9%	2.37	20.34	22.8%	86.5%	71.0%	87.8%	-	65.7%	-0.95	77.8%	9.60	17.2pt	5.1pt
26 自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる	90.6%	-2.69	1.72	16.5%	86.5%	93.5%	91.8%	-	94.3%	7.11	100.0%	4.55	-3.7pt	-9.4pt
35 周りの大人は、自分に関わることに自分で決めることを尊重してくれる	89.7%	-	3.71	-	83.8%	96.8%	89.8%	-	97.1%	-	100.0%	-	-7.4pt	-10.3pt
36 生徒の意見が学校での意思決定に反映される雰囲気がある	77.8%	-	3.58	-	75.7%	77.4%	79.6%	-	-	-	-	-	-	-
協働性に関わる学習環境	84.6%	0.05	5.03	18.4%	78.4%	83.1%	90.3%	-	87.1%	12.14	91.7%	10.98	-2.5pt	-7.1pt
22 人と違うことが尊重される雰囲気がある	82.9%	2.37	3.31	20.3%	78.4%	77.4%	89.8%	-	85.7%	21.61	83.3%	15.15	-2.8pt	-0.4pt
23 ありのままの自分が尊重される雰囲気がある	83.8%	-0.13	1.59	16.5%	78.4%	77.4%	91.8%	-	91.4%	17.07	88.9%	7.07	-7.7pt	-5.1pt
27 自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある	88.9%	0.30	5.33	13.9%	81.1%	90.3%	93.9%	-	91.4%	11.94	100.0%	22.73	-2.5pt	-11.1pt
28 立場や役割を超えて協働する機会がある	82.9%	-2.33	9.91	22.8%	75.7%	87.1%	85.7%	-	80.0%	-2.05	94.4%	-1.01	2.9pt	-11.5pt
探究性に関わる学習環境	84.2%	-2.56	4.62	20.3%	76.4%	83.9%	90.3%	-	75.7%	-2.49	90.3%	1.64	8.5pt	-6.1pt
17 本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある	82.1%	-5.20	0.19	20.3%	75.7%	77.4%	89.8%	-	68.6%	4.47	77.8%	0.51	13.5pt	4.3pt
18 将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる	87.2%	-0.07	8.96	16.5%	70.3%	93.5%	95.9%	-	77.1%	-4.91	94.4%	3.54	10.0pt	-7.3pt
24 周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けをしてくれる	87.2%	-4.77	1.85	20.3%	81.1%	87.1%	91.8%	-	82.9%	-1.76	100.0%	4.55	4.3pt	-12.8pt
31 お互いに問いかけあう機会がある	80.3%	-0.20	7.47	24.1%	78.4%	77.4%	83.7%	-	74.3%	-7.77	88.9%	-2.02	6.1pt	-8.5pt
社会性に関わる学習環境	82.3%	-4.98	17.50	15.2%	78.4%	80.6%	86.2%	-	85.7%	3.02	95.8%	0.38	-3.4pt	-13.6pt
19 地域から大切にされている雰囲気を感じる	92.3%	0.36	17.47	13.9%	91.9%	93.5%	91.8%	-	97.1%	7.40	100.0%	0.00	-4.8pt	-7.7pt
25 興味を持ったことに対してすぐに橋渡しをしてくれる大人がいる	80.3%	-8.25	7.22	13.9%	75.7%	77.4%	85.7%	-	80.0%	8.21	100.0%	9.09	0.3pt	-19.7pt
29 地域の人や課題などにじかに触れる機会がある	85.5%	-2.45	29.29	19.0%	78.4%	87.1%	89.8%	-	74.3%	-18.02	94.4%	-1.01	11.2pt	-9.0pt
32 自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある	70.9%	-9.60	16.01	13.9%	67.6%	64.5%	77.6%	-	91.4%	14.51	88.9%	-6.57	-20.5pt	-17.9pt

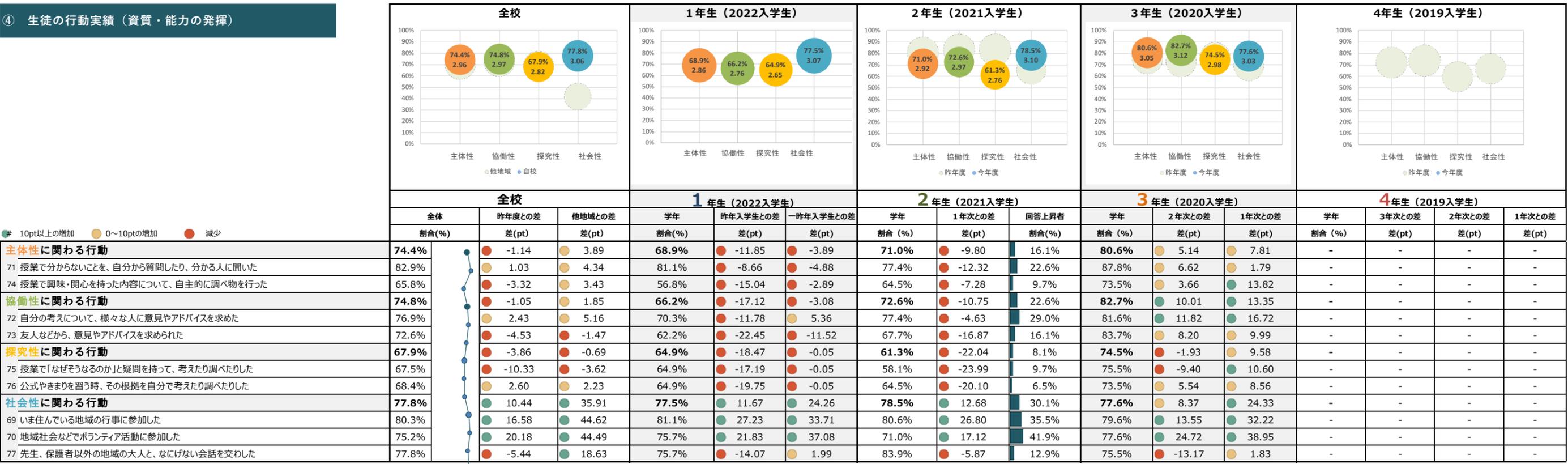
③ 生徒の自己認識 (資質・能力の主観的認識)

10pt以上の増加 0~10ptの増加 減少

	全体 割合(%)	全校		1年生(2022入学生)			2年生(2021入学生)			3年生(2020入学生)			4年生(2019入学生)			
		昨年度との差	他地域との差	学年	昨年入学生との差	一昨年入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年次との差	学年	3年次との差	2年次との差	1年次との差
		差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	差(pt)
主体性に関わる自己認識	72.2%	-1.76	3.55	65.6%	-9.09	-1.28	68.7%	-6.06	18.0%	79.3%	4.91	12.38	-	-	-	-
【自己肯定感・自己有用感】	71.4%	1.57	6.10	60.8%	-13.55	-2.35	77.4%	3.06	22.6%	75.5%	2.87	12.35	-	-	-	-
51 自分にはよいところがあると思う	76.9%	-0.93	1.18	70.3%	-11.78	-3.41	77.4%	-4.63	12.9%	81.6%	0.50	7.95	-	-	-	-
52 私は、自分自身に満足している	65.8%	4.07	11.01	51.4%	-15.32	-1.28	77.4%	10.75	32.3%	69.4%	5.24	16.76	-	-	-	-
【課題設定力】	76.1%	-1.11	2.20	67.6%	-11.92	-4.36	74.2%	-5.29	22.6%	83.7%	2.54	11.74	-	-	-	-
39 現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる	76.1%	-1.11	2.20	67.6%	-11.92	-4.36	74.2%	-5.29	22.6%	83.7%	2.54	11.74	-	-	-	-
【行動力】	65.0%	-5.18	2.59	60.8%	-8.42	-1.47	53.2%	-16.00	11.3%	75.5%	6.64	13.23	-	-	-	-
40 目標を設定し、確実に行動することができる	66.7%	-4.47	5.03	64.9%	-6.93	-1.80	51.6%	-20.18	9.7%	77.6%	13.40	10.88	-	-	-	-
53 自分で計画を立てて活動することができる	63.2%	-5.88	0.14	56.8%	-9.91	-1.14	54.8%	-11.83	12.9%	73.5%	-0.12	15.57	-	-	-	-
【粘り強さ】	78.2%	-2.00	2.64	74.3%	-3.88	1.52	72.6%	-5.62	17.7%	84.7%	6.39	11.89	-	-	-	-
37 うまくいか分らないことにも意欲的に取り組む	83.8%	-0.13	5.36	83.8%	-5.96	8.35	80.6%	-9.10	16.1%	85.7%	2.70	10.28	-	-	-	-
47 忍耐強く物事に取り組むことができる	72.6%	-3.86	-0.08	64.9%	-1.80	-5.31	64.5%	-2.15	19.4%	83.7%	10.09	13.50	-	-	-	-
協働性に関わる自己認識	78.1%	1.61	1.83	78.4%	1.46	9.26	74.8%	-2.08	18.1%	80.0%	3.40	10.88	-	-	-	-
【受容力】	89.7%	-0.19	-3.16	86.5%	-3.26	5.78	90.3%	0.58	19.4%	91.8%	1.27	11.13	-	-	-	-
43 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	89.7%	-0.19	-3.16	86.5%	-3.26	5.78	90.3%	0.58	19.4%	91.8%	1.27	11.13	-	-	-	-
【対話力】	87.2%	1.94	-2.81	89.2%	4.57	6.73	83.9%	-0.74	19.4%	87.8%	6.62	5.30	-	-	-	-
42 相手の意見を丁寧に聞くことができる	87.2%	1.94	-2.81	89.2%	4.57	6.73	83.9%	-0.74	19.4%	87.8%	6.62	5.30	-	-	-	-
【表現力】	70.5%	4.74	6.57	74.3%	5.09	19.94	64.5%	-4.71	19.4%	71.4%	5.39	17.04	-	-	-	-
49 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	76.1%	6.94	6.56	81.1%	6.72	19.68	67.7%	-6.62	19.4%	77.6%	9.63	16.15	-	-	-	-
50 友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	65.0%	2.54	6.58	67.6%	3.47	20.20	61.3%	-2.81	19.4%	65.3%	1.16	17.94	-	-	-	-
【共創力】	72.6%	-3.19	1.96	67.6%	-4.23	-6.12	71.0%	-0.83	12.9%	77.6%	-1.69	3.87	-	-	-	-
44 共同作業だと、自分の力が発揮できる	72.6%	-3.19	1.96	67.6%	-4.23	-6.12	71.0%	-0.83	12.9%	77.6%	-1.69	3.87	-	-	-	-
探究性に関わる自己認識	71.8%	-2.09	1.32	65.2%	-11.35	-4.44	66.5%	-10.39	14.7%	80.1%	6.55	10.67	-	-	-	-
【学びの意欲】	74.6%	-2.31	6.47	68.5%	-13.58	-4.63	69.9%	-12.16	12.9%	82.3%	6.84	9.21	-	-	-	-
38 家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する	69.2%	-1.91	-2.10	62.2%	-9.63	-8.01	64.5%	-7.28	6.5%	77.6%	9.63	7.38	-	-	-	-
61 地域を対象とした課題探究学習に熱心に取り組んでいる	70.1%	-1.06	17.45	62.2%	-12.20	0.76	58.1%	-16.29	9.7%	83.7%	11.98	22.27	-	-	-	-
67 学習を通じて、自分がしたいことが増えている	84.6%	-3.98	4.07	81.1%	-18.92	-6.64	87.1%	-12.90	22.6%	85.7%	-1.08	-2.01	-	-	-	-
【情報活用能力】	75.2%	-1.30	-0.28	71.6%	-9.15	-3.82	64.5%	-16.25	9.7%	84.7%	3.56	9.26	-	-	-	-
45 情報を、勉強したことに関連づけて理解できる	80.3%	-0.87	-1.96	75.7%	-11.50	-3.27	77.4%	-9.76	12.9%	85.7%	0.81	6.77	-	-	-	-
46 勉強したものを実際に応用してみる	70.1%	-1.73	1.40	67.6%	-6.79	-4.36	51.6%	-22.75	6.5%	83.7%	6.31	11.74	-	-	-	-
【批判的思考力】	63.7%	-3.26	-2.46	58.1%	-7.90	5.60	59.7%	-8.68	22.6%	70.4%	4.31	16.79	-	-	-	-
41 複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	50.4%	-3.26	-1.78	45.9%	-7.90	5.60	45.2%	-8.68	22.6%	57.1%	4.31	16.79	-	-	-	-
54 一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする	76.9%	-	-3.13	70.3%	-	-	74.2%	-	-	83.7%	-	-	-	-	-	-
【省察力】	72.6%	-1.85	-3.37	56.8%	-12.47	-15.17	74.2%	4.96	22.6%	83.7%	13.86	11.74	-	-	-	-
48 自分を客観的に理解することができる	72.6%	-1.85	-3.37	56.8%	-12.47	-15.17	74.2%	4.96	22.6%	83.7%	13.86	11.74	-	-	-	-
社会性に関わる自己認識	74.1%	-0.37	9.19	72.0%	-5.63	4.85	66.0%	-11.64	15.0%	80.9%	6.45	13.75	-	-	-	-
【地域貢献意識】	74.1%	1.37	13.90	75.7%	-1.25	13.10	61.3%	-15.63	12.9%	81.0%	8.00	18.38	-	-	-	-
65 将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	63.2%	1.50	13.55	70.3%	1.04	22.90	35.5%	-33.75	12.9%	75.5%	3.81	28.14	-	-	-	-
56 地域をよりよくするため、地域の問題に関わりたい	76.1%	0.90	12.36	73.0%	-3.95	9.82	71.0%	-5.96	9.7%	81.6%	9.93	18.47	-	-	-	-
58 将来、自分の住んでいる地域に役に立ちたい	82.9%	1.70	15.79	83.8%	-0.83	6.59	77.4%	-7.20	16.1%	85.7%	10.24	8.52	-	-	-	-
【社会参画意識】	72.6%	-2.07	2.45	65.8%	-7.74	0.27	71.0%	-2.54	19.4%	78.9%	4.70	13.41	-	-	-	-
57 私が関わることで、社会状況が変えられるかもしれない	68.4%	7.97	13.63	64.9%	0.76	10.48	61.3%	-2.81	22.6%	75.5%	13.25	21.12	-	-	-	-
62 地域や社会での問題やできごとに関心がある	74.4%	-4.84	2.49	67.6%	-9.36	0.90	71.0%	-5.96	9.7%	81.6%	4.27	14.97	-	-	-	-
55 18歳選挙権を取得したら、選挙に行くと思う	75.2%	-9.35	-8.77	64.9%	-14.62	-10.57	80.6%	1.16	25.8%	79.6%	-3.43	4.15	-	-	-	-
【グローバル意識】	74.1%	0.25	10.12	73.9%	-4.76	5.45	64.5%	-14.12	14.0%	80.3%	6.06	11.85	-	-	-	-
59 地域の課題と世界での課題は関連していると思う	81.2%	4.69	9.70	86.5%	1.87	14.56	74.2%	-10.42	16.1%	81.6%	8.05	9.70	-	-	-	-
64 将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい	80.3%	2.49	7.53	73.0%	-14.21	-9.48	87.1%	-0.08	16.1%	81.6%	6.16	-0.82	-	-	-	-
63 将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	60.7%	-6.43	13.12	62.2%	-1.94	11.28	32.3%	-31.84	9.7%	77.6%	3.97	26.67	-	-	-	-
【持続可能意識】	76.5%	-1.36	10.87	73.0%	-10.36	-1.59	67.7%	-15.59	12.9%	84.7%	7.34	10.13	-	-	-	-
60 地域文化や暮らしを、自らの手で未来に伝えたい	71.8%	-2.03	13.46	73.0%	-6.51	8.06	58.1%	-21.42	9.7%	79.6%	6.01	14.68	-	-	-	-
68 自分の将来について明るい希望を持っている	81.2%	-0.68	8.28	73.0%	-14.21	-11.24	77.4%	-9.76	16.1%	89.8%	8.66	5.59	-	-	-	-

④ 生徒の行動実績 (資質・能力の発揮)

● 10pt以上の増加 ● 0~10ptの増加 ● 減少



⑤ 学習・その他

	全校			1年生 (2022入学生)			2年生 (2021入学生)			3年生 (2020入学生)			4年生 (2019入学生)			
	全体	昨年度との差	他地域との差	学年	昨年入学生との差	一昨年入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年次との差	学年	3年次との差	2年次との差	1年次との差
91 平均的な学習時間【平日】	73.68	-	-35.45	53.51	-	-	67.42	-	-	92.86	-	-	-	-	-	-
92 平均的な学習時間【休日】	109.91	-	-81.19	91.89	-	-	83.87	-	-	140.00	-	-	-	-	-	-

	全校			1年生 (2022入学生)			2年生 (2021入学生)			3年生 (2020入学生)			4年生 (2019入学生)			
	全体	昨年度との差	他地域との差	学年	昨年入学生との差	一昨年入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年次との差	学年	3年次との差	2年次との差	1年次との差
90 この学校を中学生におすすめできる	84.6%	-	5.81	91.9%	-	-	80.6%	-	-	81.6%	-	-	-	-	-	-
78 国際社会の課題解決に貢献したい	66.7%	6.26	5.03	70.3%	-4.09	21.15	67.7%	-6.62	29.0%	63.3%	1.00	-	-	-	-	-
79 まだ世の中にない新しい技術やサービスを生み出してみたい	61.5%	7.18	1.87	67.6%	3.47	14.94	54.8%	-9.26	12.9%	61.2%	10.28	-	-	-	-	-
80 客観的な証拠に基づき考え、判断する科学的視点から課題解決にあたることのできる	56.4%	2.05	1.54	43.2%	-20.86	-7.63	51.6%	-12.49	19.4%	69.4%	12.78	-	-	-	-	-

⑥ 大人向け調査

	大人向け調査 (全回答平均)			大人向け調査 (教職員のみ)		
	全体	昨年度との差	他地域との差	全体	昨年度との差	他地域との差
25 この学校を中学生におすすめできる	94.3%	-	7.38	100.0%	-	14.21
26 この学校に関わってよかったと思う	100.0%	-	9.26	100.0%	-	10.33
27 この地域を、将来暮らす場所としておすすめできる	68.6%	-	-8.63	44.4%	-	-31.35
28 【教職員のみ】地域・社会との協働を通して、授業の質の向上につながっている	83.3%	-	17.14	83.3%	-	17.14
29 【教職員のみ】地域・社会との協働を通して、自身の資質・能力の向上につながっている	77.8%	-	4.44	77.8%	-	4.44
30 【教職員のみ】地域・社会との協働を通して、学習意欲が高まった生徒がいる	66.7%	-	-6.03	66.7%	-	-6.03
31 【教職員のみ】地域・社会との協働を通して、業務負担感の軽減につながっている	5.6%	-	-10.72	5.6%	-	-10.72

⑦ 生徒のウェルビーイング



	全校			1年生 (2022入学生)			2年生 (2021入学生)			3年生 (2020入学生)			4年生 (2019入学生)			
	全体	昨年度との差	他地域との差	学年	昨年入学生との差	一昨年入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年次との差	学年	3年次との差	2年次との差	1年次との差
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	差(pt)
主体性に関わるウェルビーイング	71.5%	● 5.29	● 7.97	60.4%	● -22.04	● -10.43	75.3%	● -14.89	■ 16.1%	77.6%	● 10.09	● 2.97	-	-	-	-
81 今の生活全般に対する満足度 (0~10で評価: 6以上の割合)	77.8%	● 5.29	● 7.70	70.3%	● -22.04	● -10.43	77.4%	● -14.89	■ 16.1%	83.7%	● 10.09	● 2.97	-	-	-	-
82 普段のあなたの幸福度 (0~10で評価: 6以上の割合)	73.5%	-	● 3.53	62.2%	-	-	74.2%	-	-	81.6%	-	-	-	-	-	-
83 現在の日常生活に不安や心配事がない	63.2%	-	● 12.70	48.6%	-	-	74.2%	-	-	67.3%	-	-	-	-	-	-
協働性に関わるウェルビーイング	91.7%	● 2.07	● 8.68	90.1%	● -2.84	● -1.90	89.2%	● -7.11	■ 16.1%	94.6%	● 5.35	● -0.57	-	-	-	-
66 この学校に入ってよかったと思う	94.0%	● 2.07	● 7.90	94.6%	● -2.84	● -1.90	90.3%	● -7.11	■ 16.1%	95.9%	● 5.35	● -0.57	-	-	-	-
84 学校の一員だと感じている	91.5%	-	● 6.94	91.9%	-	-	90.3%	-	-	91.8%	-	-	-	-	-	-
85 大切な人を幸せにしたり、楽しませたりしていると思う	89.7%	-	● 11.20	83.8%	-	-	87.1%	-	-	95.9%	-	-	-	-	-	-
探究性に関わるウェルビーイング	81.5%	● -0.68	● 7.45	69.4%	● -14.21	● -11.24	77.4%	● -9.76	■ 16.1%	93.2%	● 8.66	● 5.59	-	-	-	-
68 【再掲】自分の将来について明るい希望を持っている	81.2%	● -0.68	● 8.28	73.0%	● -14.21	● -11.24	77.4%	● -9.76	■ 16.1%	89.8%	● 8.66	● 5.59	-	-	-	-
86 自分の将来についての見通し(将来こういふ風でありたい)を持っている	82.9%	-	● 7.17	64.9%	-	-	80.6%	-	-	98.0%	-	-	-	-	-	-
87 自分の将来に向けて大切だと思うことを実行している	80.3%	-	● 6.92	70.3%	-	-	74.2%	-	-	91.8%	-	-	-	-	-	-
社会性に関わるウェルビーイング	71.4%	● -0.17	● 11.03	70.9%	● -3.67	● 7.33	61.3%	● -14.31	■ 12.9%	78.1%	● 8.12	● 11.60	-	-	-	-
58 【再掲】将来、自分の住んでいる地域に役に立ちたい	82.9%	● 1.70	● 15.79	83.8%	● -0.83	● 6.59	77.4%	● -7.20	■ 16.1%	85.7%	● 10.24	● 8.52	-	-	-	-
60 【再掲】地域文化や暮らしを、自らの手で未来に伝えたい	71.8%	● -2.03	● 13.46	73.0%	● -6.51	● 8.06	58.1%	● -21.42	■ 9.7%	79.6%	● 6.01	● 14.68	-	-	-	-
88 この地域を、将来暮らす場所としておすすめできる	74.4%	-	● 4.81	70.3%	-	-	64.5%	-	-	83.7%	-	-	-	-	-	-
89 日本の将来は明るいと思う	56.4%	-	● 10.08	56.8%	-	-	45.2%	-	-	63.3%	-	-	-	-	-	-

● 10pt以上の増加 ● 0~10ptの増加 ● 減少

令和4年度実施教育課程

	1 年		2 年				3 年			
	地域アウトドア スポーツ類型	アウトドア スポーツ系	地域創造系		アウトドアスポー ツ系	地域創造系				
			人文科学類型	自然科学類型		人文科学類型	自然科学類型			
1	現代の国語(2)		現代文B(2)				現代文B(2)			
2										
3	言語文化(2)		古典B(2)				古典B(2)			
4										
5	地理総合(2)		日本史B(4) 地 理B(4)				世界史A(2)			
6										
7	歴史総合(2)						日本史B(3) 地理B(3)			
8										
9	数学Ⅰ(3)		体育(3)				体育(2)			
10										
11										
12	数学A(2)		保健(1)				コミュニケーション英語Ⅱ(4)			
13										
14										
15	化学基礎(2)		化学(3)							
16	体育(3)		コミュニケーション英語Ⅱ(3)				英語表現Ⅱ(2)			
17										
18							【グラフィック デザイン】(3)	【時事現代社会】(3) 生物(3)	【化学探究B】(3)	
19	保健(1)		英語表現Ⅱ(2)							
20	音楽Ⅰ(2)									
21	美術Ⅰ(2)									
22	英語コミュニケーションⅠ(3)		数学Ⅱ(2)	数学Ⅱ(4)	数学Ⅱ(4)		科学と人間生活 (2)	国語表現(2) 【化学探究A】(2)	物理(4)	
23			【スポーツ実践 Ⅰ】(1)					【冒険教育Ⅱ】 (2)		【基礎英語】(2)
24			【生涯スポーツ 探究Ⅰ】(1)							
25	論理・表現Ⅰ(2)		【国語探究】(2) フードデザイン(2)		数学B(2)		【スポーツ実践 Ⅱ】(1)	【英語探究】(2)	【基礎からの数学】 (4)	
26							【生涯スポーツ探 究Ⅱ】(1)			
27	家庭基礎(2)		【冒険教育Ⅰ】 (2)	【基礎英語入 門】(2)	生物(2)		数学Ⅱ(2)	【古典文学講 読】(2)	数学Ⅲ(6)	
28										
29	情報Ⅰ(2)		科学と人間生活(2)		物理基礎(2)		前期:物理基 礎(2)/後 期:物理(2)	選択(2) 【ファンダメンタルスピーチ】(2) 子どもの発達と保育(2) 【日本史探究】(2) 【地理探究】(2) 【スピーチ】(2)		
30										
31	【協働のまちづくり】(1)		総合的な探究の時間(1)				総合的な探究の時間(1)			
32	ホームルーム(1)		ホームルーム(1)				ホームルーム(1)			
33	【地域学入門】(1)	【地域スポーツⅠ】(1)	【地域探求Ⅰ】(1)(地域創造系)				【地域スポーツⅡ】(1)	【地域探求Ⅱ】(1)(地域創造系)		
	地域アウトドア スポーツ類型	アウトドア スポーツ系	人文科学類型		自然科学類型	アウトドアスポー ツ系	人文科学類型	自然科学類型		

()内の数字は、週あたりの時間数
【 】は、学校設定科目



教育指針「人みな使命あり」石碑

兵庫県立村岡高等学校

普通科（地域アウトドアスポーツ類型）

〒 667-1311 兵庫県美方郡香美町村岡区村岡2931
[TEL] 0796-94-0201 [FAX] 0796-94-0203
[E-mail] Muraoka_hs@pref.hyogo.lg.jp

